

# 第10回 第4次静岡市総合計画策定会議

日時：令和4年7月14日（木）

10時30分から12時00分

会場：オンライン会議（各執務室）

1 開会

2 市長挨拶

3 議題

(1) 基本構想・基本計画原案(パブリックコメント用資料)について 資料1

4 報告事項・その他連絡事項

(1) 4次総策定に関するシンポジウムの開催について 資料2

(2) 今後のスケジュール 資料3

5 閉会

次回会議（予定）

・ 9月26日（月）13:00～14:30 第11回策定会議



## 4次総 基本構想・基本計画原案に係るパブリックコメントの実施について

## 1 目的

4次総の基本構想・基本計画の原案を公表し、幅広く市民意見を聴取するためのパブリックコメントを実施する。得られた市民意見を参考に、計画の修正作業を進め、令和4年11月議会の議案上程を目指す。

## 2 パブリックコメント実施期間

令和4年8月1日（月）から8月31日（水）まで

## 3 パブリックコメント実施にあたってのポイント

## (1) 「骨子案」に修正を加えた「原案」として公表

3月に実施した1回目のパブリックコメントでは、「骨子案」として公表し、意見聴取を行った。今回は、「骨子案」に対する市民意見を取り込み、より内容を具体化した「原案」として公表し、パブリックコメントに付す。

## (2) できる限り見やすい資料として工夫

3月のパブリックコメントでは、「資料に確認すべき点が多く分かりにくいいため、気軽に意見を出せない」との意見が寄せられた。このため、できる限り写真や図などを含めた見やすい資料となるように配慮する。

また、基本構想、基本計画の具体的内容など、意見聴取したい項目は資料の前半部分に集中して掲載し、時代の潮流、人口フレーム、財政状況といった情報は、資料の後半部分に参考資料として掲載することで、読み進めやすさに配慮する。

## (3) 分野別計画・区役所の取組を中心に意見を聴取

3月のパブリックコメントでは、3次総の取組の評価や、4次総の全体的な構成や考え方（主に基本構想など）を中心に市民意見をいただいた。

今回のパブリックコメントでは、具体的な取組内容である、10の分野別計画や区役所の取組を中心に、市民意見を聴取していく。

なお、分野横断的な重点政策については、7つの柱を5つの政策に見直したことから、今後ロジックモデルを作成し政策体系を整理していく必要がある。このため、パブリックコメント資料ではアウトラインのみ示すものとする。

## 4 基本構想・基本計画原案(パブリックコメント用資料)

資料1-2 のとおり

## 5 第9回策定会議及び電子会議室での意見への対応(分野別計画及び区役所の取組)

資料1-3 のとおり

## 6 パブリックコメント実施に係る広報及び関係者への周知

資料1-4 のとおり

## 【参考】パブリックコメント用資料 構成の推移

4次総骨子案(R4.3実施) の構成		4次総原案(R4.8実施) の構成(案)		※参考 3次総パブコメ (H26.8実施)の構成	
内容	ページ数	内容	ページ数	内容	ページ数
目次	1	目次	1	目次	1
序論(総合計画について・策定体制等)	2	序論	1	全体構成	1
3次総の振り返り	2	骨子案のパブコメ結果・市議会の政策提言	1	人口フレーム	1
基本構想	1	4次総全体像	1	財政状況・行革	1
時代の潮流	1	基本構想	1	アセットマネジメント	1
人口フレーム	1	重点目標	1	基本構想	3
重点目標・横断的視点	1	SDGsの推進・横断的視点・基本認識	1	重点プロジェクト	9
(仮)7つの柱	1	分野別計画	21	分野別計画	22
分野別計画	1	分野横断的な重点政策	2	都市構造軸	1
4次総全体構成	1	区役所の取組	4	-	-
用語集	1	参考資料(策定体制・時代の潮流・人口フレーム・財政状況・用語集等)	XX	-	-
-	-	巻末付録	1	-	-
計	13	計	34+XX	計	40

第4次静岡市総合計画  
基本構想・基本計画 原案

「世界に輝く静岡」の実現に向けて

2022.7

Shizuoka City Comprehensive plan

パブリックコメント用資料

目次

<b>00</b>	序論 .....	2
<b>01</b>	骨子案に対するパブリックコメント及び市議会会派からの政策提言への対応 ..	3
<b>02</b>	4次総全体像 .....	4
<b>03</b>	基本構想 ～静岡市が目指すまちの姿～ .....	5
<b>04</b>	基本計画	
	－ 重点目標 .....	6
	－ SDGsの推進・横断的視点 .....	7
	－ 市政運営の基本認識 .....	7
	－ 分野別計画の取組 .....	8 ～ 28
	－ 分野横断的な重点政策 .....	29 ～ 30
	－ 区役所の取組 .....	31 ～ 34
<b>05</b>	参考資料	
	－ 4次総策定体制 .....	35
	－ 4次総策定スケジュール .....	36
	－ 時代の潮流・人口動態 .....	37 ～ 39
	－ 財政状況 .....	40
	－ 都市デザイン .....	41
	－ 3次総の取組 .....	42 ～ 43
	－ 用語集 .....	44 ～ XX
	－ 別冊資料 .....	XX
<b>06</b>	巻末付録 2030年、私は何をしているだろうか?? .....	XX

# 00 序論

## 1 総合計画とは

- 地方自治体が総合的、計画的に行政運営を行っていくための最も基本となる計画です。長期的な視点でまちの目指す姿を定め、実現に向けた取組などを示す、いわばまちづくりの羅針盤の役割を担う計画であると言えます。
- また、地方自治体が財政規律を堅持し、持続的な都市経営を進めるための指針としての性格も持ち合わせています。

## 2 静岡市の総合計画

- 静岡市では、平成17(2005)年の政令指定都市移行に合わせ、地方自治のあり方やまちづくりの方向性を示す「静岡市自治基本条例」を制定しました。この条例の規定に基づき、これまで第1次から第3次までの総合計画を策定し、市政運営を行っています。

静岡市自治基本条例 抜粋  
(総合計画の策定)

- 第15条 市は、この条例の目的及び理念に基づくまちづくりの具体化のため、基本構想、基本計画及び実施計画から構成される総合計画(以下「総合計画」という。)を策定しなければならない。
- 2 総合計画は、社会経済状況の変化及び新たな行政需要に対応できるよう常に検討を加えられなければならない。
- 3 各行政分野の計画は、総合計画に即して策定されなければならない。



## 3 第4次静岡市総合計画の構成及び期間

- 第4次静岡市総合計画(4次総)は、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成します。
- また、静岡市における各分野の個別計画は、4次総の内容に則して策定していきます。



### 基本構想

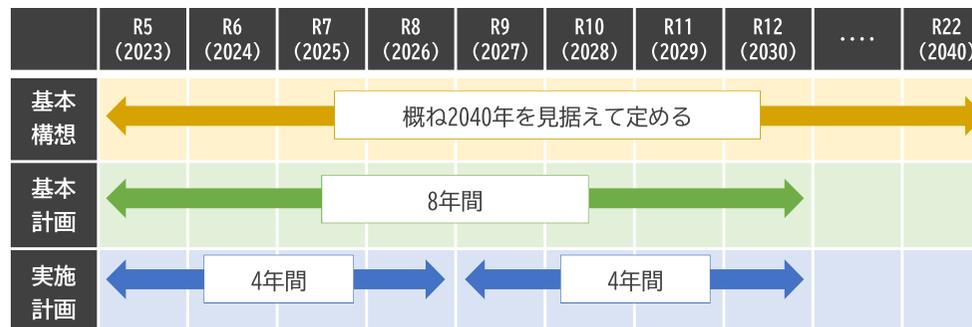
- 長期的なまちづくりの目標や目指す都市像を明らかにするもの
- 4次総では概ね令和22(2040)年を見据える

### 基本計画

- 基本構想の実現のために取り組む政策・施策を定めるもの
- 4次総では令和12(2030)年度までの8年間で計画期間として定める

### 実施計画

- 財政状況と整合を図りつつ、個別の事務事業を定めるもの
- 4次総では前期を4年(令和5~8年度)、後期を4年(令和9~12年度)として定める
- 実施計画は、社会経済情勢等の変化に対応するため、毎年度見直しを行う



# 01 骨子案に対するパブリックコメント及び市議会会派からの政策提言への対応

## 1 パブリックコメントでいただいた主な意見

- 令和4年3月に実施した、4次総骨子案に対するパブリックコメントでは、以下をはじめとした多くのご意見をいただきました。

「世界に輝く静岡」を実現するためには、まず人が輝いていて、その上でまちが輝く、という順序だと思う

交通政策やインフラ整備、教育の水準向上など、当たり前のことに力を入れてほしい

「(仮)7つの柱」は、レベル感が揃っていないように感じる。また、手広く商売しすぎの印象があり、もっと絞ってもよいのではないか

人口の70万人維持を4次総で削除するのは仕方がないと思うが、子育て環境の整備や、若者の流出抑制などの施策を着実に進めてほしい

健康長寿のまちづくりも良いが、高齢者を大切にすれば、子どもや若者世代も大切にすればいい

## 2 市議会会派からの政策提言の主な内容

- 令和4年5月に市議会会派から、4次総に関する政策提言をいただきました。

### 自由民主党静岡市議会議員団

- 未来志向の「5つの政策軸」を打ち立てるべき（①3都心の完成と市域の発展、②経済産業の進化と官民共創、③子ども子育てと健康長寿、④森林文化と地球環境、⑤交流人口拡大とスポーツ文化）
- 市民は、静岡市の経済対策に注目している

### 静岡市議会 志政会

- 人口活力を高めるため、定住人口、交流人口、関係人口の創出に向け静岡市独自のSDGsの数値目標を設定し、地域共創を目指すべき
- 「DX」や「脱炭素」だけが横断的視点ではなく、「市民との協働」「民間活力の導入」「多文化共生の推進」「男女共同参画の推進」も横断的視点と捉えるべき

### 日本共産党静岡市議会議員団

- 社会活力の源泉である定住人口の維持・回復を目指すべき
- 「命を大切に作る静岡市」「子育てしやすい静岡市」「暮らしやすい静岡市」「環境にやさしい静岡市」「ジェンダー平等の静岡市」を政策の柱とするべき

※各提言では、上記の内容の他、具体的に取組むべき事業等についても言及いただいています

## 3 パブリックコメント及び市議会政策提言を踏まえた修正

- パブリックコメントでのご意見や、市議会会派からの政策提言を踏まえ、今回の原案では以下の修正を加えました。

項目	修正内容	原案資料ページ
目指す都市像	2つの目指す都市像の記載を、「静岡市に暮らす市民一人ひとりが、輝いて、自分らしい人生を謳歌できるまち(市民が輝く)」、「静岡市が擁する地域資源を磨き、輝かせ、世界から注目され、人々が集まるまち(都市が輝く)」の順としました。	5ページ
定住人口の考え方	これまでの検討のとおり、4次総では人口目標は掲げないものの、「定住人口」は人口活力の基盤であり重要な要素であるため、引き続き人口減少速度を鈍化させる取組を進めていくことを明記しました。	6ページ
横断的視点	「SDGs」「DX」「脱炭素」を並列で位置付けていた横断的視点について、「SDGs」を上位概念とした上で、「脱炭素」「男女共同参画」「多文化共生」を特に意識すべき横断的視点と整理しました。併せて、「DX」についても「SDGs」の推進を後押しするための横断的視点として位置付けました。	7ページ
分野別計画	4次総の中核は、あくまでも市政全般の取組である分野別計画であることを明記しました。また、分野別計画で経済対策を着実に推進していくことを示すため、「商工・物流」「農林水産」の2分野を分野別計画の最初に位置付けました。	8ページ
(仮)7つの柱	市民にとってより分かりやすい政策とするため、「(仮)7つの柱」を5つの分野横断的な重点政策として再編しました。「歴史文化」「海洋文化」「森林文化」の3つの地域づくりに加え、「健康長寿」に子ども・子育ての観点を加えた「(仮称)健康活躍のまちの推進」と、「まちは劇場の推進」にスポーツ振興の要素を加えた「(仮称)まちは劇場とスポーツの推進」を位置付けました。	29～30ページ

02

4次総全体像

市議会の議決事項

<b>基本構想</b> (P5) 概ね2040年	まちづくりの目標  目指す都市像	<h2 style="color: #FFD700;">「世界に輝く静岡」の実現</h2>			
		「市民(ひと)」が輝く 静岡市に暮らす市民一人ひとりが、輝いて、 自分らしい人生を謳歌できるまち	「都市(まち)」が輝く 静岡市が擁する地域資源を磨き、輝かせ、 世界から注目され、人々が集まるまち		
<b>基本計画</b>  2023～ 2030年度	<b>重点目標</b> (P6) 人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする				
	<b>SDGsの推進</b> (P7) SDGs未来都市・SDGsハブ都市として、SDGsを推進していく				
	<b>横断的視点</b> (P7) 脱炭素社会・多文化共生・男女共同参画・DX	<b>市政運営の基本認識</b> (P7) 質の高い持続可能な行財政運営			
	分野別計画の取組 (P8～28)	<b>① 商工・物流</b> 分野 時代の変化に対応しながら地域資源を磨き上げ、多様なパートナーシップにより、豊かに経済成長を続けるまちを実現します	<b>② 農林水産</b> 分野 南アルプスから駿河湾までの多彩な地域資源を活かし、持続可能な農林水産業を営めるまちを実現します		
		<b>③ 観光・交流</b> 分野 国内外の多くの人々を惹きつけ、多彩な交流や賑わいが生まれるまちを実現します	<b>④ 文化・スポーツ</b> 分野 歴史に育まれてきた多彩なしずおか文化に誇りと愛着を持ち、スポーツ・学びを通して一人ひとりが輝き続けるまちを実現します		
<b>⑤ 子ども・教育</b> 分野 すべての子ども・若者が、夢や希望をもって、健やかで、たくましく、しなやかに育つまちを実現します		<b>⑥ 健康・福祉</b> 分野 誰もが健やかに生きがいをもって自分らしく地域で共に生きることのできるまちを実現します			
<b>⑦ 都市・交通</b> 分野 快適で質の高いまちの拠点と、住環境・交通環境の充実による、誰もが暮らしたい・訪れたい“人中心”のまちを実現します		<b>⑧ 社会基盤</b> 分野 経済の好循環を支え、誰もが安全で幸せに暮らすことのできる持続可能な社会基盤を有するまちを実現します			
<b>⑨ 防災・消防</b> 分野 あらゆる危機から市民の「いのち」と「暮らし」を守り、安全・安心なまちを実現します		<b>⑩ 生活・環境</b> 分野 人と自然が共生し、将来にわたり豊かな営みを続けられるまちを実現します			
<b>分野横断的な重点政策</b> (P29～30)	(仮称)歴史文化の地域づくり	(仮称)海洋文化の地域づくり	(仮称)森林文化の地域づくり		
	(仮称)健康活躍のまちの推進 【健康長寿+子ども・子育て】	(仮称)まちは劇場とスポーツの推進 【まちは劇場+スポーツ振興】			
<b>区役所の取組</b> (P31～34)	「効率的で利用しやすい行政サービスの提供」 「地域と一体となったまちづくりの推進」 に取り組む				
<b>実施計画</b>	基本計画に基づく個別の事務事業				

## 03 基本構想 ～静岡市が目指すまちの姿～

### 1 策定の目的

時代は今、かつてないほどの目まぐるしい速さで変化を続けています。

世界情勢は刻々と変わり、地球規模での気候変動による環境問題が深刻化し、また我が国の人口減少、少子高齢化は、依然として進行を続けています。こうした変化に対応するため、様々な科学技術の発展が進み、私たちの生活や働き方は大きく変容しつつあります。この先も、世の中で起こる変化に対して、私たちは柔軟かつ迅速に対応していかなければなりません。

しかし一方で、どれだけ社会が変化し、技術が進歩したとしても、私たちが内面に秘める本質や、人間らしい暮らしを求める思いは変わることはありません。

私たちは今、形あるものに価値が置かれ重視された「成長・拡大」の時代を抜け、情報や体験、心の豊かさといった新たな価値観のもと、個人の幸せを大切にする「成熟・持続可能」を追求していく時代にいます。

こうした時代にあって、静岡市が今後、市民のためにどのようなまちを目指すのか。静岡市の未来を切り拓く指針とするため、基本構想を定めます。

### 2 まちづくりの目標

市民一人ひとりが幸せに満ちた暮らしを営むとともに、静岡市の地域資源を最大限に活かし、世界中から人々を呼び込むことで持続的な経済成長を図っていく、すなわち「『世界に輝く静岡』の実現」をまちづくりの目標に掲げます。

〔背景〕

静岡市は、静岡県のほぼ中央に位置し、北に標高3,000m級の南アルプスの壮大な山々が連なり、南に水深2,500mの日本一深い駿河湾が広がる、類い稀な自然を有しています。一年を通じた温暖な気候と豊富な日照時間がもたらす住みやすい生活環境の下、長い歴史において、先人たちにより多彩な文化が培われてきました。

古くは登呂遺跡に代表される弥生時代から、今川文化が花開いた室町・戦国時代を経て、大御所徳川家康公の時代には駿府城が築かれました。また、東西交通の要衝として発展した東海道二峠六宿は、現在も地域の核となっています。こうした長い歴史と地勢的な利点から、多くの人が行き交い、多様な産業が育まれてきました。

これらの背景のもと、“商都”として栄えてきた静岡都心、特定重要港湾の清水港を擁する“港湾都市”である清水都心、教育機関が集積する草薙・東静岡副都心の各拠点も核となり、高度な都市機能を備えた静岡県中部の中核都市として発展を遂げています。

このように、静岡市は、山、海、川といった豊かな自然環境や、利便性の高い都心部、さらには歴史、産業、文化など、世界中の魅力的な都市にも決して引けを取らない、貴重な地域資源を有しています。

こうした地域資源を活かしながら、人口や産業が過度に集積し、時間の流れが急速に進む大都市ではなく、一定の経済力を有し、固有の歴史や文化、自然と調和した、世界でオンリーワンの都市を目指していくため、まちづくりの目標を「『世界に輝く静岡』の実現」としました。

### 3 まちづくりの目標を達成するために目指す都市像

「『世界に輝く静岡』の実現」を達成するために、次の2つの都市像を目指します。

- ・静岡市に暮らす市民一人ひとりが、輝いて、自分らしい人生を謳歌できるまち
- ・静岡市が擁する地域資源を磨き、輝かせ、世界から注目され、人々が集まるまち

### 4 目指す都市像の実現に向けた取組

目指す都市像を実現するために、この基本構想に則した基本計画を策定し、政策・施策を円滑かつ着実に推進していきます。

推進にあたっては、市民、企業、行政が互いに手を取り合い、あらゆる場面で活躍できるシチズンシップに富んだ人材を育て、新たな価値を生み出しながら取り組んでいきます。

加えて、国籍や性別、障がいの有無など、人々の多様性を尊重しつつ、私たちが暮らす地球の豊かな環境や生態系を守りながら、経済、社会、環境が調和したまちづくりを進めます。

そして、静岡市を訪れ静岡市と関わる人々の輪を広げ、まちの活力を高めていきます。



## 04 基本計画 — 重点目標

### 1 重点目標設定の考え方

- 3次総では、都市活力の源泉の一つである「人口規模」を最重要視し、「2025年の総人口70万人維持」を基本計画における最大の目標として掲げ、取組を進めてきました。
- しかしながら、3次総期間においても、国全体での少子高齢化や、東京一極集中の動きは進展を続けました。今後も、中長期的な人口減少は避けられないものと予測されています。
- 一方で、近年のICTの発展に伴い、テレワークやオンライン会議の導入といった働き方の変化や、二地域居住などの暮らし方の変化が生じており、新型コロナウイルスの感染拡大がそれを加速させました。
- 今や、世界中の人々が、住む場所や働く場所に捉われず、多様な地域とつながり合い、関わり合っています。言い換えれば、活発な都市活動を維持していくためには、「定住人口」のみに頼らない時代を迎えていると言えます。
- こうした状況を踏まえ、「定住人口」に加えて、静岡市を訪れ、静岡市と関わる人、つまり「交流人口」や「関係人口」にも目を向け、総合的に都市活力の維持・向上を図り、「『世界に輝く静岡』の実現」を目指していく必要があります。
- この考え方のもと、4次総の基本計画における重点目標として、「人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする」を掲げます。また、目標の達成度を測るための指標を新たに複数設定します。

**重点目標** 人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする

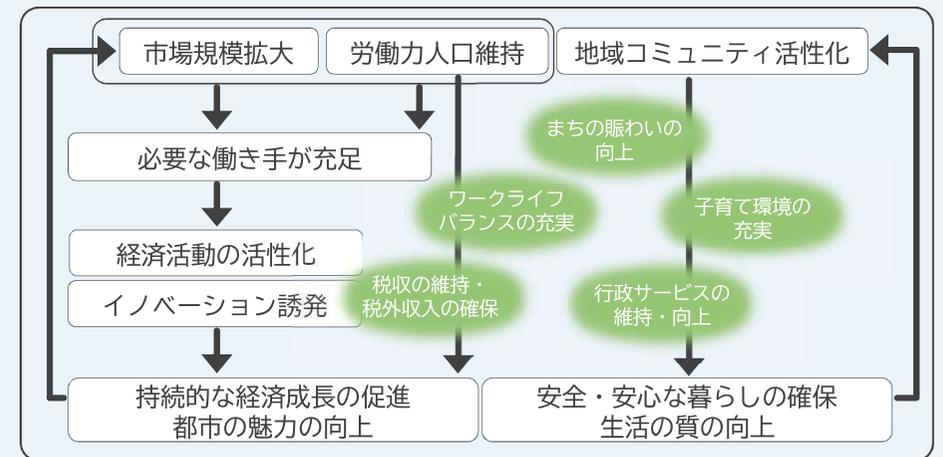
**指標(例)** (パブリックコメントでの意見なども参考に、基本計画策定と合わせて決定します)

- ▶ 静岡市にずっと住み続けたいと感じる市民の割合
  - ▶ 心身的、経済的に豊かな暮らしが送れていると思う市民の割合
  - ▶ 静岡市に愛着を持っている市民の割合
  - ▶ 都市全体に活気があり、人を惹きつける魅力があると思う市民の割合
  - ▶ 市内GDPなどの経済指標
- 「暮らし」の豊かさ
- 「まち」の豊かさ

### 2 定住人口の考え方

- 「定住人口」は都市活動の基盤であり、「人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする」ための重要な要素であることから、引き続き、人口減少を食い止めるための取組を進めていく必要があります。
- 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が2018年に示した、最新の人口推計では、2030年の本市の人口は646,098人となっています。
- 3次総においては、子育て環境の充実や、移住・定住の促進などに取り組み、平成29年と令和2年には社会増減がプラスとなりました。また、社人研の人口推計は、2013年時点と比較して2018年の推計が大幅に上方修正されるなど、取組の成果が表れています。
- 4次総においてもこうした施策を推進し、人口減少速度を鈍化させることに取り組んでいきます。

#### 重点目標が目指す姿イメージ



人口活力が向上し、まちと暮らしが豊かになる

(内閣府 経済財政諮問会議「選択する未来」会議資料などを参考に静岡市作成)

## 04 基本計画 — SDGsの推進・横断的視点 / 市政運営の基本認識

### 1 SDGsの推進・横断的視点

- 地球温暖化に起因する異常気象や自然破壊、貧困、格差、差別など、世界的な諸課題に対応するため、2015年の国連サミットで採択されたSDGsは、日本国内でも今や多くの企業や個人の間で認知され、取組が進められています。
- 静岡市は平成30(2018)年に、内閣府から「SDGs未来都市」に、国連からアジア地域で唯一の「SDGsハブ都市(Local 2030 Hub)」に選定され、SDGsの先進都市として更なる取組の推進が求められています。
- 4次総においては、SDGsを総合的に推進するとともに、SDGsに含まれる「脱炭素社会の実現」「多文化共生の推進」「男女共同参画の推進」を、特に意識すべき横断的な視点として位置付け、国際社会への責任を果たし、時代を先導するまちづくりを進めていきます。
- 加えて、SDGsが目指す持続的な社会経済の実現を後押しするため、デジタル技術を活用して行政サービスや市民生活、ビジネスなどあらゆる場面での変革を促す「DXの推進」も横断的な視点として位置付けます。

SDGsの推進と横断的視点 ～時代の潮流や国際社会からの期待への対応～



静岡市をより世界に輝かせ、持続可能な都市としていきます

### 2 市政運営の基本認識

- 市政運営にあたっては、地域づくりの主体である市民や、地域で活動する団体、企業、行政が、それぞれの役割を認識し、地域の課題解決に向けて連携していくことが不可欠です。
- また、市職員の資質の向上を図りながら、多様化する市民ニーズに的確に応えられる組織づくりを進めるとともに、民間活力の導入や新たな財源の確保などを通じて、財政基盤を堅持していくことが必要です。
- こうした考えのもと、市政運営に必要な基本認識を定め、施策の効果的かつ効率的な推進を図っていきます。

市政運営の基本認識 ～質の高い持続可能な行財政運営の実現～

<p><b>1 人とつながる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民や市民団体、民間企業、周辺自治体等の多様な主体との連携</li> <li>● 市民との協働を通じた、シチズンシップに富んだ人材の育成</li> <li>● 積極的かつ効果的な情報発信</li> </ul>	<p><b>2 しごとの仕組みを変える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 行政のデジタル化による業務プロセスの改革・業務の質の向上</li> <li>● 職員がライフステージに応じて柔軟に働くことができる環境の整備</li> </ul>
<p><b>3 人や組織が変わる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員の当事者意識の醸成による、仕事の意義や組織の役割を再認識する機会の創出</li> <li>● 変化する行政需要にしなやかに対応できる組織運営の推進</li> </ul>	<p><b>4 財政基盤を堅持する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口減少社会を踏まえた総資産の適正化、施設の長寿命化の促進などのアセットマネジメントの推進</li> <li>● 民間活力の導入や新たな財源確保による質の高い公共サービスの提供</li> </ul>

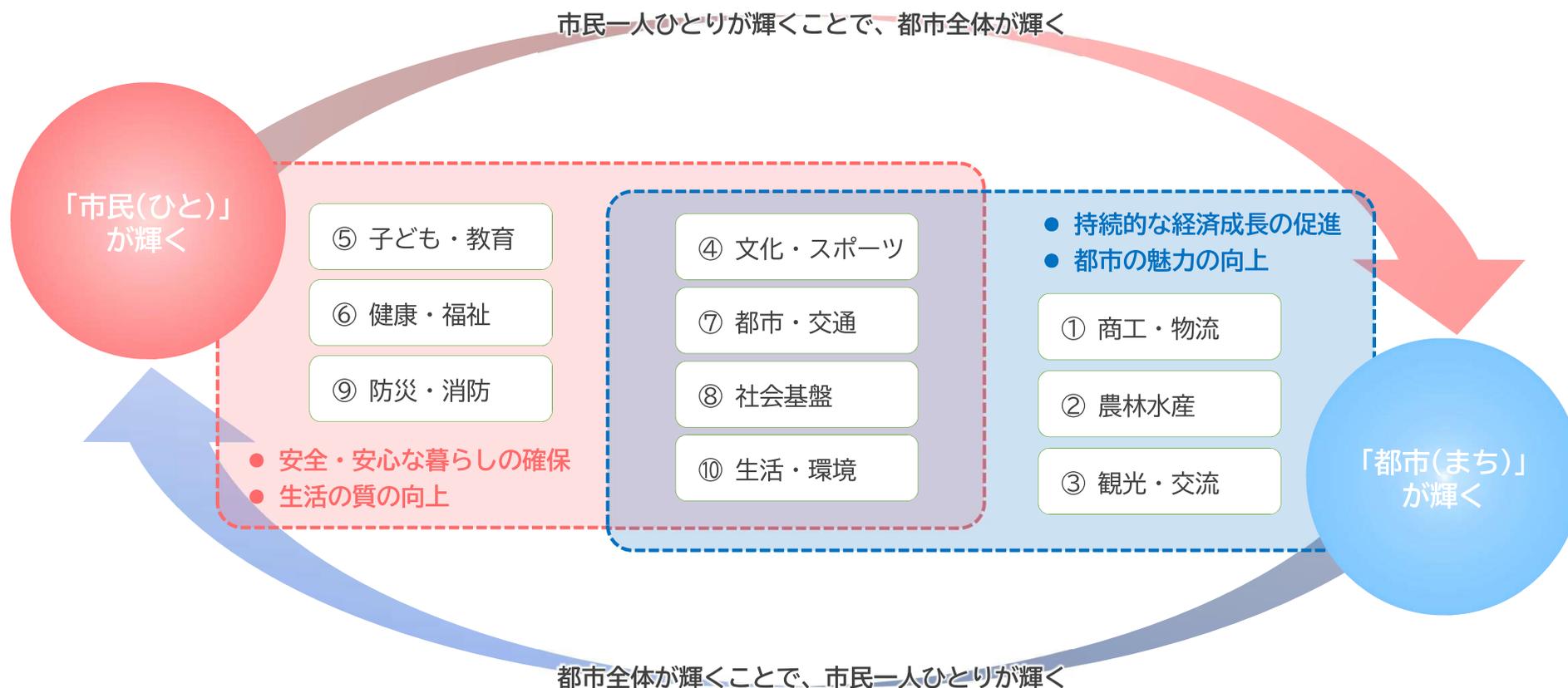
※第4次行財政改革推進大綱との整合を図る

施策の効果的・効率的な推進を下支えしていきます

## 04 基本計画 — 分野別計画の取組

### 分野別計画の取組の考え方

- 重点目標である「人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする」の達成に向けた中核をなす取組として、10の分野別計画を定めます。
- 分野別計画は、各々が基本構想で定める2つの都市像の実現に寄与する役割を担っています。「市民(ひと)が輝く」ために必要な「安全・安心な暮らしの確保」と「生活の質の向上」、そして、「都市(まち)が輝く」ために必要な「持続的な経済成長の促進」と「都市の魅力の向上」です。
- 10の分野別計画の取組を総合的に推進することで、市民(ひと)が輝き、都市(まち)が輝く好循環を創出していきます。



## 03 基本計画 — 分野別計画の取組

### ① 商工・物流分野

#### 1 2030年の目指す姿

時代の変化に対応しながら地域資源を磨き上げ、多様なパートナーシップにより、豊かに経済成長を続けるまちを実現します

#### 2 分野の役割

商工業・物流業は消費や雇用といった地域の経済活動を支え、市民の豊かな暮らしや都市の発展に欠かせない重要な産業です。

本市は東西の交通の要衝としての地理的要件や、国際拠点港湾に位置付けられる清水港を有することから、人や物が盛んに交流する商業都市、港湾都市として栄えてきました。

また、駿府の職人の技術を受け継ぐ伝統工芸と、それらを礎とした家具、木製品、プラスチックモデルなどの地域産業が根付く一方、清水港を中心に造船業、食品関連産業、機械器具製造業などが発展するなど、その歴史のなかで、多様なモノづくりの拠点がカタチづくられています。

幅広い分野の業種が多彩にバランスよく集積していることは、本市の大きな強みであり、それらの多くの企業の活躍に支えられ、本市経済は成長を遂げてきました。

しかしながら、コロナの経験や人口減少による人材不足といった社会経済情勢の変化の中で、これからも人々が生き生きと働き、豊かに暮らしていける都市として発展を続けていくためには、本市の歴史や文化の中で培われてきた地域資源を最大限に活用しつつ、経済成長の主役である企業をはじめとする多様な関係者との協力関係を強化していく必要があります。

そこで本市は、時代の変化に対応しながら地域資源を磨き上げ、多様なパートナーシップにより、豊かに経済成長を続けるまちを実現していくことを目指します。

#### 3 関連するSDGsのゴール



#### 4 現状と課題

##### (1) 時代の変化への適応と地域資源の活用

コロナ禍の経験を転換点として人々の価値観や世界経済情勢の変化が大きくなっています。

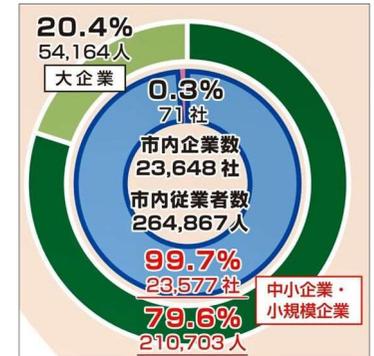
多様な関係者と本市の課題や強みを共有しながら、新しい考え方や技術を積極的に取り入れることで、地域経済の成長を表現していく必要があります。



##### (2) 地域を支える中小企業の発展

市内企業の99.7%は中小企業に分類され、その中で市内従業者の約8割が働いています。

地元に着目した中小企業は経済、雇用、まちづくり等の担い手として重要な役割を持っています。本市の経済が成長を続けるには、中小企業の活躍が欠かせません。



【出典】中小企業庁 公表資料 (平成30(2018)年11月) を加工

##### (3) 社会基盤の整備の進展と更なる利活用

中部横断自動車道の開通により、山梨県、長野県方面への交通アクセスが向上し、清水港では新興津戸頭岸壁延伸事業など、港湾機能強化に向けた整備が進められており、物流機能のさらなる高度化が図られています。

物流業の成長に向けては、整備された清水港の輸送能力に見合う貨物の誘致に向けた活動を推進し、広域物流の実現を図る必要があります。



##### (4) 生産年齢人口の減少による人材不足の懸念

平成27年には418,231人だった生産年齢人口は令和12年には365,053人まで減少するとの推計が示されており、人手不足の深刻化が危惧されます。

企業が求める人材の育成と多様な価値観を尊重した働きやすい環境づくりを進めるとともに、人と企業の出会いの創出により、地域における雇用を確保していく必要があります。



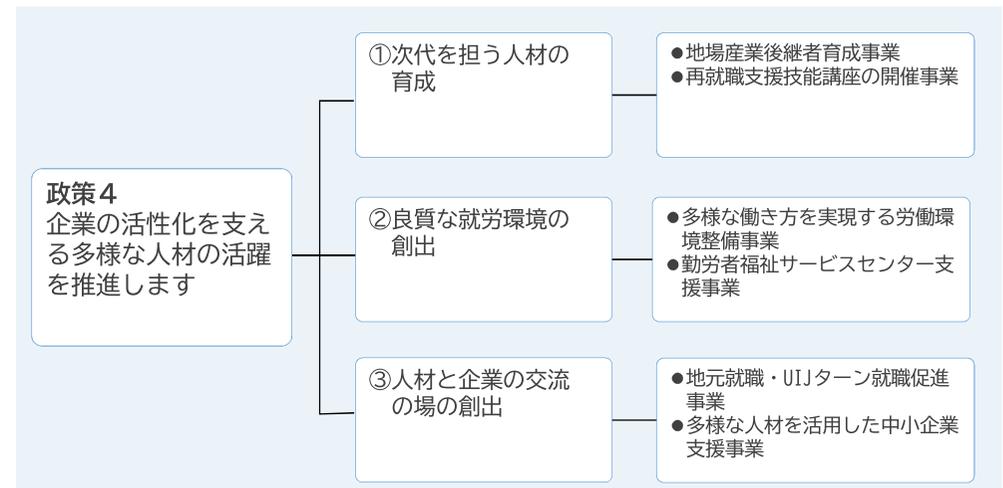
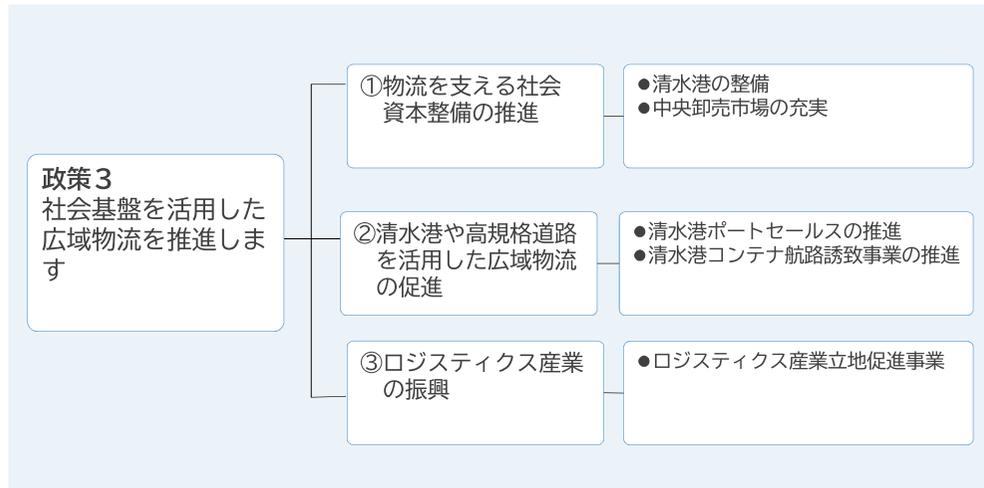
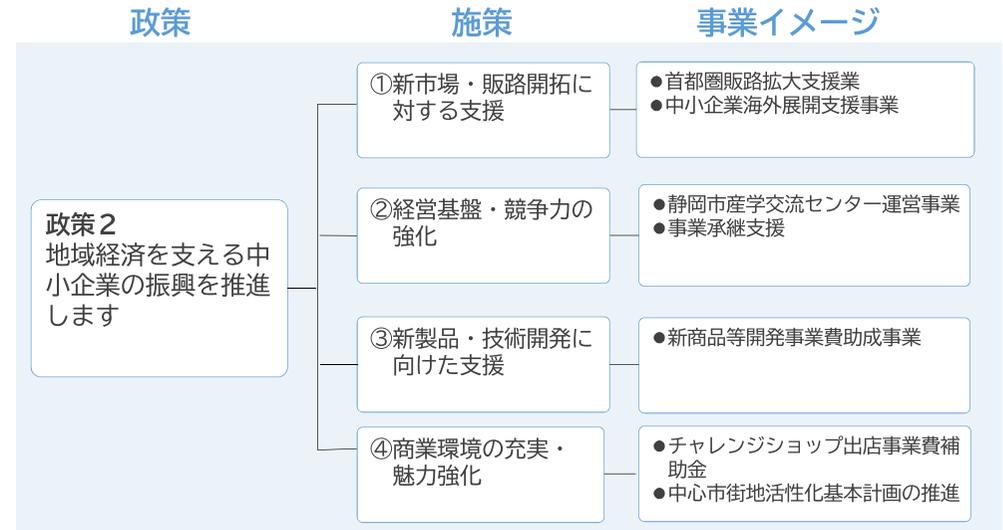
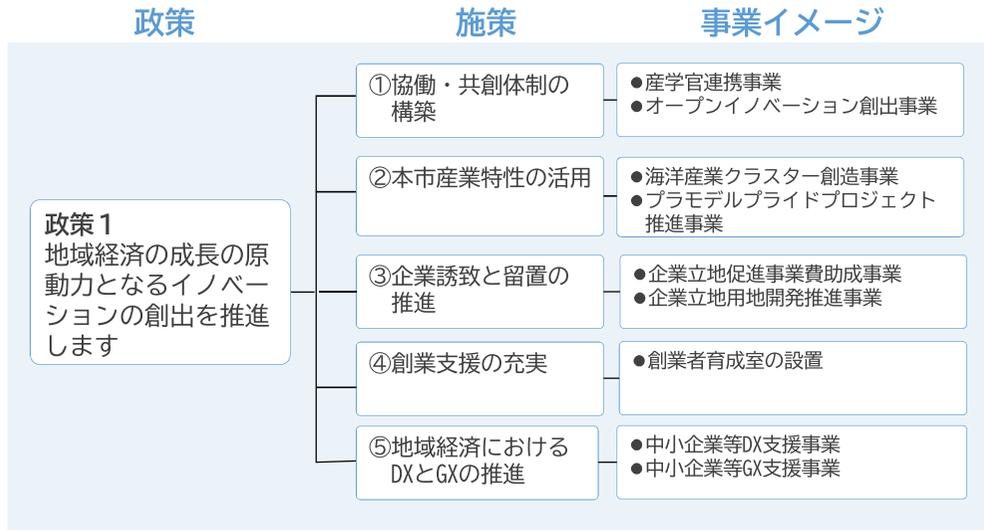
【出典】各年国勢調査(総務省) 日本の地域別将来人口推計(国立社会保障・人口問題研究所)を加工

## 5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① 商業、製造業の市内総生産額
- ▶ 指標② 清水港のコンテナ取扱個数、市場取扱量
- ▶ 指標③ 働きやすいと思う人の割合

## ① 商工・物流分野

## 6 政策・施策体系図



## 03 基本計画 — 分野別計画の取組

### ② 農林水産分野

#### 1 2030年の目指す姿

南アルプスから駿河湾までの多彩な地域資源を活かし、持続可能な農林水産業を営めるまちを実現します

#### 2 分野の役割

南アルプスから駿河湾までの多彩な地域資源を有している本市にとって、農林水産業は、地域経済の発展と自然環境の保全、良好な景観の形成など重要な役割を果たしますが、所得の減少、高齢化等による担い手不足、それらに伴う耕作放棄地の増加など多くの課題に直面しています。

このような課題に対応するため、人材の育成や生産基盤の構築、ブランド化等により、持続可能な農林水産業への転換をすすめ、将来の担い手が夢を持って農林水産業を営める環境を構築し、農林水産業の持つ生活環境に必要な機能の維持を図っていきます。

#### 3 関連するSDGsのゴール



#### 4 現状と課題

##### (1) 急がれる担い手の育成・確保と受け入れ環境の整備

本市の農林水産業における従事者は年々減少しており担い手の確保や、従事者にとって魅力的な就労環境づくりが求められています。

また、国においては地域にとって必要な人材となる多様な担い手の確保に向けた動きが強くなっています。

このほか、生産物価格の低迷や新型コロナウイルスの感染拡大、ウクライナ情勢等による資材の高騰などを受け、従事者の所得低迷が懸念され今後、省力化や効率化といった次世代型農林水産業への転換が必要とされています。

そのため、スマート農業など先端技術の導入による作業効率の向上や次代を担うビジネス感覚豊かな担い手の育成・支援を進めていく必要があります。



【出典】2020年農林業センサス

##### (2) 作業効率の高い生産基盤の確保と地球環境に配慮した農林水産業の推進

畑地総合整備事業により農地の集約化・平坦化への取組が進められ、主に清水区内では生産性が向上した農地が整備されています。

一方で、本市の農林業の多くは、急傾斜地等小規模で生産性の低い土地で行われており、引き続き農地の集約化・平坦化が求められています。

また、近年の豪雨や気温上昇、黒潮の蛇行などの地球環境変化が農林水産業における重大なリスクの1つとなっており、収量減少や品質低下など生産現場に大きな影響が生じています。

今後は、災害に強く、安全・安心な農林水産施設の整備や従事者と消費者双方の地球環境に対する理解を深めることが必要となっています。

	実施中地区	完了地区	計
葵区	-	1地区 13.6ha	1地区 13.6ha
駿河区	2地区 31.1ha	-	2地区 31.1ha
清水区	3地区 111.0ha	8地区 245.3ha	11地区 356.3ha
計	5地区 142.1ha	9地区 258.9ha	14地区 401.0ha

【出典】静岡市調べ



##### (3) 世界に誇れる地域資源の磨きあげによる静岡市ブランドへの期待

オクシズ等を中心に栽培されているお茶やみかん、わさびなど、温暖な気候や歴史・文化を背景とした全国的にも認知度の高い農産物を有しています。

また、日本で唯一駿河湾（しずまゑ）だけで水揚げされる桜えびや県下有数の水揚げを誇るしらすなど地域固有の水産物があり、世界に誇る資源が充実しています。

しかし、主要な特産物であるお茶などの価格低迷が続いており、お茶やわさびなどの特産品や地域を含めた「静岡市ブランド」の強化や普及が求められています。

今後は、地産地消や消費者ニーズに合わせた商品の高付加価値化、中部横断自動車道の開通を契機とした新たな販路の拡大などに取り組むことが必要となっています。



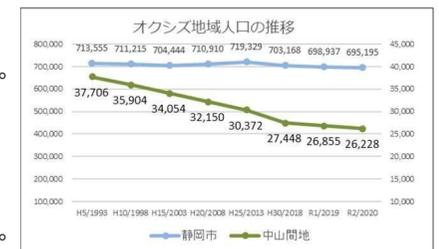
【出典】静岡市調べ（市民アンケート調査）

##### (4) オクシズの地域資源の保全と活用による賑わいづくり

オクシズ地域は、公益的機能を担う森林・農地等を有するだけでなく、お茶やワサビ等の農作物や豊かな自然環境といった地域資源を有しています。

しかし、基幹産業である農林業の低迷や、少子高齢化に伴う人口減少が進み、コミュニティの維持が困難な地域も生じている現状にあります。

そのため、オクシズ地域の持続的な発展と地域で暮らし続けることができる環境の構築を目指し、様々な取組を進めていくことが必要となっています。



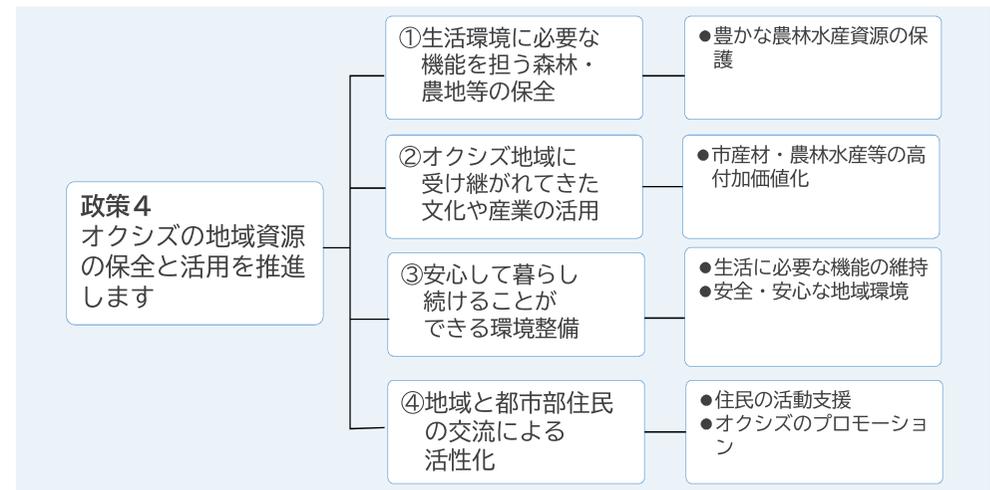
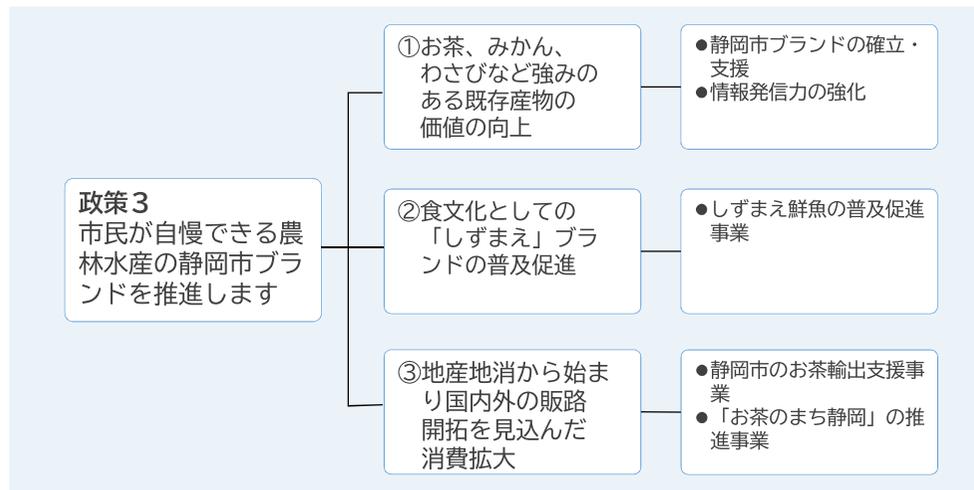
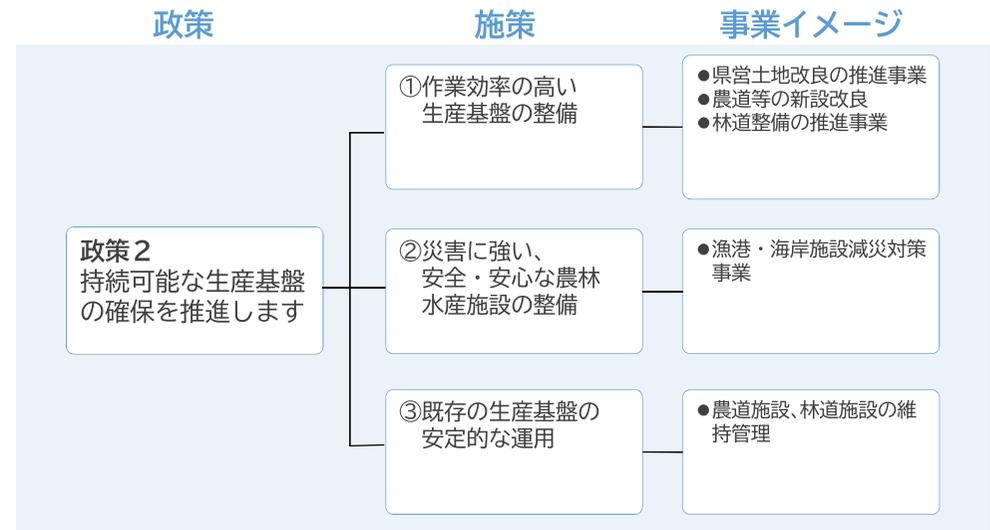
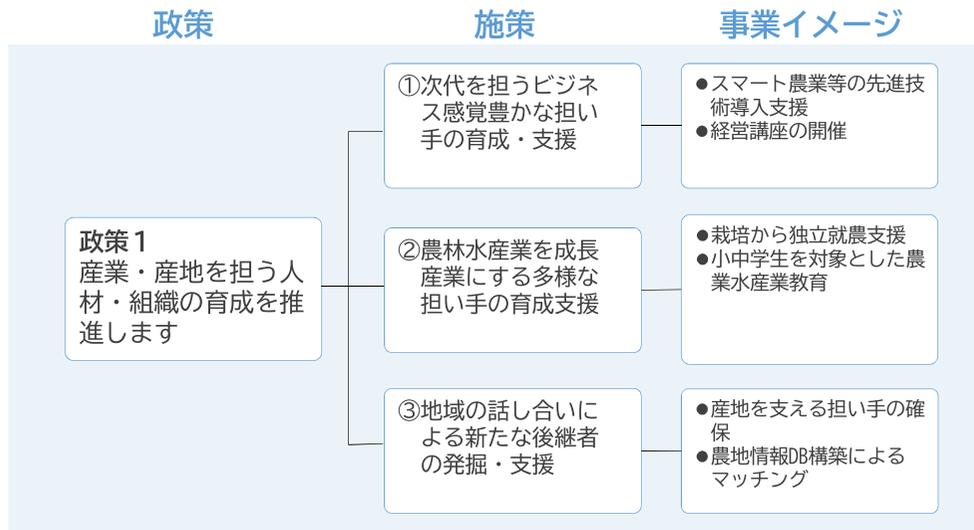
【出典】静岡市調べ（市民アンケート調査）

## 5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① 農水産業における1人当たりの販売額
- ▶ 指標② 市民が市産の農林水産物を国内外に誇れる地域資源であると思う割合
- ▶ 指標③ オクシズ地域に住み続けたいと思う人の割合

## ② 農林水産分野

## 6 政策・施策体系図



## 03 基本計画 — 分野別計画の取組

### ③ 観光・交流分野

#### 1 2030年の目指す姿

国内外の多くの人々を惹きつけ、多彩な交流や賑わいが生まれるまちを実現します

#### 2 分野の役割

観光は、ホテル・旅館、交通機関にとどまらず飲食サービス業や農業・漁業など関連する産業の裾野が広く、さらに観光によってもたらされる消費は地域経済に広く波及し、雇用を生み出すなど重要な役割を果たします。

一方で、環境への配慮や観光と市民生活との調和など、時代の潮流を見据え、SDGsの考えを取り入れた持続可能な観光施策を講じることが求められています。

そこで、本市に存在する地域資源を磨き上げ、将来に渡り地域資源を活かす静岡市ならではのコンテンツを来訪者に提供し、国内外から多くの人々を呼び込むことで、市民との交流を図りながら、地域経済の活性化を図っていきます。

#### 3 関連するSDGsのゴール



#### 4 現状と課題

##### (1)世界に誇れる地域資源の活用による国内外からの誘客への期待

本市には、世界文化遺産富士山の構成資産「三保松原」、日本三大美港「清水港」、ホビー産業など世界に誇れる地域資源が存在します。また、国宝久能山東照宮や駿州の旅日本遺産をはじめとする歴史資源、お茶・マグロ・しずまえ鮮魚などの食、南アルプスの山々等オクシズの豊かな自然、ホームタウンチームを始めとしたスポーツなど、本市ならではの魅力を有しています。

今後は、人々を多く呼び込むとともに、市民の暮らしや自然環境にも配慮をし、将来に渡り住民と来訪者の双方が満足する観光を推進していく必要があります。



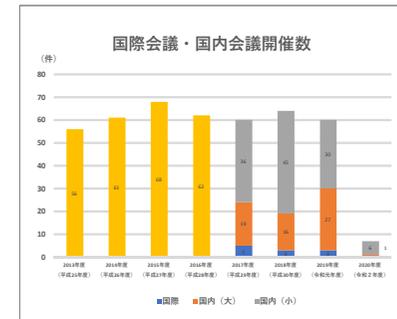
【出典】静岡市調べ

##### (2)効果的な情報発信と社会情勢の変化に対応した誘客と交流の促進

デジタル技術等の進歩などにより、人々が観光情報を入手する方法も大きく変化してきました。観光情報を発信する際には、観光客が情報収集に用いる媒体や、狙うべきターゲットを見極め、効果的・積極的な情報発信を行っていく必要があります。

また、新型コロナウイルス感染症などの影響により、MICEの誘致や海外との交流が困難になりました。しかし、こうした状況下でも、オンライン交流などの新たな交流の方法も見出されてきました。

今後は、このような社会情勢の変化にも柔軟に対応できるような国内外からの誘客や交流の推進が求められています。



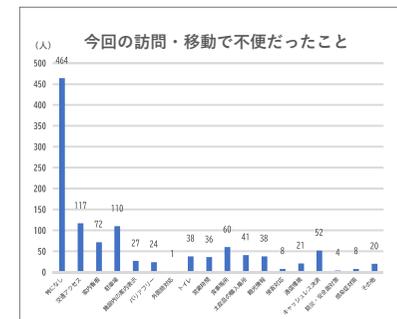
【出典】静岡市調べ

##### (3)来訪者へのおもてなしと再訪を促す取組の充実

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、人々の生活スタイルは大きく変化し、観光の在り方も変化してきました。ポストコロナを見据え、今後は外国人観光客も回復することが想定されます。

快適で安心して観光を楽しんでもらえるように、施設改修のほか、看板の多言語化など、誰にとってもやさしい「おもてなし」を提供することが求められています。

また、魅力ある地域資源同士をつなげ、周遊を促す取組みを進めることで、観光客が静岡市の地域資源に多く触れる機会を創出し、観光客の満足度と再訪意欲を高めていきます。



【出典】するが企画観光局調べ

##### (4)地域の特色に合わせたまちなかの賑わいづくり

地域の特色を活かしたまちは国内外の人々を惹きつけ、活発な交流や賑わいを生み出します。

本市では、3つのグランドデザインを策定し、これらをもとに地域の特色に合わせたまちづくりを進めています。静岡都心では、歴史博物館や大道芸ワールドカップなど数多くの歴史資源や静岡特有の文化資源、清水都心では、海洋文化施設の整備や清水みなと祭りなど清水伝統の海洋文化、草薙・東静岡副都心では、アリーナの誘致などスポーツや文化芸術の集積を活かし、賑わいを創出します。

そして、まちなか同士で連携を図ることで、相乗効果を生み、市域全体の活性化を図っていく必要があります。

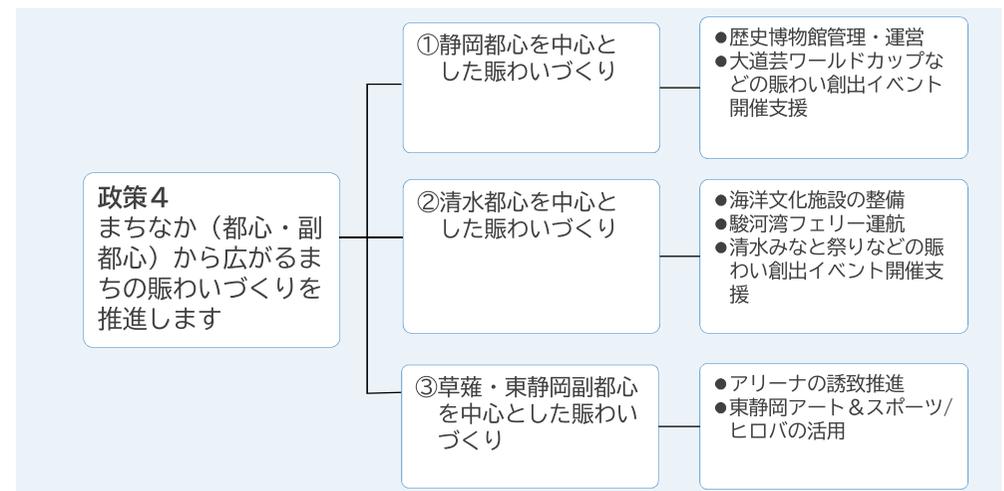
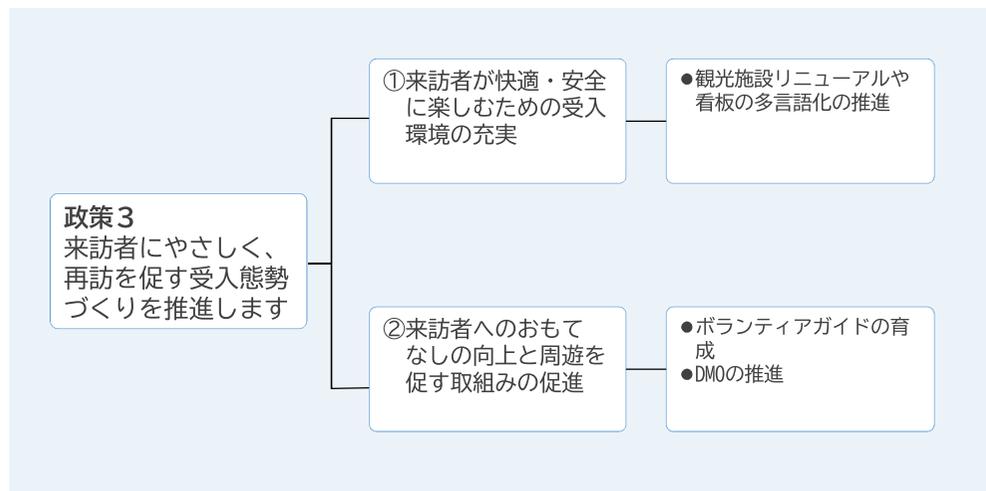
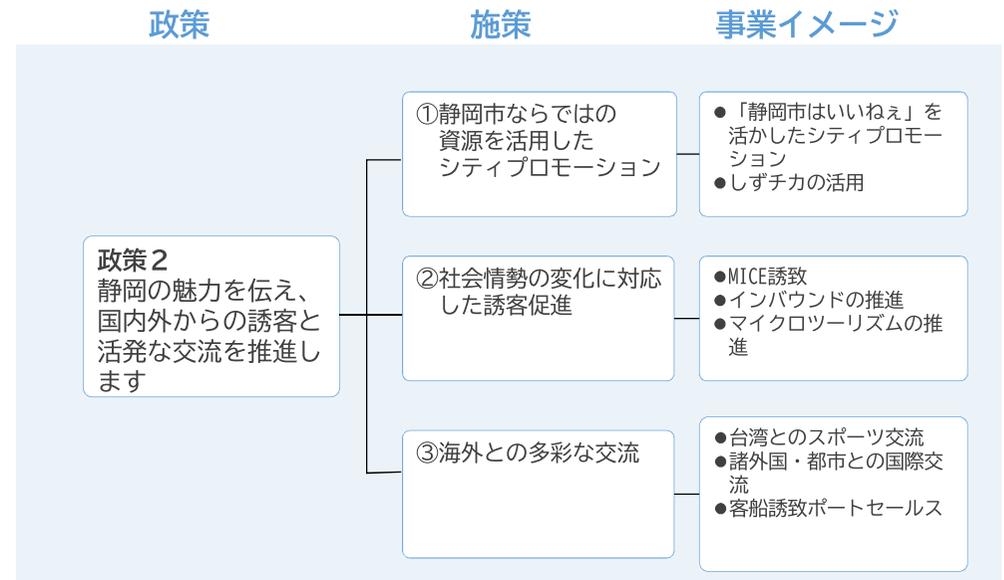
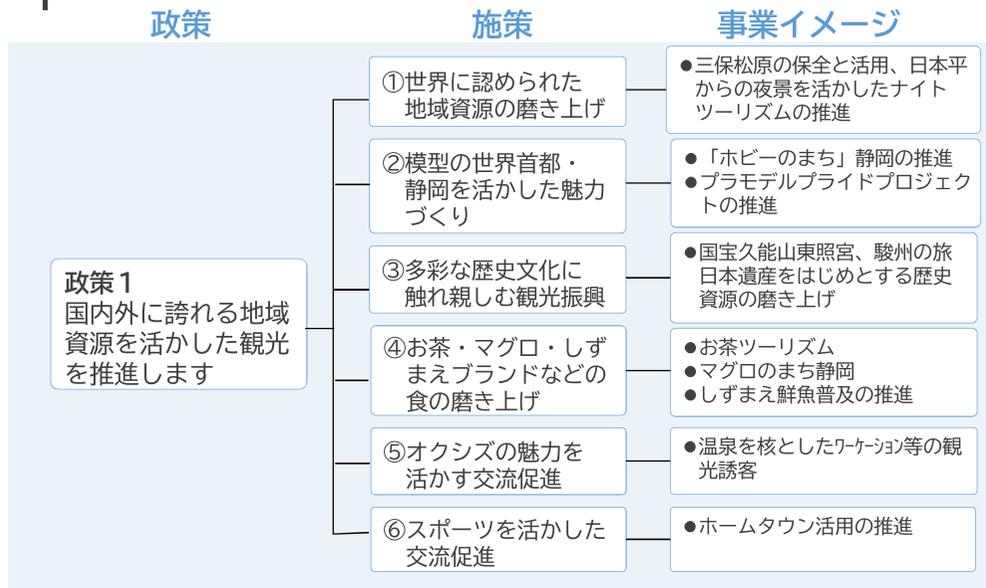


## 5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① 観光交流客数
- ▶ 指標② 観光消費額単価
- ▶ 指標③ 来訪者の満足度
- ▶ 指標④ 来訪者の再訪意向

## ③ 観光・交流分野

## 6 政策・施策体系図



## 03 基本計画 — 分野別計画の取組

### ④ 文化・スポーツ分野

#### 1 2030年の目指す姿

歴史に育まれてきた多彩なしずおか文化に誇りと愛着を持ち、スポーツ・学びを通して一人ひとりが輝き続けるまちを実現します

#### 2 分野の役割

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における宿泊誘致やホームタウン活動の推進により、スポーツに対する市民の関心が高まりを見せてきたとともに、歴史コンテンツやストリートパフォーマンスに触れる多様な機会が増えたことで、文化がより身近なものとなりました。

市民の関心の高まりを機に、スポーツの力を活かした地域の活性化、歴史資源のみがきあげと継承、文化活動を通じた居場所づくり、まちづくりを担う人材づくりを推進します。スポーツ、文化活動、学びの機会から誰ひとり取り残さない取組みにより、生涯を通して一人ひとりが輝き続けることができるまちの実現を目指します。

#### 3 関連するSDGsのゴール

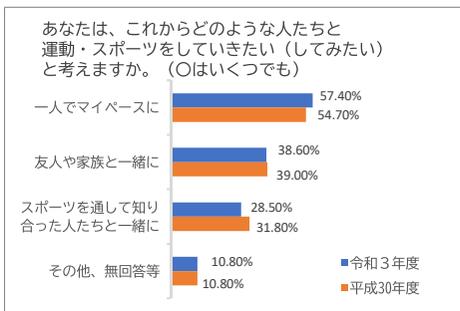


#### 4 現状と課題

##### (1) 多種多様化する需要に応じたスポーツを親しむための機会の創出や環境整備

近年、市民がスポーツに求めるものは、一人ひとりの価値観やライフスタイルの変化に伴い多種多様化しています。様々な世代を対象としたスポーツ教室を開催するなど、スポーツをする機会を提供していますが、時間・場所を選ばず自分のペースでできるスポーツや、気軽に楽しめるスポーツの需要が高まっています。このよう需要の変化に応じ、誰もがスポーツを日常的に親しむための機会を創り出すことが求められており、これに併せて、環境の整備も必要となります。

さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等における宿泊誘致及び交流事業等の実施や、地域で愛されるホームタウンチーム固有の魅力・価値を活用した事業の実施により、スポーツに対する市民の関心が高まりました。そこで、これまで培った交流等を一過性のものとせず、継続的な取組にしていく必要があります。また、ホームタウンチーム特有の強みを生かした取組みが求められています。

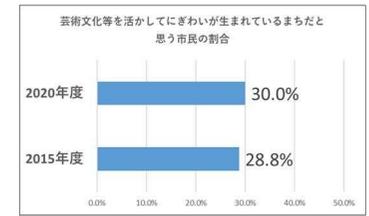
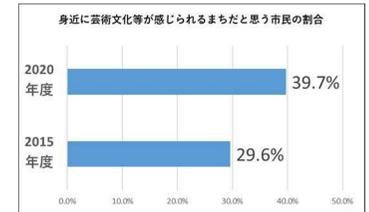


【出典】令和3年度静岡市スポーツ活動・生涯学習に関する市民意識調査

##### (2) 文化等を活かしてにぎわいが生まれるまちだと思ふ割合の伸び悩み

文化施設や、まちなかでは、文化イベントが盛んに企画・開催され、子どもから大人まで文化に触れる機会を創出する環境が整ってきたことで、静岡市が「幅広い世代が文化に触れる機会が増え、文化を身近に感じられるまち」であると考えている市民の割合が上昇しています。

一方で、こうした文化を活かしてにぎわいが生まれるまちだと思ふ市民の割合は高まっていないため、気軽に文化事業に参加できる機会の提供と情報の発信、文化を通じた交流の活性化が求められています。また、文化施設の中には開館後数十年が経過している施設もあることから、老朽化に伴う再整備の他、文化活動を通じた居場所づくりや誰もが心豊かな生活を営むことができるような環境整備が求められています。

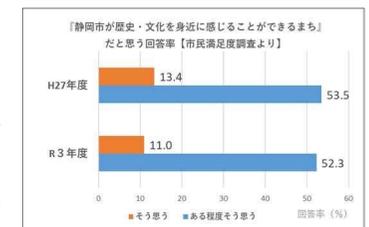


【出典】静岡市調べ

##### (3) 歴史への関心の希薄と伝統文化の担い手の不足

静岡市歴史博物館や駿府城跡天守台野外展示といった歴史文化の魅力発信の拠点整備が進んでいる他、久能山東照宮や静岡浅間神社などの有形文化財の保存修理の支援を推進してきましたが、静岡市が「歴史や文化を身近に感じることができるまち」だと考える市民の割合が高まっておらず、歴史に対する市民の関心が薄れてきています。

また、人口減少・高齢化・過疎化による後継者不足が進み、無形民俗文化財をはじめとした地域の歴史文化や伝統の維持存続は喫緊の課題となっています。歴史文化の国内外への魅力発信によりシビックプライドを醸成するとともに、保存・継承及び活用の推進を通じた地域の歴史文化の魅力向上が求められています。



【出典】静岡市調べ

##### (4) 社会変化に対応するための学びと学んだことを地域や社会に活かす市民の支援

生涯学習を行っている市民の割合は増加していますが、学んだことを地域や社会に活かしている市民の割合や生涯学習施設の利用者数は減少しています。誰もが気軽に学びやすい環境の整備と、学んだ成果を活かすための支援が求められています。

また、長寿命化やDXの進展などの社会経済環境の変化に対応するリカレント教育やリスクリリングといった社会人の学び直しの支援も必要となっています。



【出典】令和3年度静岡市スポーツ活動・生涯学習に関する市民意識調査

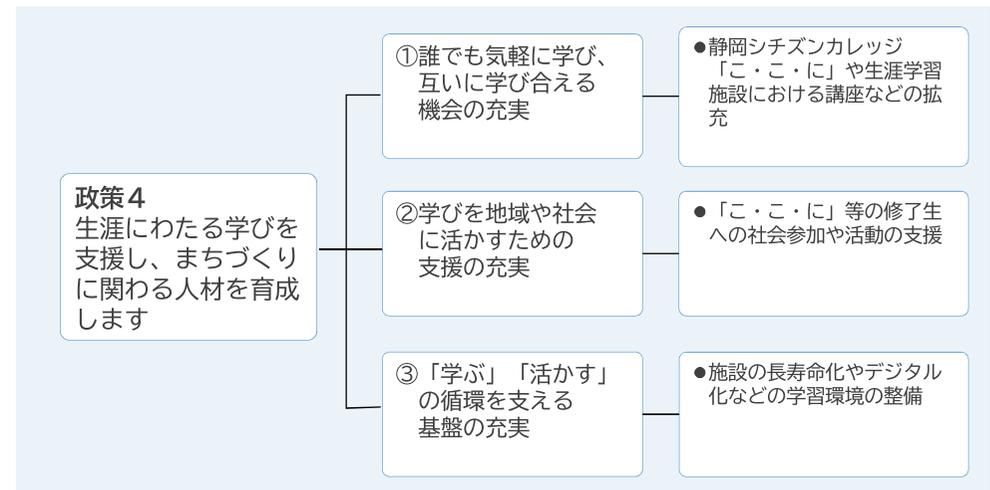
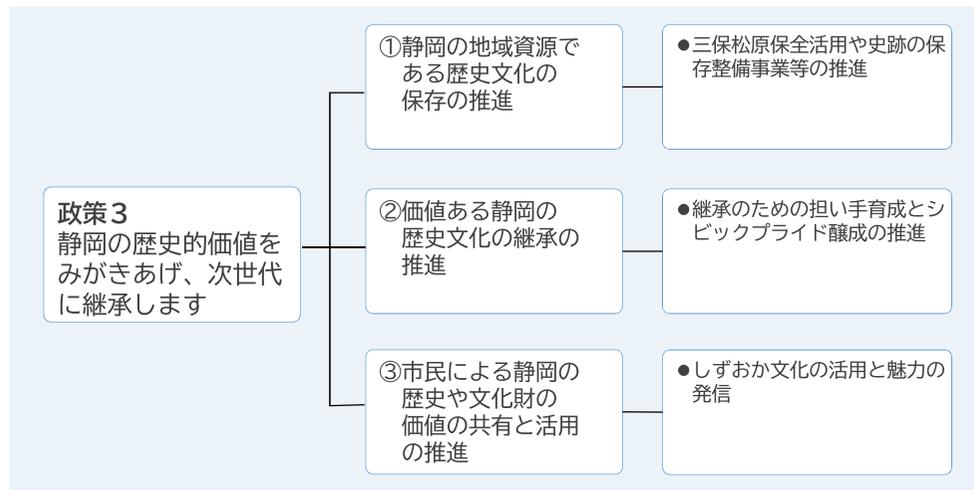
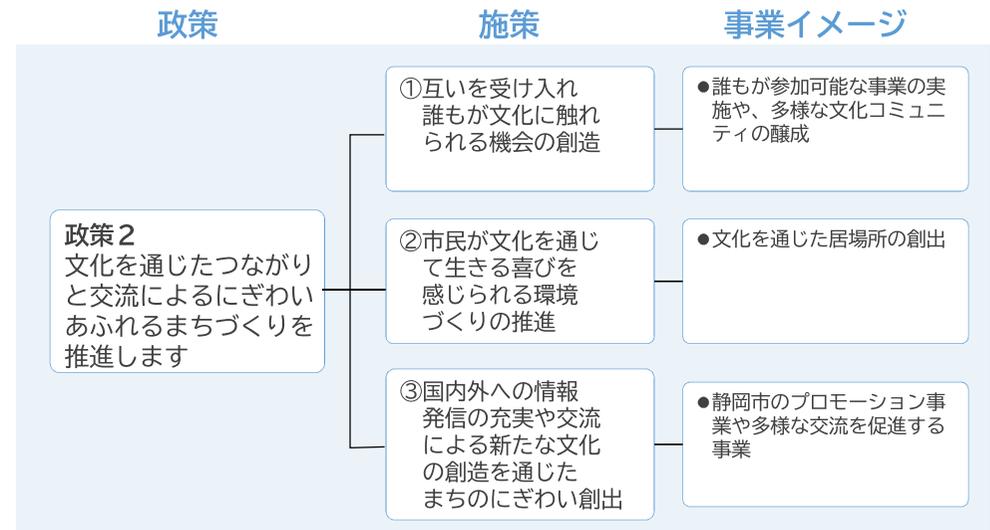
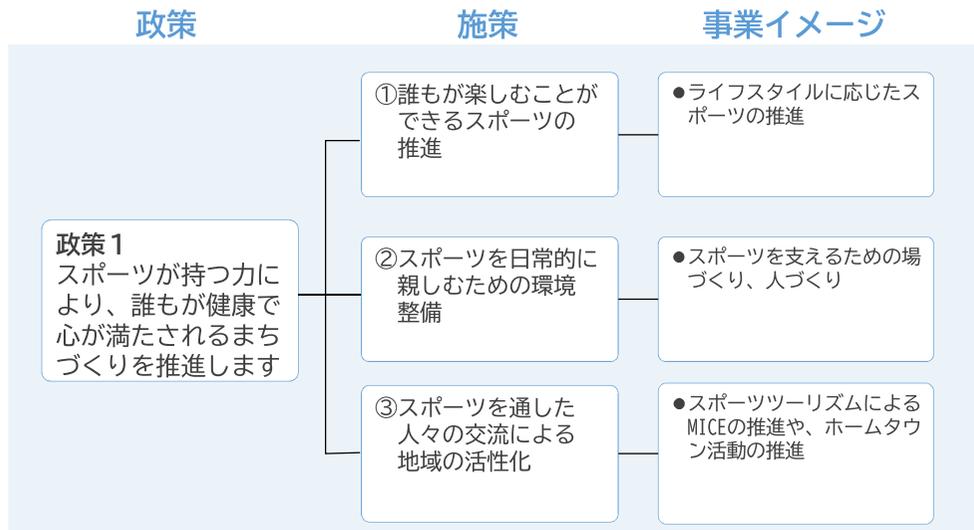
【出典】静岡市調べ

## 5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① スポーツが盛んなまちだと思ふ人の割合
- ▶ 指標② 歴史や文化を身近に感じることが出来るまちだと思ふ割合
- ▶ 指標③ 生涯学習を行っている市民の割合

## ④ 文化・スポーツ分野

## 6 政策・施策体系図



## 03 基本計画 — 分野別計画の取組

### ⑤ 子ども・教育分野

#### 1 2030年の目指す姿

すべての子ども・若者が、夢や希望をもって、健やかで、たくましく、しなやかに育つまちを実現します

#### 2 分野の役割

グローバル化の進展やデジタル社会の到来、少子高齢化や核家族化、地域コミュニティの希薄化など、子ども・若者を取り巻く環境は大きく変化しています。

このような環境においても、自分の長所や可能性を自覚し、他人の意見を尊重して協働しながら、自らの力で未来を切り拓くことのできる子ども、若者を育成します。

また、困難な環境に置かれた子ども・若者が夢や希望をもって成長できる、「誰一人取り残さない」まちづくりを目指すため、切れ目のない適切な支援を推進していきます。

さらに、行政や地域、関係団体といった「しずおか総がかり」による子育て家庭への支援により、安心して子どもを生み育てることができる環境を創ることで、子育てしやすいまちの実現を目指します。

#### 3 関連するSDGsのゴール



#### 4 現状と課題

##### (1) 急激に変化する社会の中での子ども・若者の育成

グローバル化の進展、デジタル時代の到来に伴う産業や社会構造の変化に加え、自然災害や感染症等のリスクの増加など、子ども・若者を取り巻く社会環境が変化しています。

このような状況の中でも、一人ひとりが自分の良さや可能性を認識しつつ、多様な他者を尊重し、協働しながら激しい社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く力を持った子ども・若者を育成することが求められています。



##### (2) 困難を抱える子ども・若者の顕在化・多様化

医療的ケア児などの特別な支援を必要とする子ども、外国人児童生徒の増加や、子どもの貧困、ヤングケアラー、いじめ、不登校など、子ども・若者を取り巻く問題が、近年多様化・複雑化しています。

このような中、すべての子ども・若者が自己肯定感を持ちながらいきいきと学び、成長できるよう、個別のニーズに応じた切れ目のない支援が一層求められています。



【出典】静岡市調べ

##### (3) 子ども、若者、子育て家庭を取り巻く環境の変化

少子高齢化、核家族化、地域コミュニティの希薄化等により、地域による子育て支援活動や教育環境に変化が見られます。

このような状況下においても、幼少期から進学、就職、結婚、妊娠・出産、子育てといったライフサイクルにおいて、しずおか総がかりで、子ども、若者、子育て家庭を支援することが重要です。

また、子育て家庭が孤立感、負担感を抱くことなく、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりが求められています。



【出典】子ども未来課資料

##### (4) 安全安心で質の高い保育・教育環境づくり

保育・教育施設の長寿命化や耐震化、バリアフリー化等の計画的な整備に加え、脱炭素社会、デジタル化など、新たな時代の潮流に対応した施設整備が求められています。

また、保育士、教職員等、安定した保育・教育を提供するために必要な人材が、本市を含め全国的に不足しています。

すべての子どもが質の高い保育、教育を受けることができるよう、時代にあった施設整備を推進するとともに、長期的な視点に立った人材の確保、育成が必要です。

また、通学路の安全確保をはじめ、避難訓練等の実践的・体験的な活動を通じた防災教育の推進、アレルギー疾患への配慮など、様々な場面において、子どもの安全安心を確保することが重要です。



【出典】静岡市調べ

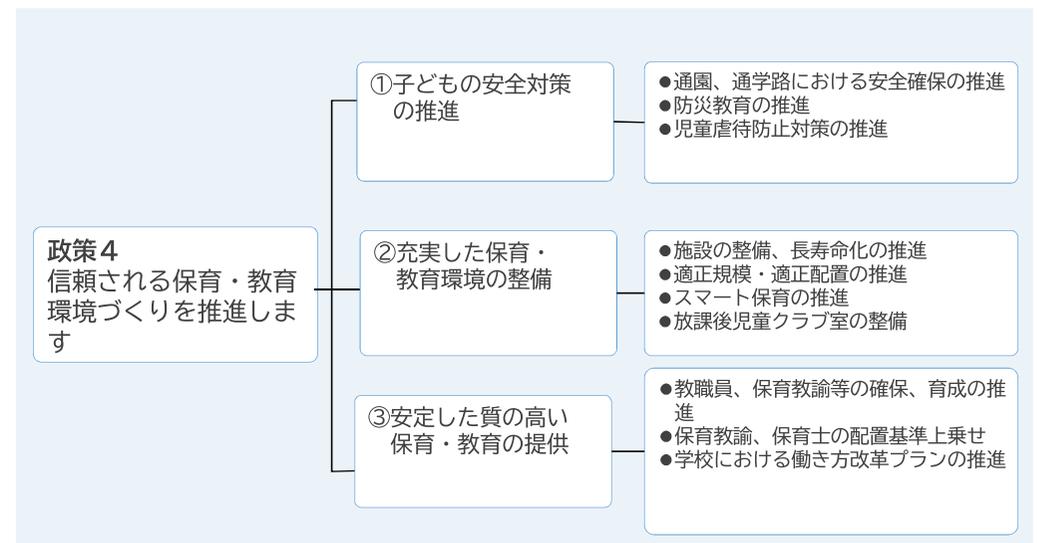
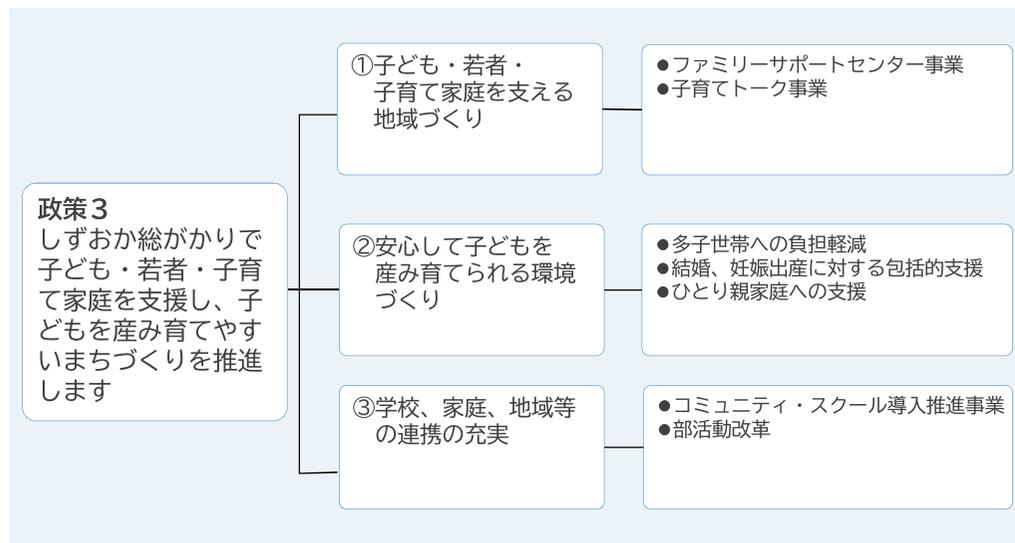
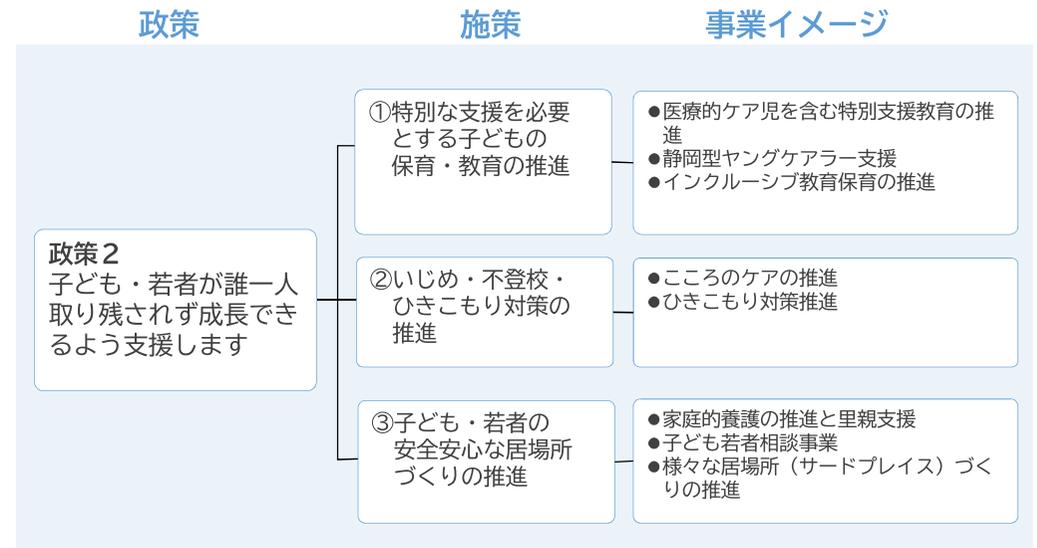
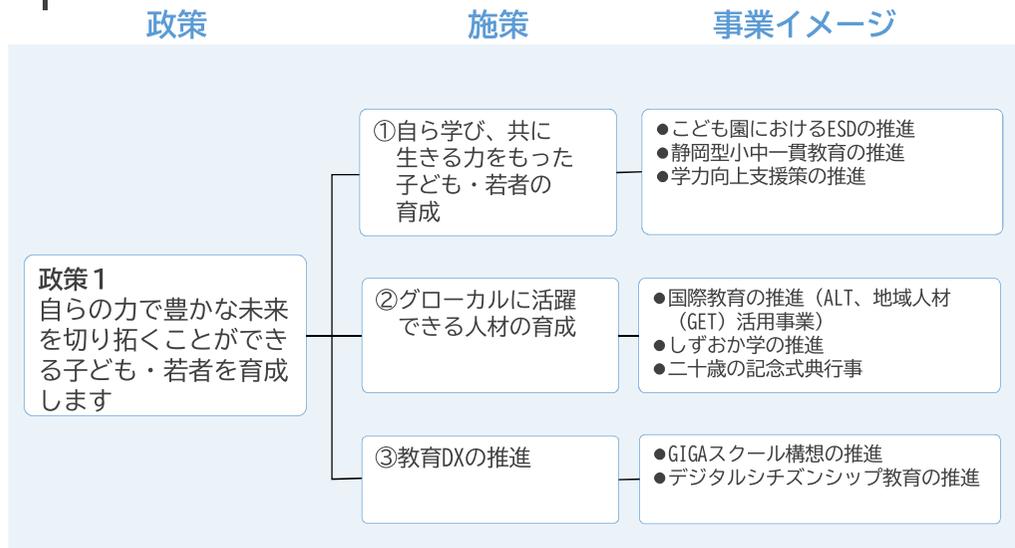
## 5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① 将来の夢や希望をもっている児童生徒の割合
- ▶ 指標② 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合（自己肯定感）
- ▶ 指標③ 今後も静岡市で子育てをしていきたいと思う市民の割合
- ▶ 指標④ 保育所等待機児童数（4/1及び10/1時点）及び放課後児童クラブ待機児童数（5/1時点）

現状値：小学生80.1% 中学生76.2% (R3)  
 現状値：小学生77.2% 中学生66.4% (R3)  
 現状値：96.4% (R2)  
 現状値：保育所等 43人 (R3.10/1)、0人 (R4.4/1) 放課後児童クラブ 30人 (R4.5/1)

## ⑤ 子ども・教育分野

## 6 政策・施策体系図



# 03 基本計画 — 分野別計画の取組

## ⑥ 健康・福祉分野

### 1 2030年の目指す姿

誰もが健やかに生きがいをもって自分らしく地域で共に生きることのできるまちを実現します

### 2 分野の役割

高齢者や障がい者などを含めた全ての人が、住み慣れた地域で生き生きと自分らしく暮らしているよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援の一体的な提供体制を確保し維持するとともに、全世代の就労・社会参加の場を提供し、互いに支え合い、誰もが役割を持ち活躍できる地域づくりを目指します。

市民の皆さんが、「からだ」と「こころ」の健康を維持し、安心して暮らし続けられるよう、健康度の見える化や、市民主体の「知」[就労・社会参加]「食」[食事]「体」[運動]を軸とした取組を促進し、健康意識を高め、疾病予防・介護予防を推進するとともに、地域医療の確保や新興・再興感染症等に対応する体制の充実を図ります。

### 3 関連するSDGsのゴール

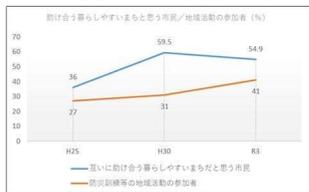


### 4 現状と課題

#### (1) 地域活動の担い手の確保や「8050問題」・「ダブルケア」への対応

防災訓練等の地域活動の参加者割合が増加し（H25 27%→R3 41%）、互いに助け合う暮らしやすいまちだと思える市民が過半数になっています（H25 36%→R3 55%）。一方、地域活動の参加者における辞退希望割合が増加する（H30 6%→R3 17%）とともに、民生委員・児童委員における70歳以上割合が増加する（H27 36%→R3 59%）中で、地域活動の担い手の確保は依然として課題です。

親と同居している50代の未婚者数が増加する（H27 72百人→R2 99百人）等、80代の親（認知症等）が50代の子（引きこもり等）を支える「8050問題」が顕在化しています。育児と介護を同時期に行う「ダブルケア」の問題も含む複合問題世帯が増加する中で、制度ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を越えた仕組みづくりも課題です。



【出典】第3次静岡市総合計画に係るアンケート調査 静岡市地域福祉に関する市民アンケート調査



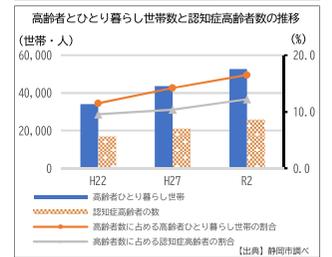
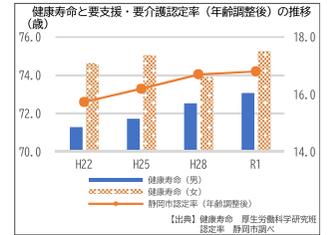
【出典】国勢調査

#### (2) 全世代の健康長寿・就労・社会参加の推進や終活支援

健康寿命が上昇し（H22 男性71歳、女性75歳→R1 男性73歳、女性75歳）、医療・介護連携がうまくいっていると感じている専門職の割合は増加しています（H29 81%→R2 93%）。一方、要支援・要介護認定率は増加傾向（H22 16%→R1 17%）となっています。また、生産年齢人口が減少（H27 42万人→R4 40万人）しており、さらに、地域活動に参加している高齢者の割合が横ばい状態（H25 68%→R1 69%）となっています。

2025年には団塊の世代が全て後期高齢者になる見通しの中、地域の社会・経済を維持・活性化するためには、高齢者だけでなく全世代・全員の就労・社会参加が課題です。

認知症高齢者数が増加する（H27 2.1万人→R2 2.6万人）とともに、高齢者一人暮らし世帯数も増加する（H27 4.4万世帯→R2 5.3万世帯）中で、認知症の発症や人生の最期の場面を見据えた早期からの包括的な対応も課題です。



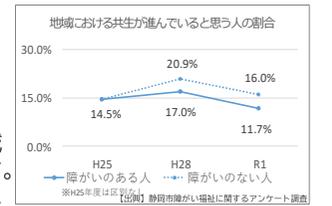
【出典】静岡市調べ

#### (3) 障がい者の就労・社会参加や希望する地域生活の実現

障害者手帳交付者数の増加する（H27 3.5万人→R3 3.6万人）中、障害福祉サービス等の利用者数の増加（H27 55百人→R3 84百人）に対応するとともに、医療的ケア児や発達障がい児者等、多様な障がい特性に応じた支援の充実も図ってきました。

一方、日頃から障がいのある人との交流がない人を中心に、地域における共生が進んでいると思う市民の割合の低下がみられます。また、就労系障害福祉サービスの利用終了者に占める一般就労への移行者割合が横ばい状態（H22 11%→R2 10%）です。障がいへの理解や障がい者の活躍を促進するためには、希望や能力に応じた障がい者の就労・社会参加が課題です。

その他の社会の変化等に伴う障がい児・障がい者のニーズへのきめ細かな対応に加え、障がい者の入所施設や病院からの地域移行の推進、「親なき後問題」等の多様な課題への対応を含め、障がい者が希望する地域生活を実現する地域づくりが課題です。



※H25年度はH26年10月1日現在 静岡市障がい福祉に関するアンケート調査

#### (4) 健康づくりや地域医療・健康危機管理の推進

30～64歳の人口10万人当たり死亡数が減少傾向（H27 227人→R2 208人）である一方、がん検診受診率の横ばい状態とともに、がんによる死亡者数の増加（H27 21百人→R2 22百人）の傾向が見られます。また、特定健診受診率が横ばい状態（H27 32%→R2 33%）であり、メタボリックシンドローム、高血圧症、脂質異常症等の生活習慣病の人が依然として多くなっています。検診・健診に加え、栄養・食生活や運動の環境整備が課題です。

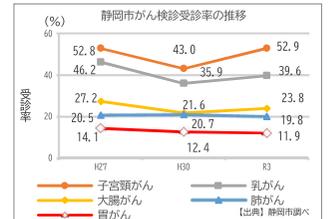
自殺者数は依然として相当数（H27 136人→R2 105人）おり、依存症等の身体・精神の複合的な問題を抱えた人の相談が増加する（H27 14人→R2 184人）等、「からだ」と「こころ」の健康確保が課題です。コロナ禍で顕在化した地域医療や健康危機管理の体制確保も課題です。



【出典】全国割合 社会福祉施設等調査 静岡市の数値 静岡市調べ



【出典】人口動態統計・国勢調査を基に静岡市作成



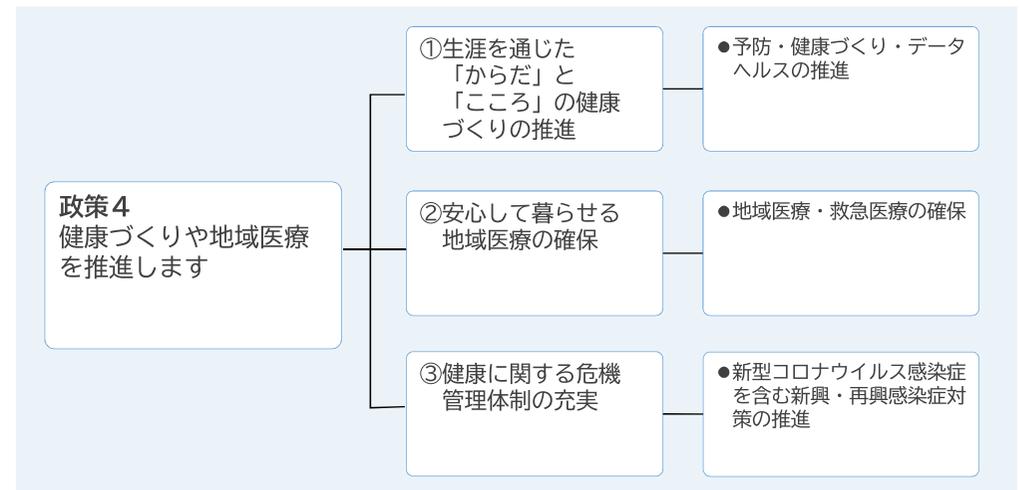
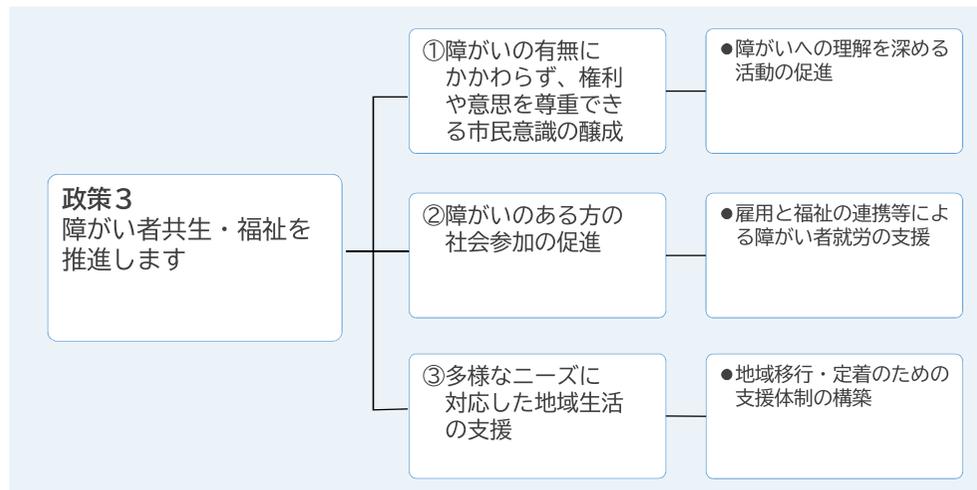
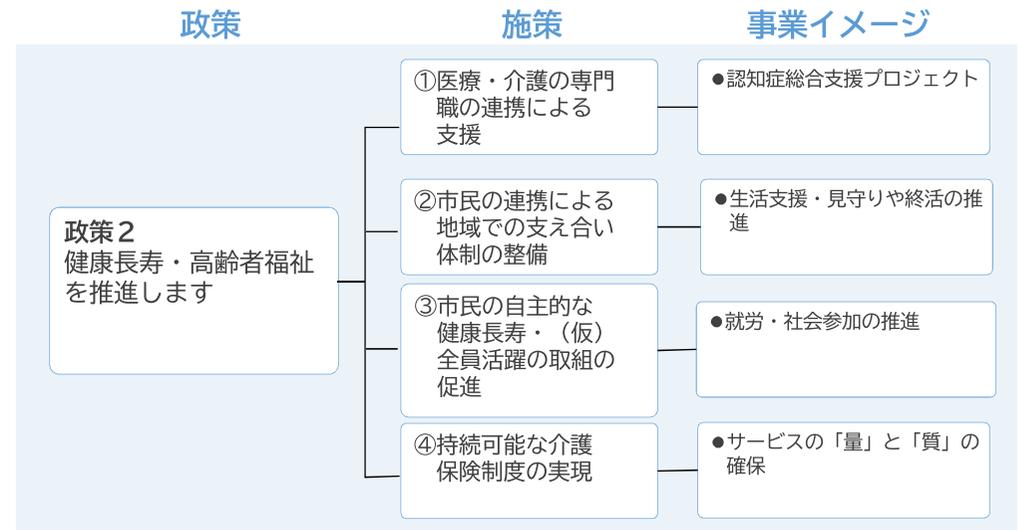
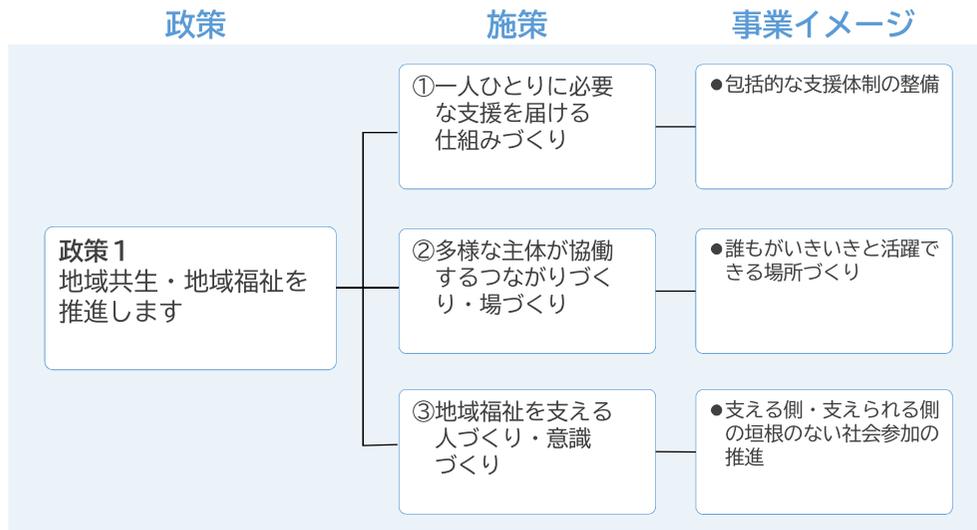
【出典】静岡市調べ

## 5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① 健康寿命
- ▶ 指標② 互いに助け合う暮らしやすいまちだと思ふ市民の割合
- ▶ 指標③ 障がいのある人とない人の地域における共生が進んでいると思ふ市民の割合
- ▶ 指標④ 壮年期・中年期（30～64歳）人口10万人当たり死亡数

## ⑥ 健康・福祉分野

## 6 政策・施策体系図



## 03 基本計画 — 分野別計画の取組

### ⑦ 都市・交通分野

#### 1 2030年の目指す姿

快適で質の高いまちの拠点と、住環境・交通環境の充実による、誰もが暮らしたい・訪れたい“人中心”のまちを実現します

#### 2 分野の役割

都市課題や市民生活が複雑・多様に変化し続ける中、社会の変化に対応したコンパクトでゆとりとにぎわいのある人中心のまちづくりが重要になっています。

そこで、都心・副都心等の拠点において、「公民共創」により誰もが安心して滞在できる空間の創出や、市民や来訪者を惹きつける、快適で良好な景観を形成する緑のあふれるまちづくりを進めていきます。

併せて、これらの拠点を有機的に結びつけ、誰もが快適に移動できるよう、超高齢社会、脱炭素社会に対応した、地域の暮らしを支える交通ネットワーク・システムの構築を目指します。

また、市民の「暮らしの安心」・「暮らしの充実」につながる建築物の耐震化や公園・緑地の整備等に取り組み、脱炭素社会を実現する環境にやさしく快適なまちづくりを進めていきます。

#### 3 関連するSDGsのゴール



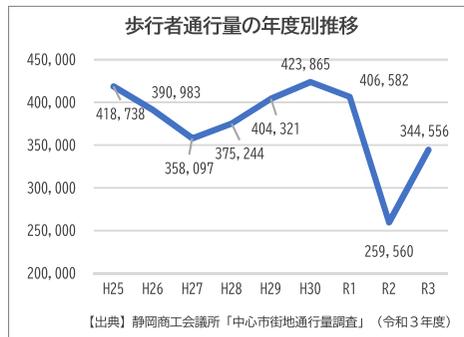
#### 4 現状と課題

##### (1) 新たな都市空間の創造による都心の魅力向上

都心の来訪者数は減少傾向ではありますが、静岡・清水両都心、東静岡副都心は、商業、業務、医療、情報などの都市機能を持ち、今後も静岡県中部地域の中核機能を担いつつ、コンパクトシティの核としての役割を果たしていくことが求められています。

また、ウォーカブルな空間活用等、公共空間の使い方が大きく変化する中で、柔軟な対応も求められています。

そのため、静岡・東静岡・清水都心において、地域と一体となったまちづくりを更に進め、公民共創により新たな価値を創造し都心の魅力を向上することが重要です。

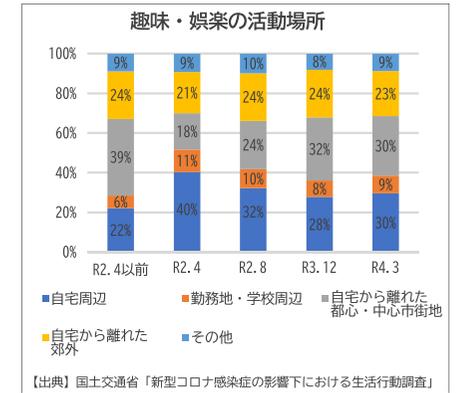


##### (2) まちの多様性を活かした地域の特色に応じたまちづくり

新型コロナウイルス感染症を契機として、市民の意識、価値観に変化が生じ、自宅周辺での活動が増加する傾向がある中、都心や中心市街地以外の拠点において、多様な主体による地域の特色に応じたまちづくりが求められています。

JR草薙駅周辺を始めとする地域拠点や大谷・小鹿地区、大浜地区等において、Park-PFI、エリアマネジメントなどにより、地域の個性を明確に打ち出し、地域の魅力を高め、活発な交流を生み出すまちづくりを進める必要があります。

また、中部横断自動車道の開通や東名高速道路 日本平久能山SICの設置など、大規模社会資本の整備に併せ、大谷・小鹿地区の区画整理事業や日本平といった交流拠点の整備も進めていく必要があります。

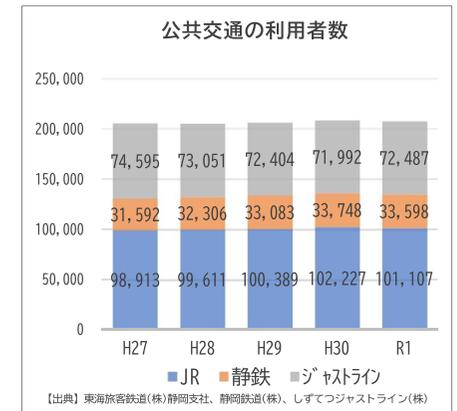


##### (3) 超高齢社会・脱炭素社会等に対応した交通環境への転換

超高齢社会の進展や感染症を契機としたライフスタイルの多様化など、交通機能の充実や安全の確保に関する施策が、これまで以上に求められています。

地域の活力向上等を見据えた集約型の都市構造を目指すために、都心・副都心をはじめとする各拠点間を結び、MaaS等の新たな交通体系の構築を交通事業者等と連携しながら進めることが重要です。

また、脱炭素社会に向けて、水素・EVバスを始めとする次世代モビリティの普及、拠点駅を中心に自動運転やスローモビリティ等新たなモビリティの接続を可能にするなど、誰もが利用しやすい交通体系の構築が必要となっています。



##### (4) 安全で快適な住環境の確保

市民の安全・安心を確保するため、公共建築物の耐震化を進めるとともに、民間建築物の耐震化により都市全体として災害に強いまちづくりが求められています。

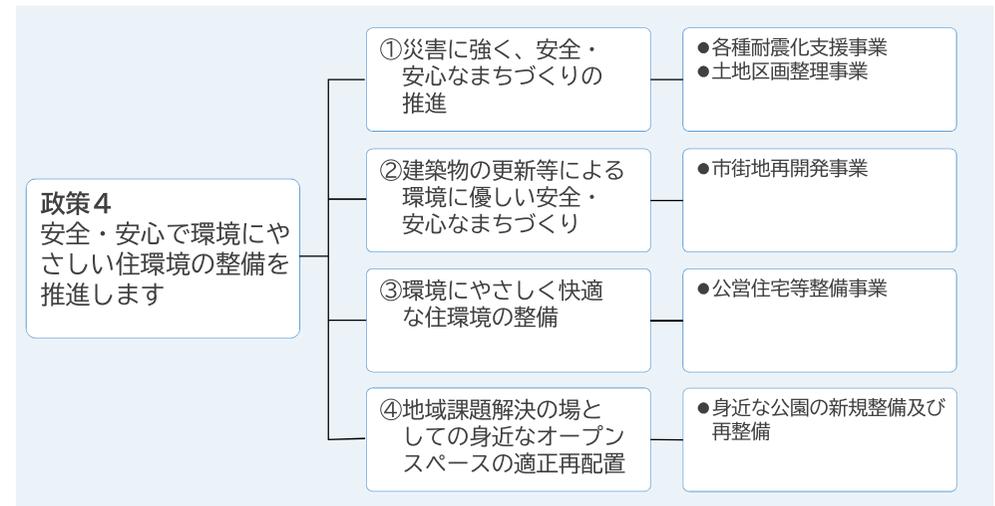
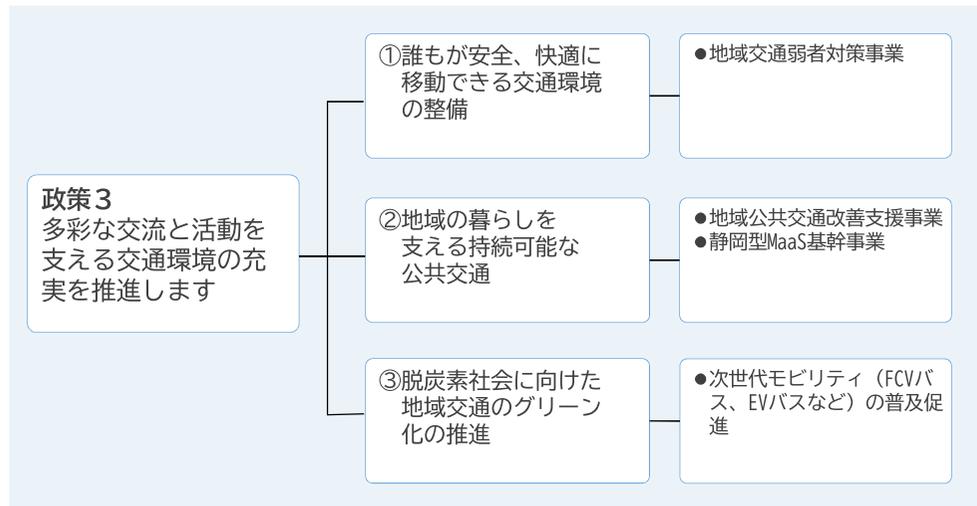
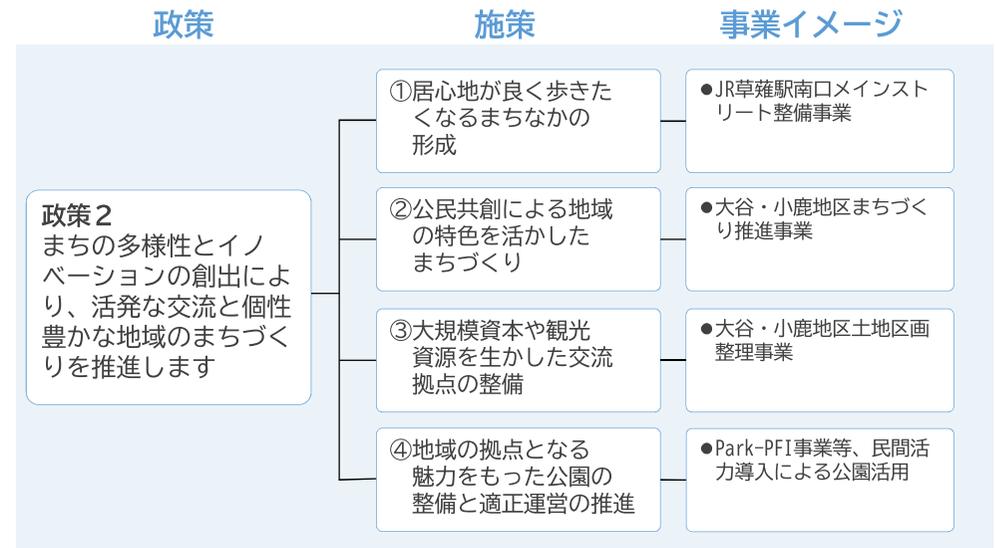
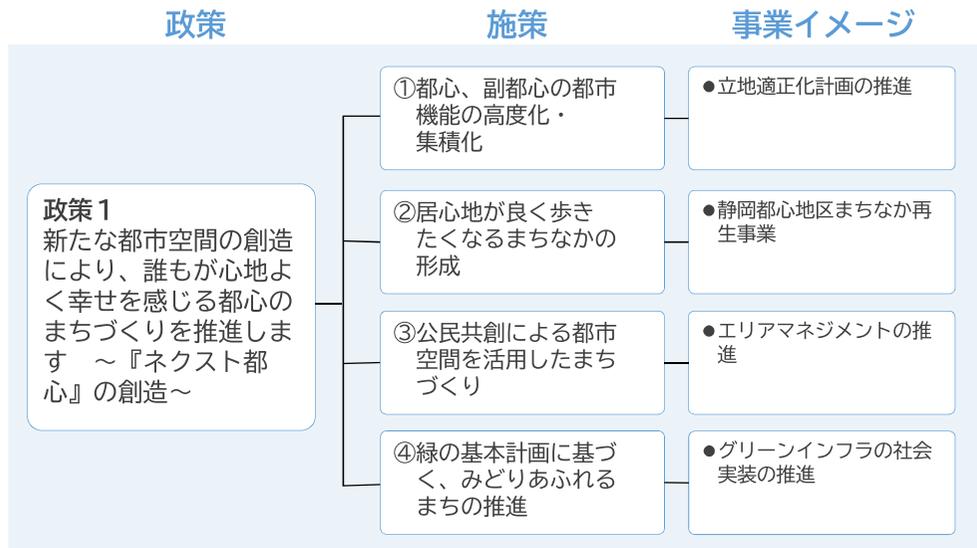
また、日常生活の中で、ゆとりや潤い、憩いを感じられるよう、ユニバーサルデザイン化や省エネルギー化など、付加価値の高い住宅の整備を促進するとともに、高齢者や子育て世帯への優遇施策や、身近な公園の整備を進め、人や自然にやさしい住環境の創出を目指し、調和のとれた都市景観の形成や、身近で緑が感じられる環境づくりが必要です。

## 5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① 静岡、清水の中心市街地の滞在時間（2時間以上の割合） 現状値：静岡 62.2%、清水 47.6%（R3）
- ▶ 指標② 公共交通や自転車で移動がしやすいと思う市民の割合
- ▶ 指標③ 安心・快適に暮らせると思う市民の割合

## ⑦ 都市・交通分野

## 6 政策・施策体系図



## 03 基本計画 — 分野別計画の取組

### ⑧ 社会基盤 分野

#### 1 2030年の目指す姿

経済の好循環を支え、誰もが安全で幸せに暮らすことができる持続可能な社会基盤を有するまちを実現します

#### 2 分野の役割

社会基盤は市民の安全で安心な生活や活発な経済活動を下支えする最も普遍的、かつ基礎的なものですが、老朽化した社会基盤施設の増加や建設業の担い手減少など、社会基盤を取り巻く環境は厳しさを増しています。

このような中においても、道路、河川、上下水道などの社会基盤を適切に維持・管理し、また新たに整備していくことにより、地域社会の快適性・利便性を向上させ、幸せに暮らし続けることができるまちの実現を目指します。

#### 3 関連するSDGsのゴール



#### 4 現状と課題

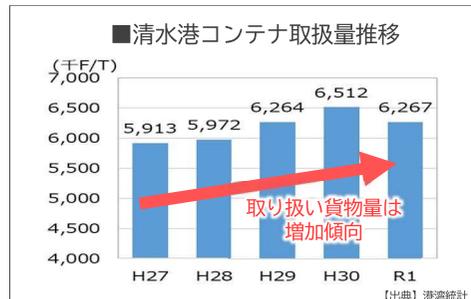
##### (1) 広域道路ネットワーク整備の進展とアクセス道路整備

平成24年度の新東名高速道路県内区間の開通や、令和3年度の中部横断自動車道静岡～山梨間の全線開通、平成30年度の国道1号静岡バイパスの全線4車線化など、広域道路ネットワークは着実に整備が進んでいる一方、広域道路に繋がるアクセス道路及び市域内を結ぶ幹線道路の未整備区間や、都市部の幹線道路における渋滞などの交通課題があります。

また、本市はコンテナ取扱量全国8位の清水港を有していることから、市内、県内、国内の円滑な物流活動を支えるため、清水港へのアクセス性向上が求められています。

したがって、広域道路ネットワークを活かし、広域から人・モノを呼び込むためには、広域道路ネットワークのさらなる整備促進に加え、広域道路や清水港に繋がるアクセス道路の強化が必要となります。

さらに、市民の交流を生み出すためには、市内幹線道路の交通円滑化等、道路ネットワークのポテンシャルを高める各種取り組みが必要です。



##### (2) 老朽化した社会基盤施設の増加と建設業における担い手不足

各地で社会基盤の老朽化が問題となる中、平成25年に社会資本整備審議会から「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」答申がなされたことを受けて、第3次総合計画の8年間で計画的な維持管理・更新を政策の1つとして進めてきました。

定期的な点検によって施設の健全性を把握する中、老朽化の進行等により修繕や更新が必要な施設が数多く見つかり、これらの対応に莫大な予算が必要となることから、施設の統廃合も含め、これまで以上に計画的・効率的に取り組んでいく必要があります。

また、これらの社会基盤を支える建設業において、深刻な従事者不足が大きな課題となっており、労働環境の改善などの取り組みを新たな担い手（若者・女性）に広く周知することや、新技術の活用による生産性の向上に取り組む必要があります。



##### (3) 安全で快適な生活環境を支える社会基盤の整備

おいしい水を安定的に供給する水道事業と、公共用水域の水質保全などを担う下水道事業は、安全で快適な生活環境を支える重要な社会基盤であることから、市民サービスを継続できるよう、引き続き計画的な整備と適正な維持管理を徹底する必要があります。

道路においては、本市は他都市と比べて自転車利用割合が高いという特徴があり、事故件数は減少傾向にあるものの、自転車事故は依然として高い水準で推移しています。

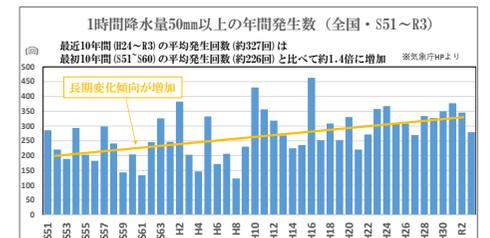
また、未就学児をはじめとする子どもが関係する交通事故や高齢運転者による交通事故が後を絶たない中、高齢化進展への対処や安全安心な子育て環境の実現など、時代のニーズに応える交通安全の取組が一層求められています。

このような背景から、安全・安心な道路環境を確保するため、4次総においても引き続き交通安全対策や自転車走行空間整備を進めていく必要があります。



##### (4) 豪雨や地震などの自然災害が激化・頻発化

平成28年の熊本地震や、平成29年九州北部豪雨、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）など、自然災害による被害が全国各地で毎年のように発生しており、本市においても台風や豪雨による被害が発生している中、自然災害による被害を抑制し、市民生活への影響を最小限とするよう、静岡市浸水対策推進プランの推進をはじめとした社会基盤の強靱化や早期復旧を可能とする体制づくりをハード、ソフトの両面で進めていく必要があります。

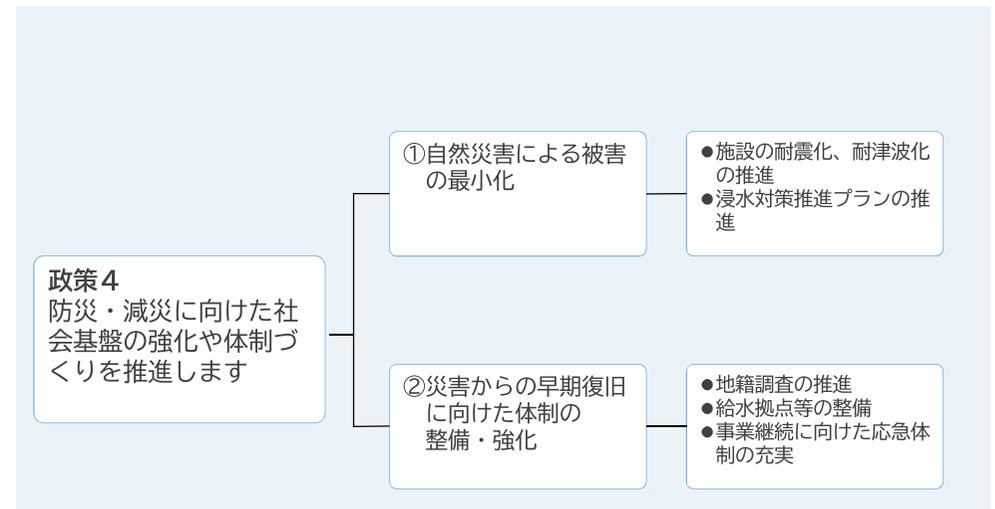
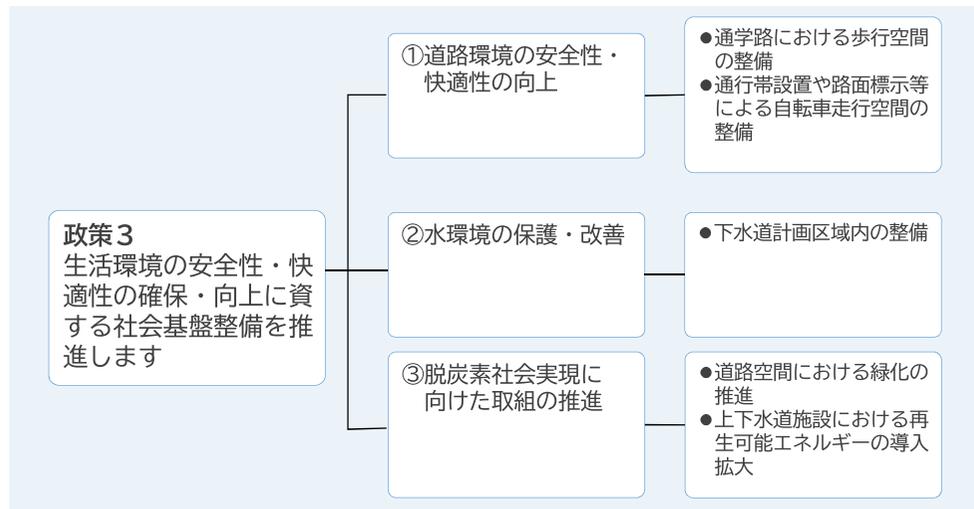
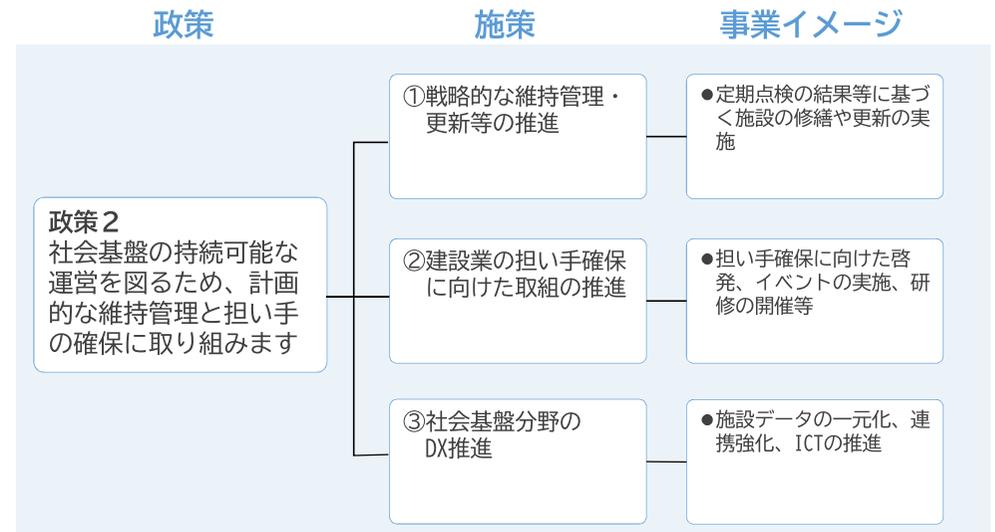
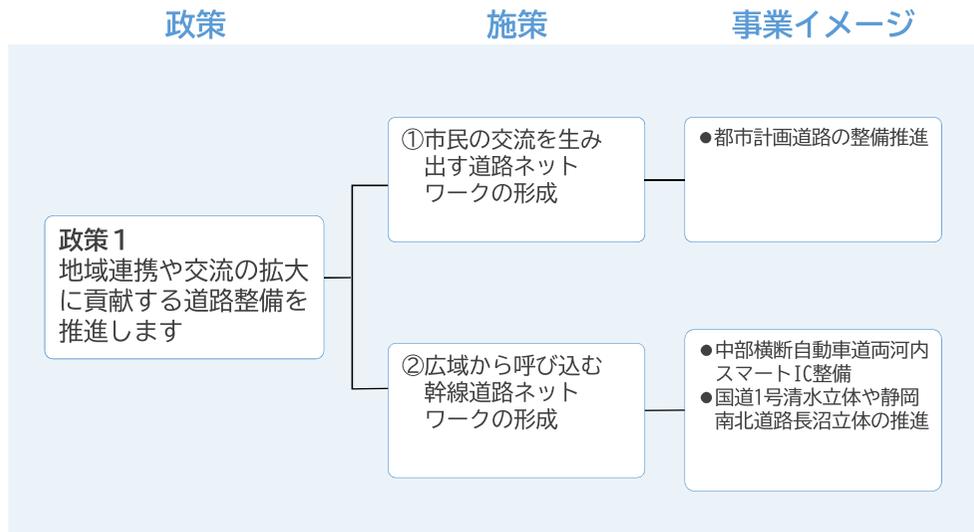


## 5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① 道路、河川、上下水道などの社会基盤に満足を感じる人の割合
- ▶ 指標② 主要道路における移動時間短縮
- ▶ 指標③ 浸水対策推進プランの進捗率

## ⑧ 社会基盤分野

## 6 政策・施策体系図



## 03 基本計画 — 分野別計画の取組

### ⑨ 防災・消防分野

#### 1 2030年の目指す姿

あらゆる危機から市民の「いのち」と「くらし」を守り、安全・安心なまちを実現します

#### 2 分野の役割

近年、激甚化・頻発化している地震や台風等の自然災害をはじめ、2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大、外国からの武力攻撃事態、大規模火災や多数傷病者発生事故などの危機は、私たちのこれまでの想像をはるかに超え、市民の日常生活や多くの企業の経済活動にも多大な影響を及ぼしています。

このような状況の下、地方公共団体においても、危機管理の重要性が増していることから、あらゆるリスクを想定した、危機管理対応が強く求められています。

これらの危機から市民の「いのち」と「くらし」を守るためには、平常時から予想されるリスクを察知し、事前の予防対策を講じるとともに、緊急事態が発生した場合は、初動時のスピードを重視した適切な対応により、被害を最小限にとどめることが重要です。

そこで本市は、自然災害や感染症などのあらゆる危機に対して、対応できる強靱な危機管理体制を構築するほか、災害リスクや地域の状況に応じた防災施設の整備等を推進することで、安全で安心に暮らせるまちの実現を目指します。

#### 3 関連するSDGsのゴール



#### 4 現状と課題

##### (1)あらゆる危機への対応

現代社会を取り巻くリスクは多岐に渡っており、新型コロナウイルス感染症については、依然として市民生活や経済への多大な影響を及ぼすほか、ウクライナ侵略などの影響により、原油や穀物等の価格が高騰するなど、社会経済活動の実質的な回復には至っていない状況です。また、近年、全国的に大規模地震が激甚化・頻発化しており、今後、本市においても南海トラフ巨大地震等が発生した場合、甚大な被害が生じることが想定されています。

こうした様々な危機に直面した場合、被害を最小限にするためには、スピード感を持った初動時の対応が重要となります。

そのためには、迅速な意思決定の下、連携を図りながら専門性が発揮できる一体的な危機管理体制の構築、自らが主体性を持って行動できるための災害対応に関するマニュアルづくり、緊急事態発生時においても市民サービスが安定的・継続的に提供できる体制整備が必要となっています。

##### (2)公民連携による地域防災力の向上

大規模災害等発生に伴い、電気、ガス、水道、公共交通機関などのライフラインが被災するとともに、多くの負傷者の救護等が必要となるため、行政のみでは、迅速な初期対応が難しいと考えられます。

このことから、災害発生時において被害を最小限にとどめるには、平常時から行政と民間が連携・協力し、双方が最大限の力を発揮できる体制づくりが必要となっています。

そのためには、迅速かつ適切な行動を意識した防災訓練の実施・充実、啓発等による防災・減災意識の向上、行政と民間事業者との連携協定の拡充など、公民連携により地域防災力を向上させることが重要です。



##### (3)大規模自然災害時に市民の安全を守るための環境整備

本市は、駿河湾に面し、また広大な山地を抱えていることから、南海トラフ巨大地震や台風・豪雨等の風水害など、大規模自然災害が発生した場合には、市民の生命や財産に甚大な被害を及ぼすことが危惧されます。

このような事態に備え、市民が安全に暮らせる防災施設等を整備するほか、災害発生時には、速やかに被害情報や避難情報を発信し、安全に避難できるような環境を構築する必要があります。

そのためには、災害情報伝達体制の強化、災害に強い社会基盤・都市基盤の整備、円滑な避難行動の促進など、ソフト・ハードの両面から市民の安全を守ることが必要となっています。

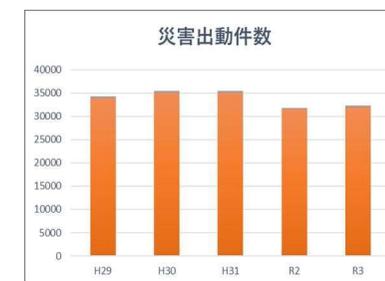


##### (4)多様化する消防需要に対する消防力の強化

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い減少していた火災、救助、救急などの災害出動件数や高齢者の救急搬送が増加傾向にあります。

火災では、建物火災の過半数が住宅火災であり、死傷者も住宅火災において多く発生しており、火災予防を推進していく必要があります。

また、風水害や感染症など、多種多様な災害が発生しており、応急手当普及啓発などの救命体制の充実、消防団員の確保や安全対策・消防訓練等災害対応力の向上、施設装備等の強化など、消防力の強化が求められています。



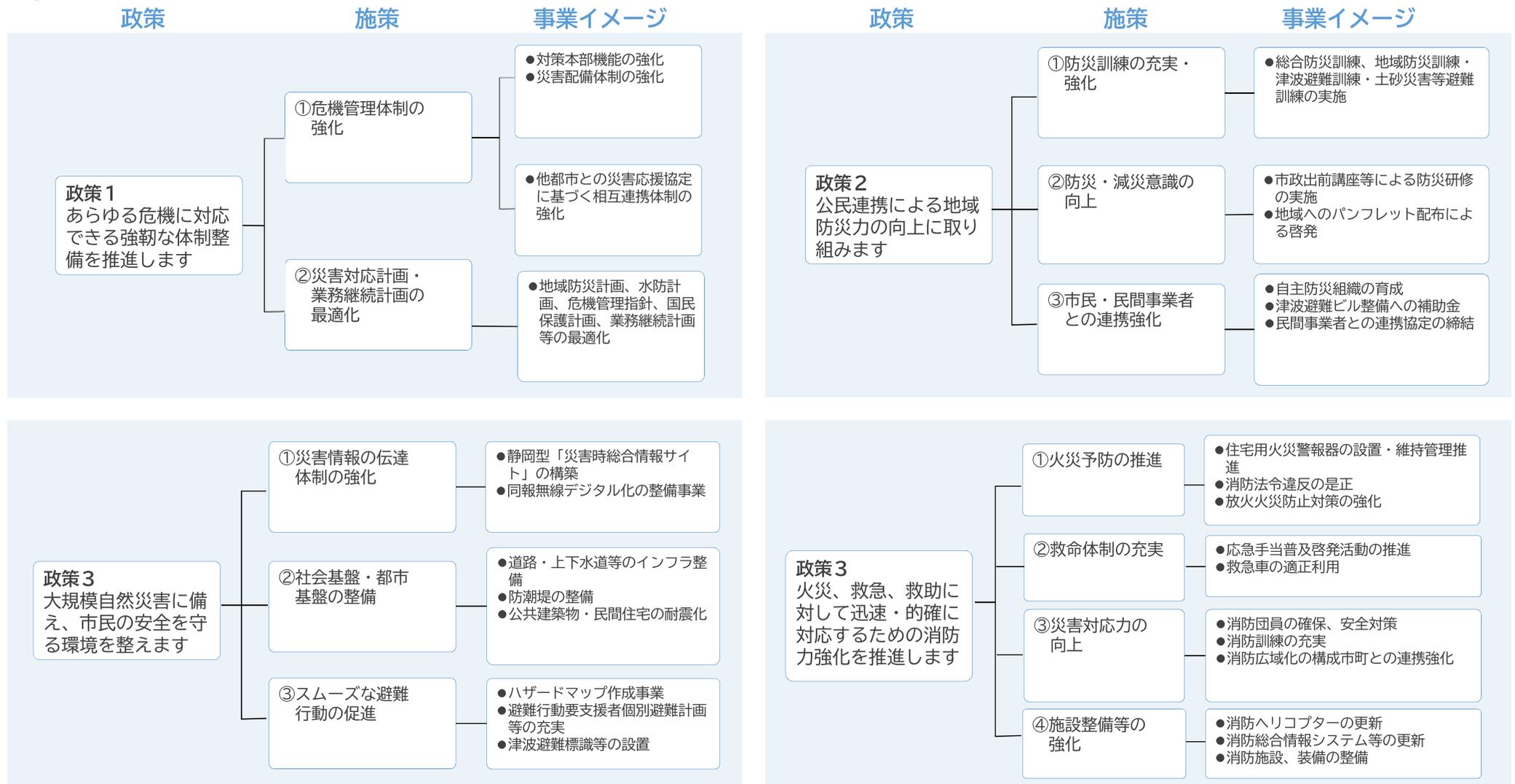
【出典】静岡市

## 5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① 静岡市が災害に強く安全・安心に暮らせるまちだと思える市民の割合
- ▶ 指標② 災害時の避難情報について、2つ以上のルート（防災メール・災害ラジオ・LINE・同報無線・テレビ等）で受け取ることのできる環境が整っている市民の割合 ※調整中
- ▶ 指標③ 火災による死者数0 現状値：9人（R3）

## ⑨ 防災・消防分野

## 6 政策・施策体系図



## 03 基本計画 — 分野別計画の取組

### ⑩ 生活・環境分野

#### 1 2030年の目指す姿

人と自然が共生し、将来にわたり豊かな営みを続けられるまちを実現します

#### 2 分野の役割

本市には、ユネスコエコパークに登録された南アルプスをはじめとして、世界にも誇れる地域資源が豊富に存在します。その地域資源のすばらしさを国内外に伝えるとともに、その恩恵を将来にわたり享受できるよう、次の世代へつなげていかなければなりません。

また、市民生活の根底を支える廃棄物処理や防犯・交通安全等の課題に対応し、市民一人ひとりが自立し、地域の一員として互いに助け合う、安心して暮らせる環境を整えることも重要です。

そのためには、市民、企業等様々な主体が連携し、経済・社会・環境の調和した持続可能なまちを実現する必要があります。

そこで、本市は、人と自然が共生し、将来にわたり豊かな営みを続けられるまちを実現していくことを目指します。

#### 3 関連するSDGsのゴール



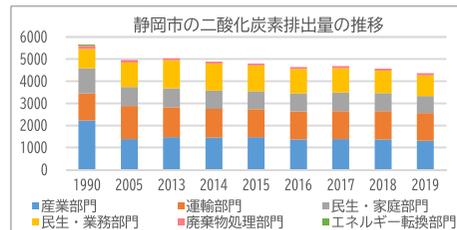
#### 4 現状と課題

##### (1)2050年カーボンニュートラルの実現

近年、風水害の激甚化をはじめとした、地球温暖化の進行による影響が多方面で見られています。第21回国連気候変動枠組条約締結国会議（COP21）にて採択されたパリ協定により全ての国において温室効果ガス排出量の削減を目指す枠組みが構築されるなど、気候変動への対応が国際的にも加速化している中、国は2050年温室効果ガス排出実質ゼロ（カーボンニュートラル）に取り組むことを示しました。

本市は、企業と連携したエネルギーの地産地消等の先進的な取組が高い評価を受け、令和4年4月に環境省が公募した「脱炭素先行地域」に選定され、脱炭素社会の実現をけん引する役割が期待されています。

今後は、このような先進的な取組を推進することで、脱炭素に関する新たな企業投資を呼び込む等、環境と経済の好循環を加速させ、2050年カーボンニュートラルを実現していく必要があります。



【出典】静岡市調べ

##### (2)豊かな自然の保全と活用の推進

本市は南アルプスから駿河湾まで山、川、海の豊かで美しい自然に恵まれています。特に、平成26年にユネスコエコパークに登録された南アルプスは、世界的な自然環境を有していること、そして、その自然と共生しながら持続的に発展してきた地域であることが世界に認められています。

しかし、その南アルプスにおいても貴重な高山植物が減少する等、気候変動や食害等による自然への影響が見受けられます。

世界に誇れる自然を次の世代へ継承していくためにも、この自然から享受する様々な恵みについて市民の理解を深めるとともに、この自然を誇り、守る心を育てていくための取組を推進する必要があります。



##### (3)ごみの減量に向けた取組と安定した廃棄物処理体制の整備

限られた資源の有効活用や衛生的な生活環境を確保するために、ごみの減量と安定的な廃棄物処理体制の整備が必要となります。本市では静岡市版もったいない運動等を通じ、ごみの減量に努めてきましたが、近年市民一人

1日当たりのごみ総排出量は横ばい傾向にあります。また、最終処分場の残余容量がひっ迫するとともに、清掃工場をはじめとする廃棄物処理施設の経年劣化も進んでいます。

このため、社会や環境等に配慮したライフスタイルへの変革に向けた取組と、安定的な廃棄物処理体制の整備に向け、必要な施策に取り組む必要があります。

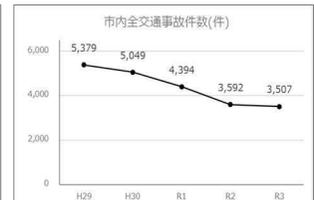
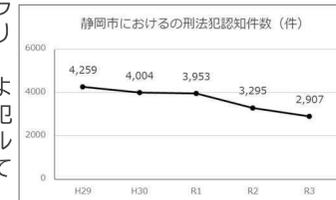


【出典】令和3年度清掃事業概要

##### (4)市民生活における安全で安心な暮らしの実現

市民の生活においては、空き巣や自転車の盗難など身近な犯罪や交通事故は減少傾向を示すものの、未だに後を絶ちません。また、インターネットを介した取引の拡大などに伴い消費行動が多様化しており、消費者トラブルの内容が複雑化の傾向にあります。

誰もが安全で安心に暮らせるよう、地域・学校・家庭等での防犯・交通安全活動や消費者トラブル防止に対する取組をさらに進めていく必要があります。



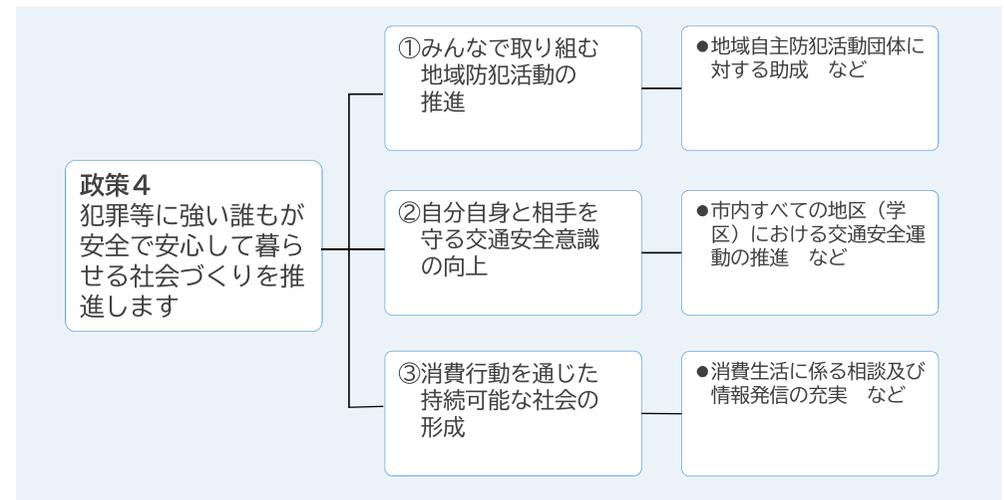
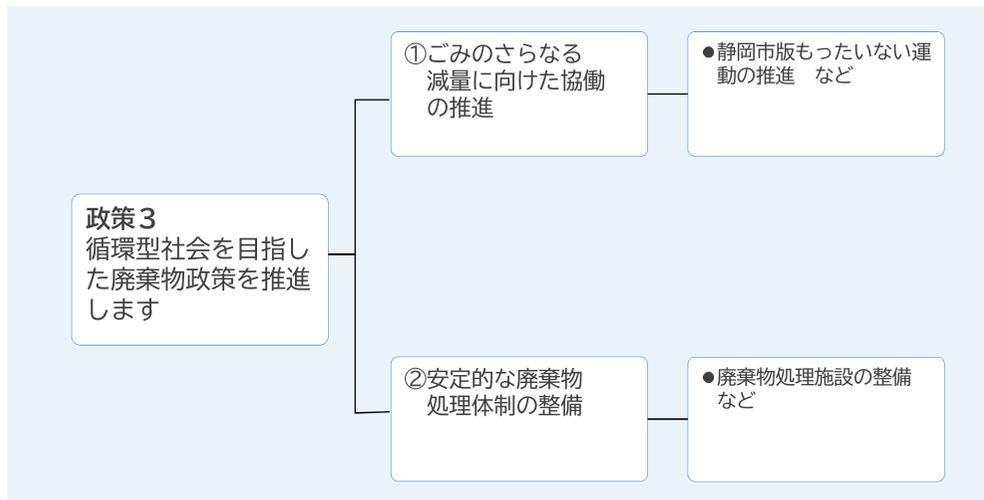
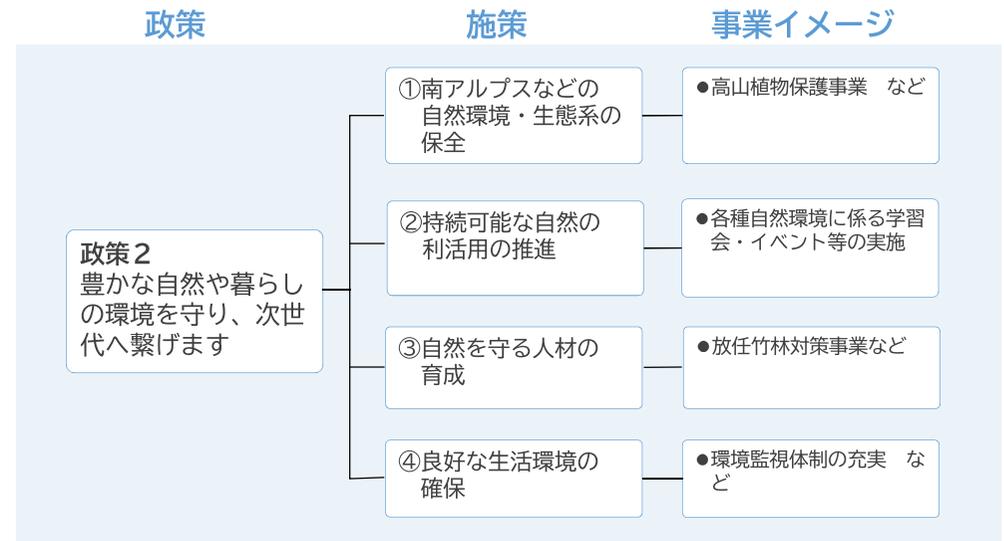
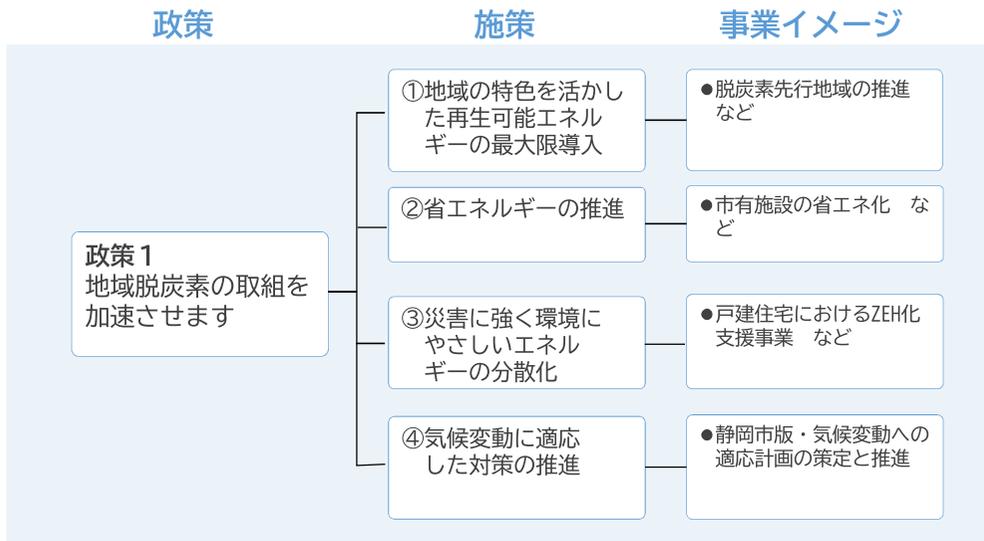
【出典】シズオカオープンデータポータル

⑩ 生活・環境  
分野

5 分野を代表する指標

- ▶ 指標① 温室効果ガス排出量 削減率（2013年度比）
- ▶ 指標② 環境に関するボランティア活動に参加している市民の割合
- ▶ 指標③ 市民一人1日当たりのごみ総排出量（家庭ごみ+集団資源回収+事業系ごみ）
- ▶ 指標④ 刑法犯の認知件数

6 政策・施策体系図



## 04 基本計画 — 分野横断的な重点政策

### 分野横断的な重点政策の考え方

- 4次総においては、まずは10の分野別計画の取組を総合的に推進することで、基本構想で定める2つの都市像の実現を目指していきます。一方で、厳しい財政状況の中、限りある経営資源を有効に活用し効率的に各種施策を進めていくためには、静岡市の地域特性や地域資源を最大限に活かした、分野の枠組みにとられない大局的な視点での取組も必要です。
- こうした考えのもと、各分野を横断的に連携させて重点的に取り組んでいく5つの政策を定めます。この5つの政策を、「『世界に輝く静岡』の実現」に向けた取組を加速させる推進力（エンジン）として位置付け、進めていきます。



### 10の分野別計画

- ① 商工・物流 ② 農林水産 ③ 観光・交流 ④ 文化・スポーツ ⑤ 子ども・教育 ⑥ 健康・福祉 ⑦ 都市・交通 ⑧ 社会基盤 ⑨ 防災・消防 ⑩ 生活・環境

各分野を横断的に連携

### 分野横断的な5つの重点政策

（仮称）歴史文化の地域づくり

（仮称）海洋文化の地域づくり

（仮称）森林文化の地域づくり

（仮称）健康活躍のまちの推進【健康長寿+子ども・子育て】

（仮称）まちは劇場とスポーツの推進【まちは劇場+スポーツ振興】

※令和4(2022)年3月に公表した骨子案では、重点政策として「(仮)7つの柱」を位置付けており、その後、パブリックコメントのご意見や市議会からの政策提言などを踏まえ、5つの重点政策として見直しを行いました。(3ページ参照)

## 04 基本計画 — 分野横断的な重点政策

### 重点政策の目的・取組の方向性など

#### (仮称) 歴史文化の 地域づくり



##### 目的・考え方

- 静岡都心では、育まれてきた都心としての機能の更新と、徳川氏、今川氏などの歴史資源の活用による経済の活性化を目指したまちづくりが求められています。
- これまで、葵舟の運航や駿府ホリノテラスの空間活用、東御門・翼櫓のリニューアル、静岡市歴史博物館の建設などを進めてきました。
- 4次総では、更に取組を発展させ、市民が静岡に誇りと愛着を持つとともに、徳川氏、今川氏を中心とした歴史資源を活用し、世界中から人が集まり駿府城公園周辺が賑わうことを目指し、取組を進めていきます。

##### 取組の方向性案

- ▶ 駿府城公園周辺の賑わい創出
- ▶ 市民の歴史認識の醸成 など

#### (仮称) 海洋文化の 地域づくり



##### 目的・考え方

- 清水都心では、清水港が駿府外港などの長い歴史を経て国際拠点港湾として発展し、地域の経済と生活に貢献することで、港を介して海に係る清水の海洋文化を育んできました。
- これらの特色を活かしたまちづくりを進めるため、これまで、港湾整備や港のブランディング事業、客船による賑わい創出などを進めてきました。
- 4次総では、これまでの取組を発展させ、「駿河湾」や「清水港」を活かし、産業・研究・観光が生まれ高め合う「国際海洋文化都市」として、清水港周辺が賑わうことを目指し、取組を進めていきます。

##### 取組の方向性案

- ▶ 清水港周辺の賑わい創出
- ▶ 海洋関連産業の発展 など

#### (仮称) 森林文化の 地域づくり



##### 目的・考え方

- 静岡市の市域の約80%を占める中山間地域は、南アルプスをはじめとする豊かな自然と人の営みが共存した貴重な地域であり、「オクシズ」の呼称で市民に親しまれてきました。
- また「オクシズ」は、お茶やわさび、みかんなどの農作物や心身を癒す温泉、伝統芸能など多様な地域資源を有しており、地域経済の発展と資源環境の保全、良好な景観の形成など重要な役割を果たしています。
- 4次総では、それらの地域資源をさらに磨き上げるとともに、都市と山村が支え合い、地域資源循環を生み出す持続可能な中山間地域の実現を目指し、取組を進めていきます。

##### 取組の方向性案

- ▶ オクシズの生活機能維持
- ▶ 自然環境の保全と経済活性化の両立 など

#### (仮称) 健康活躍の まちの推進

【健康長寿+子ども・子育て】



##### 目的・考え方

- 急速に進む少子高齢化に伴い、医療・介護を必要とする人が増える一方、その担い手となる生産年齢人口は減少を続け、市民が健康で長生きするための更なる取組が急務となっています。
- さらに、ヤングケアラーの顕在化や、ひきこもりの相談件数の増加といった近年の社会問題への対応として、高齢者のみならず、子ども・若者も含めた市民一人ひとりが、社会の中で活躍できる環境づくりにも取り組んでいく必要があります。
- 4次総では、高齢者のみならず、全世代の市民が心身ともに健康で長生きするとともに、置かれた環境に関わらず全員が活躍できる社会の実現を目指し、取組を進めていきます。

##### 取組の方向性案

- ▶ 健康長寿(人生100年時代)
- ▶ 困難を抱える子どもへの支援 など

#### (仮称) まちは劇場と スポーツの推進

【まちは劇場+スポーツ振興】



##### 目的・考え方

- 静岡市には、人々の心を豊かにする大道芸、演劇、音楽などの『文化・芸術』や、サッカーをはじめとした『スポーツ』が地域に根付いています。
- さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や本市の「まちは劇場」の取組により、市民の文化・芸術やスポーツに対する関心が一層高まっています。
- 4次総では、この静岡市に根付いた『文化・芸術』と『スポーツ』の力を活かし、市民の心をつなぐとともに、様々な人が交流することによる賑わいの創出を目指して、取組を進めていきます。

##### 取組の方向性案

- ▶ まちは劇場の推進
- ▶ スポーツ環境の充実 など

## 04 基本計画 — 区役所の取組

### 区役所の役割と取組の方向性

- 区役所は、市民に最も身近な行政機関として、「効率的で利用しやすい行政サービスの提供」「地域と一体となったまちづくりの推進」の2つの役割を担っています。
- この役割を達成するため、3次総において、「区の魅力づくり事業」の実施や、本庁部門から区役所への事務移管などにより、区役所の機能強化に取り組んできました。
- 4次総においても、引き続き区役所が各区の魅力を生かしたまちづくりを推進するとともに、各局とも積極的に連携しながら、取組を進めてきます。



葵区PRキャラクター  
あおいくん



駿河区応援隊長  
トロバー



清水区広報キャラクター  
シズラ



## 04 基本計画 - 区役所の取組

### 1 効率的で利用しやすい行政サービスの提供（3区共通）

- 区民の皆さんの多様性を尊重し、国籍や性別等を問わず、誰もが利用しやすい行政サービスの提供を目指します。
- デジタル技術を活用し、「いつでも」「行かずに」「書かずに」「押さずに」できる行政手続を目指すことをテーマに、区民の利便性向上を目指します。

### 2 地域と一体となったまちづくりの推進

- 駿府城跡、伝統芸能等の歴史や文化、オクシズの豊かな自然など、葵区の持つ様々な魅力を更に高めていくとともに、地域が抱える一つ一つの課題を区役所と地域が協力して解決していくことで、人が「ここに住み続けたい」と思うまちづくりを推進します。
- オクシズの著しい人口減少に対応するため、区役所と民間企業、大学、移住者などが地域と一体となり、オクシズの活性化や移住・定住を促進していきます。



### 取組の方向性・主な取組など

#### 歴史・文化を守り活かし、魅力あふれるまちづくりの推進

静岡市の貴重な歴史・文化である駿府駒などの伝統芸能の継承と、その魅力の発信を支援する事業「伝統芸能活動支援事業」を実施しています。また、観光資源としての価値を高め、交流人口の増加を図ります。



廿日会祭

#### 地域の魅力発信と区民のシビックプライドの醸成

各地域のイベント等への集客を支援し、地域の魅力を市内外へ紹介する事業「葵トラベラー」を実施しています。住民自らが地域をプロモーションすることで、住民の地域を誇りに思う気持ちを醸成します。



麻機 遊水桜まつり



梅ヶ島 梅木剪定

#### 地域課題解決を目指す取組へのサポート

地域が抱える課題に対し、葵区役所が調整役となり、他の地域や市の関係課などと連携・協力して、解決を図る事業「葵チャレンジャー」を実施しています。



常葉大学との検討会

#### 多様なステークホルダーと連携したオクシズ活性化推進

オクシズの著しい人口減少に対応するため、葵区役所と関係部署、民間企業、大学、移住者などが地域と一体となり、オクシズの活性化や移住・定住を促進する事業「葵区Move To Okushizu」を実施しています。

## 04 基本計画 - 区役所の取組

### 1 効率的で利用しやすい行政サービスの提供（3区共通）

- 区民の皆さんの多様性を尊重し、国籍や性別等を問わず、誰もが利用しやすい行政サービスの提供を目指します。
- デジタル技術を活用し、「いつでも」「行かずに」「書かずに」「押さずに」できる行政手続を目指すことをテーマに、区民の利便性向上を目指します。

### 2 地域と一体となったまちづくりの推進

- 区内に複数の大学を有する特色を活かし、年齢などの垣根を超え、人と人がつながる機会を創出し、区民が一体感を持った「誰もが住みやすい駿河区」の実現を目指します。
- 区民一人ひとりの防災意識を高める取り組みにより、地域コミュニティを活かした災害に強いまちづくりを推進します。あわせて防災活動等への参加をきっかけとし、地域活動への参画に繋げていきます。



## 取組の方向性・主な取組など

### 区民の一体感の醸成

駿河区役所の周辺企業・団体と連携し、イベントや講座等を盛り込んだ駿河区一色の1週間を企画（駿河トロペーWeek）するなど、駿河区民としてのシビックプライドを醸成します。



(イメージ)

### 地域を支える人材の育成

地域コミュニティを中堅となって支える人材（駿援隊）を育成します。駿援隊は、地域で防災講座を実施したり、ワクチンの予約サポートを行う等活動の幅が広がっています。



駿援隊による防災講座



わがまち×わかまち会議

### 多様な意見を反映した 地域づくり

大学生をはじめ、地域住民や企業等から意見を聴取します。多様な参加者が議論を重ね、区の取組に反映することで魅力ある地域づくりを推進します。



防災出前講座

### 災害に強いまちづくりの推進

地域住民や学校、企業等を対象にソフトの面から防災力の向上を図ります。受講者のニーズに合わせた講座を企画し、「共助」の大切さを啓発します。実績：R3年度 81回



## 04 基本計画 — 区役所の取組

### 1 効率的で利用しやすい行政サービスの提供（3区共通）

- 区民の皆さんの多様性を尊重し、国籍や性別等を問わず、誰もが利用しやすい行政サービスの提供を目指します。
- デジタル技術を活用し、「いつでも」「行かずに」「書かずに」「押さずに」できる行政手続を目指すことをテーマに、区民の利便性向上を目指します。

### 2 地域と一体となったまちづくりの推進

- 駿河湾や山間部の豊かな自然や恵み、歴史的・文化的資源がもたらす多彩な魅力を積極的に発信するとともに、海と陸の玄関口である清水区の地理的強みを活かして、人を呼び込み、賑わいを創出します。
- 区民が地域に愛着をもち、地域課題の解決に主体的に取り組む活動を支援することで、地域の魅力や価値を高めるまちづくりを推進していきます。



### 取組の方向性・主な取組など

#### 清水区の自然や歴史が育んだ魅力の発信

SNSを活用して、駿河湾や山間部の豊かな自然や恵み、歴史的・文化的資源がもたらす多彩な魅力の発信を行います。



R3 三保松原名勝指定100周年園場完成記念植樹

桜えびと富士山

#### 清水区の地理的強みを活かした賑わいの創出

海と陸の玄関口である清水区の地理的強みを活かして、地域振興イベントの開催・局間連携による賑わいの創出に取り組みます。



清水港での客船歓迎

三保松原と富士山



R3 移住日帰りツアー（由比・蒲原）

#### 移住予定者のニーズに寄り添った事業の実施

移住ツアーやまち歩き案内など、清水区の魅力を伝え、移住・定住のきっかけとなる事業を展開します。

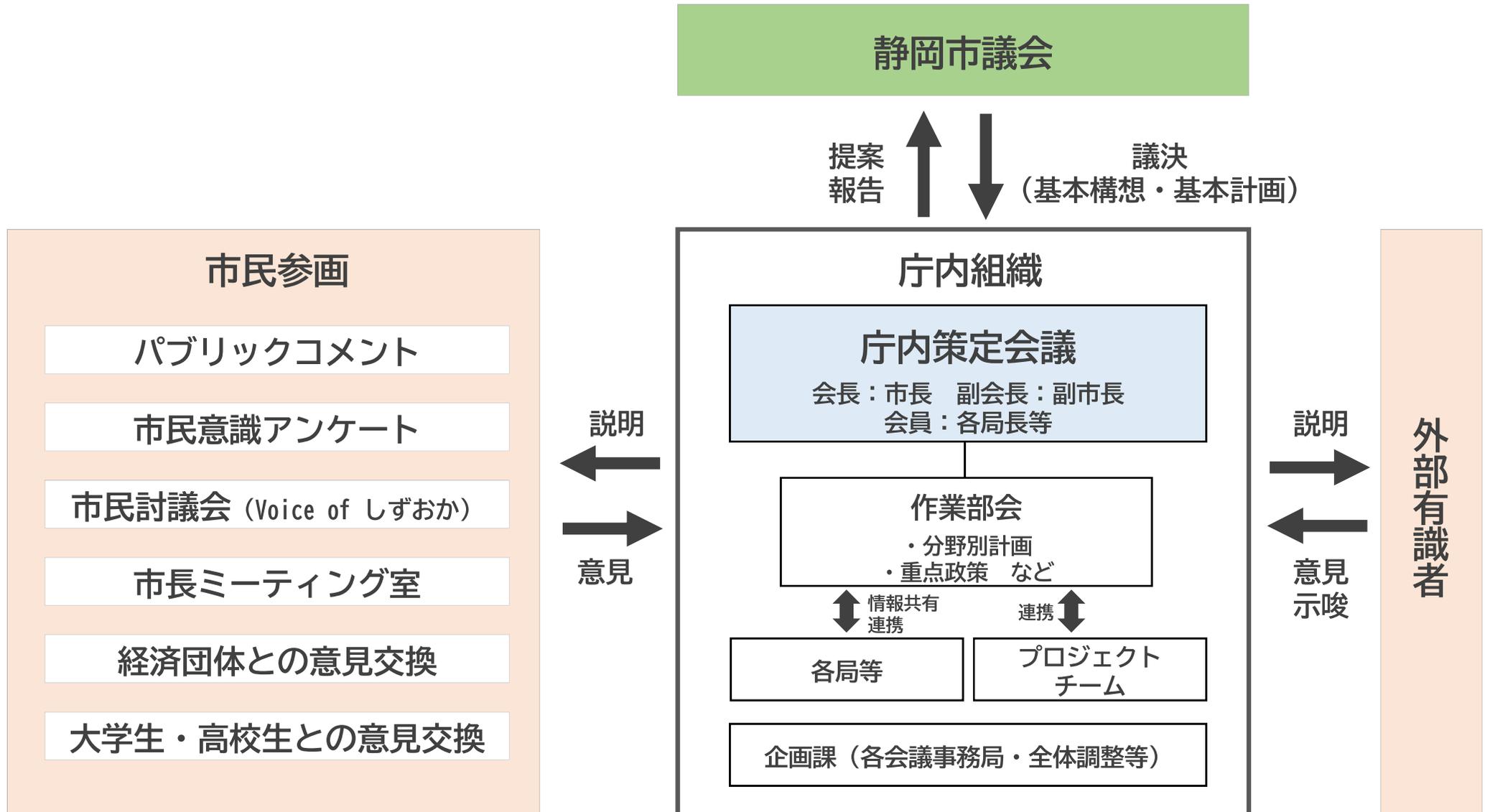


R3 まちづくりミーティング（由比）

#### 区民の主体的な活動をサポート

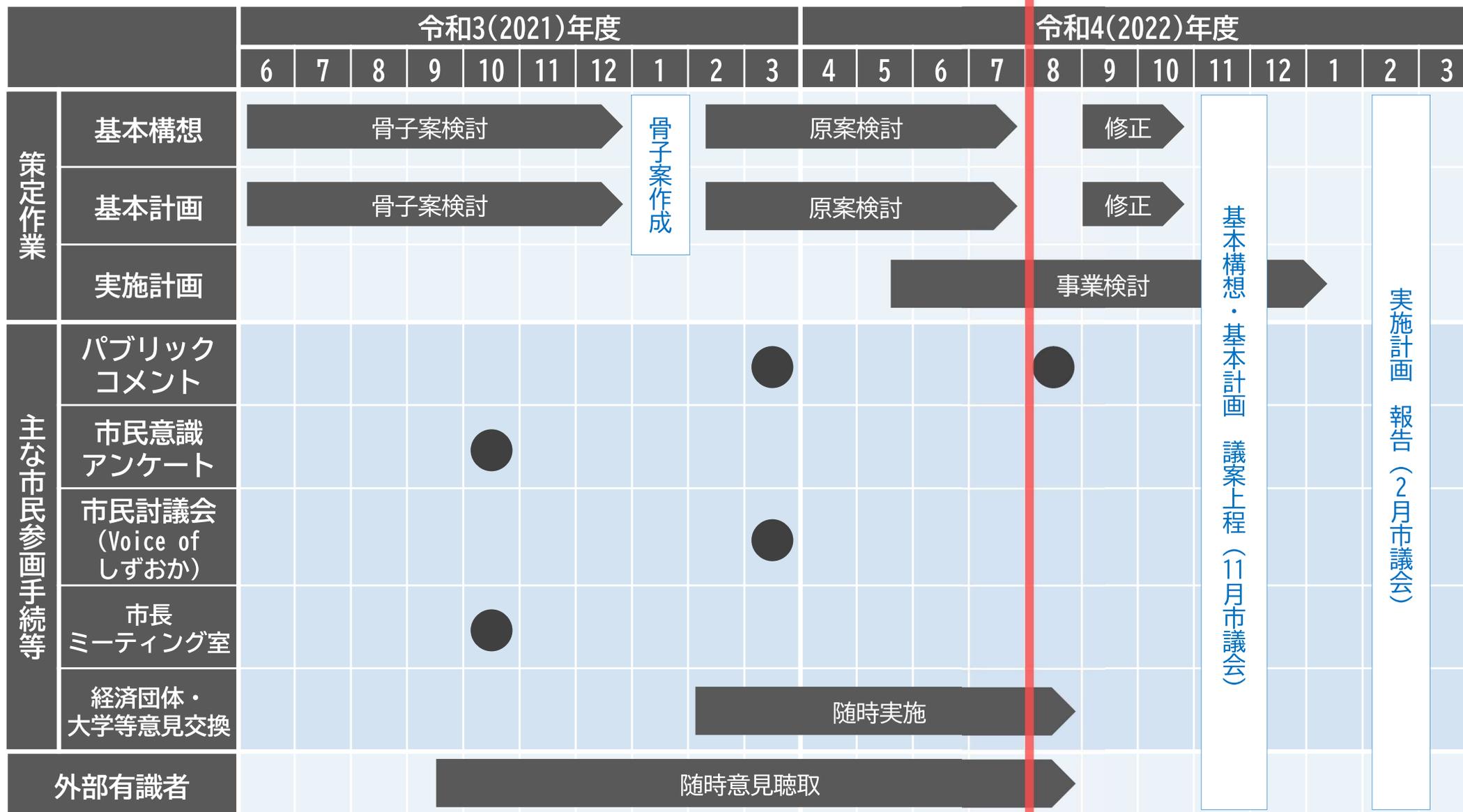
区民が地域課題の解決に主体的に取り組む活動を支援し、地域の魅力や価値を高めるまちづくりを推進します。

05 参考資料 - 4次総策定体制



05 参考資料 - 4次総策定スケジュール

今ここ



## 05 参考資料 — 時代の潮流／人口動態

### 時代の潮流

- 近年、環境、社会、経済など多方面において、世界規模の大きな変化が生じています。4次総の策定にあたっては、こうした変化やその影響を認識しながら、時代に即した取組となるよう、検討を進めていく必要があります。

#### 人口減少・少子高齢化

- 国の人口は2010年をピークに減少を始め、同時に急速な高齢化が進行しています。人口減少・少子高齢化は、地域活力の低下や経済活動の停滞などの影響を及ぼすことが懸念されます。
- 本市の人口は、国よりも20年早い1990年から減少を続けており、2020年の国勢調査では70万人を下回りました。移住促進など、人口の社会増のための取組を進めているものの、今後も更なる人口減少・少子高齢化は避けられないと見込まれます。

#### 激甚化する自然災害の懸念

- 近年、地球規模の気候変動に起因する豪雨災害などが頻発し、日本国内のみならず、世界各地で甚大な被害が生じています。
- 古くから南海トラフ地震による被害が懸念されている本市は、地震をはじめとした災害対策について先進的に取組を進めてきているものの、今後、更なる異常気象の増加や、それに伴う激甚災害が発生する可能性があることから、一層の対策強化が必要となっています。

#### 価値観・ライフスタイルの多様化

- 社会構造の変化、科学技術の進化などに伴い、人々の「豊かさ」の価値観や、求めるライフスタイルが多様化しています。また、「人生100年時代」と言われる中、65歳を越えても生き活きと働きながら暮らすことを望む高齢者が増加しています。
- 本市もこうした多様な市民ニーズに応えるための、きめ細やかな取組が求められています。

#### 公共施設のアセットマネジメント

- 全国的に多くの公共施設の老朽化が進み、更新の時期を迎えています。社会保障などの義務的経費が今後も増加する中、安定的な公共施設の老朽化対策を進めることが必要となっています。
- 人口減少、少子高齢化を見据え、単なる建替えのみならず、統廃合や廃止、民間活用などを視野に入れた、持続的なアセットマネジメントが求められています。

#### 多文化共生の推進

- 外国籍の住民の増加と定住化が進み、今後もその傾向は続くことが見込まれています。そこで、地域に暮らす人々が多様な価値観を認め合い、共に地域づくりをしていくことが求められています。
- 本市で生活するすべての人々が、互いの文化的違いを尊重し、相互理解と思いやりにあふれ、多様性を活かしたまちの実現が図られるよう、多文化共生のまちづくりを進めていく必要があります。

#### SDGsの推進

- 地球温暖化に伴う異常気象や自然破壊、貧困、格差、差別など、世界は未だ深刻な問題を数多く抱えています。これらに対応するため、2015年の国連サミットにおいて全会一致で採択されたSDGsは、日本においても多くの企業や個人の間で認知され、取組が進められています。
- SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」は、本市が目指す「『世界に輝く静岡』の実現」の考えにも通ずるものであり、持続的な市政運営を進めるため、まちづくりにSDGsの視点を取り入れていくことが求められています。

#### 新型コロナウイルスの懸念

- 2019年12月に中国で初めて確認された新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中に広がり、多くの命を奪う大流行となりました。また同時に、人々のライフスタイル、ビジネススタイルを大きく変える契機ともなっています。
- 本市においても、「2つのLife（生命(いのち)を守り、生活(くらし)を取り戻す）」のローガンのもと対策を講じており、まずは一日も早い感染終息を目指し、今後も取り組んでいく必要があります。

#### デジタル技術の進展

- 特に新型コロナウイルスの感染拡大以降、IoT、AI、次世代通信といった、社会におけるデジタル技術の進展が加速しています。
- 一方で、日本国内の行政活動におけるデジタル化の遅れなどの課題が顕在化しており、国は2021年9月にデジタル庁を発足させるなど、早急な対策を進めています。
- 本市も、国と歩調を合わせ、窓口手続などの行政のデジタル化、デジタルを活用したまちづくり、デジタル人材の確保などの取組を一体的に進めていくことが求められています。

#### 脱炭素社会の実現に向けた取組の加速

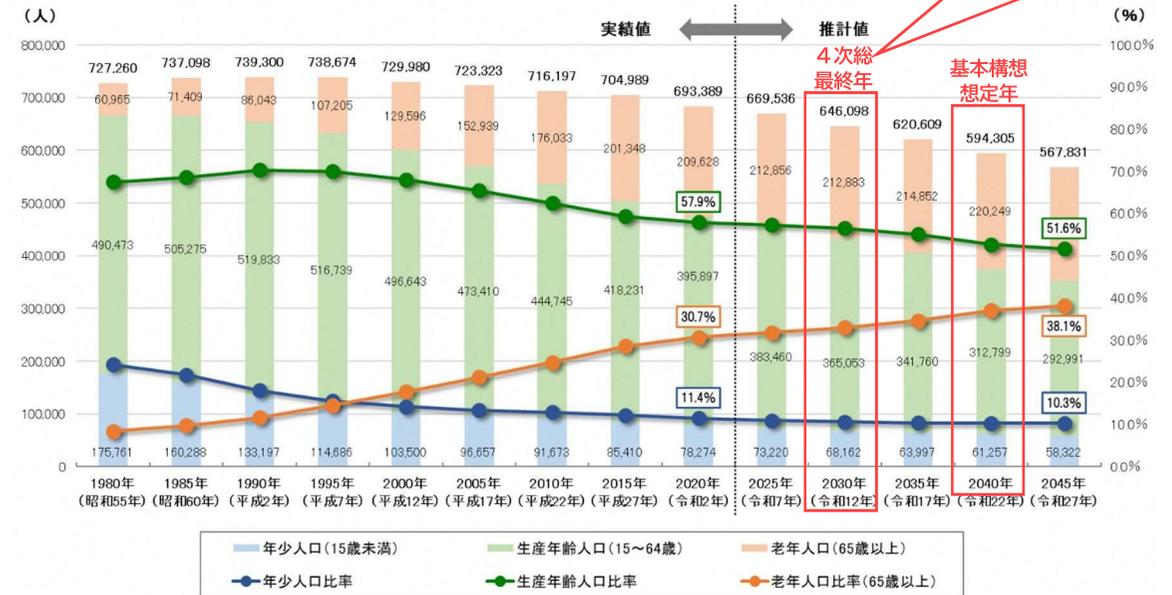
- 近年、気候変動に伴う自然災害が増加、激甚化する中、世界各国がパリ協定に基づき、様々な地球温暖化対策に取り組んでいます。
- 本市も2020年12月、2050年の温室効果ガス排出実質ゼロに向けて取り組んでいくことを静岡市議会において表明しました。今後、経済界や市民と連携し、具体的な取組を加速していくことが求められています。

# 05 参考資料 - 時代の潮流／人口動態

## 人口動態 ①

- 人口は、都市活力の源泉の一つであり、総合計画の策定にあたっては、将来の人口フレーム(人口規模)を想定しつつ検討していく必要があります。
- 国全体の急速な人口減少・少子高齢化が続く中、本市の人口は、平成29(2017)年の住民基本台帳登録人口、令和2(2020)年の国勢調査人口で70万人を下回りました。
- さらに国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の2018年の推計では、4次総終期である令和12(2030)年の本市の人口は646,098人となるなど、長期的な人口減少は避けられないと想定されています。

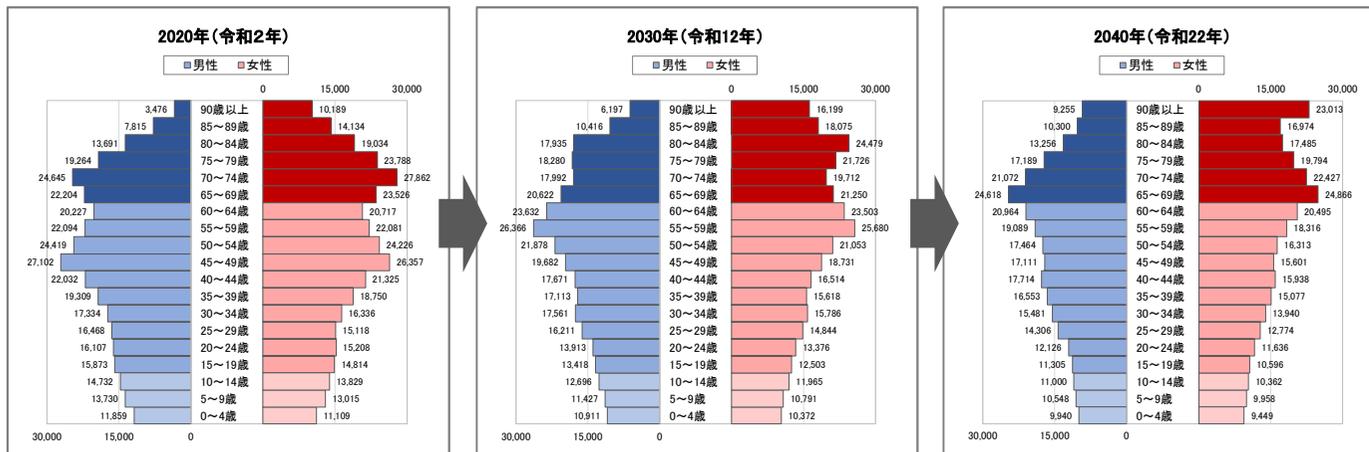
〔図1 静岡市の将来人口の予測〕



4次総最終年の推計人口は約65万人

〔出典〕 各年国勢調査(総務省)、日本の地域別将来人口推計(国立社会保障・人口問題研究所)

〔図2 静岡市の将来人口の予測〕



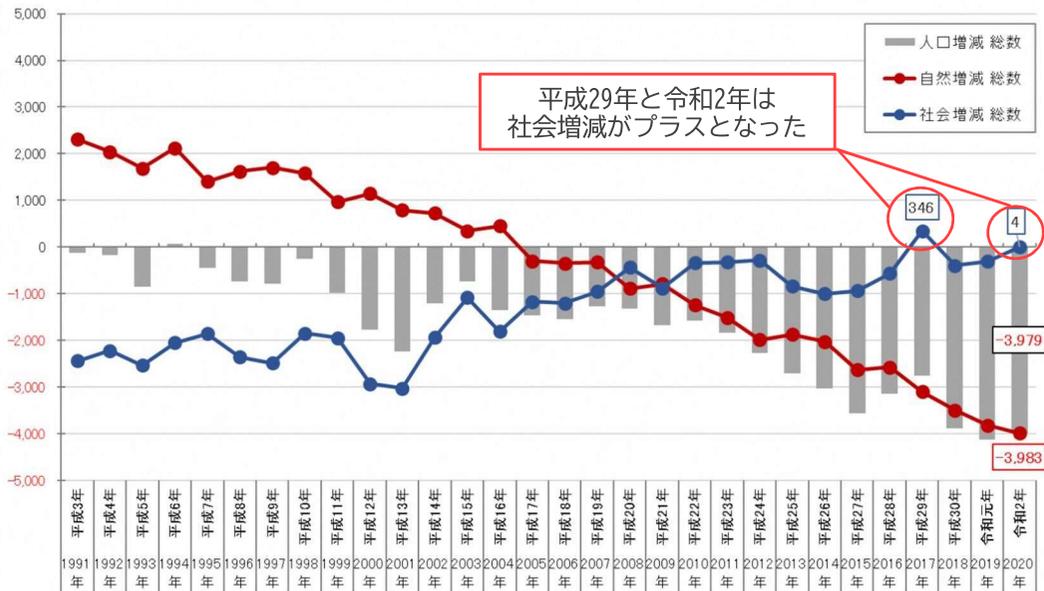
〔出典〕 令和2年国勢調査(総務省)、日本の地域別将来人口推計(国立社会保障・人口問題研究所)

## 05 参考資料 - 時代の潮流／人口動態

### 人口動態 ②

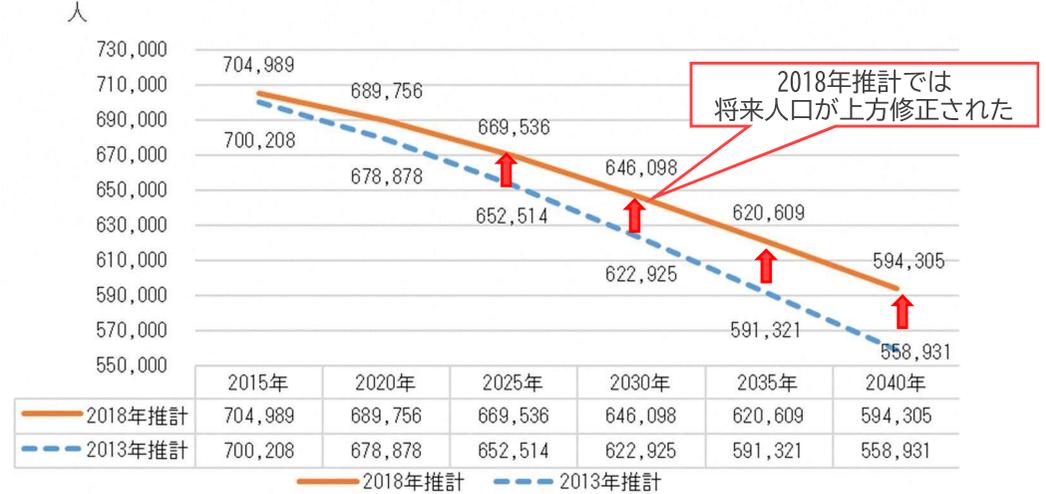
- 3次総期間においては、主に首都圏からの移住促進といった地方創生の取組などを進めてきた結果、平成29(2017)年と令和2(2020)年には社会増減がプラスとなりました。また、社人研の人口推計は、2013年時点と比較して2018年の推計が大幅に上方修正されるなどの成果が出ています。

〔図3 静岡市の自然増減・社会増減の推移〕



【出典】静岡市統計書

〔図4 静岡市の将来人口推計の変化〕

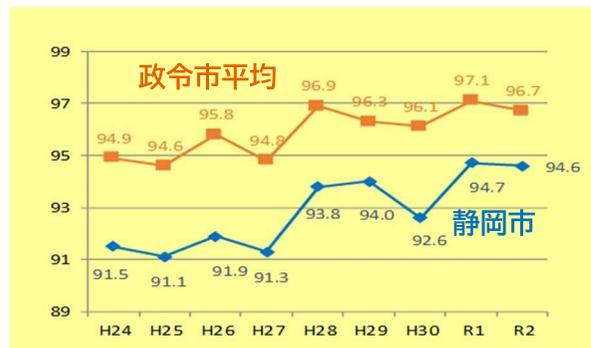


【出典】日本の地域別将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）

## 05 参考資料 — 財政状況

### 1 経常収支比率

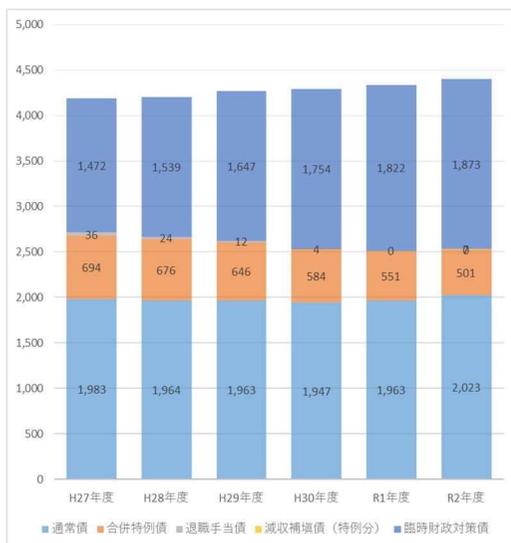
- 静岡市の経常収支比率は、政令市の平均値より低い数値となっており、財政の健全性が維持されている状況にあります。



※経常収支比率とは  
市税や地方交付税など用途が定められていない収入を、職員の給与、介護や生活保護に要する経費、借金の返済などの毎年決まって支出される経費に充てられる割合です。数値が低いほど、公共施設の整備や福祉などの行政サービスの実施に使える財源が多いことになります。

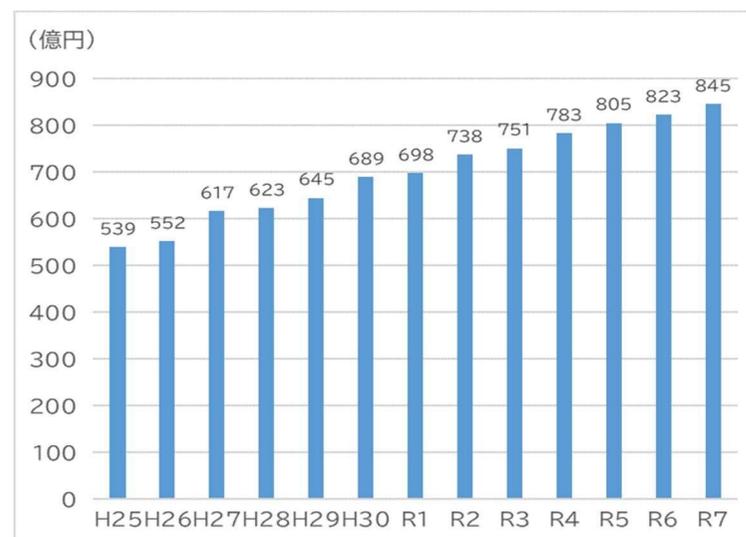
### 2 市債(市の借金)残高

- 3次総期間中には、臨時財政対策債を除く残高を抑制（2,713億円（H27）→2,527億円（R2））するなど、健全な財政運営に努めています。



### 3 高齢化の進展による影響

- 高齢化の進展に伴い、特に社会保障分野における支出が増加しています。
- 平成25年度に約539億円であった静岡市の扶助費は、令和4年度には約783億円(+約244億円)となっており、今後も同様のペースで増加することが見込まれています。

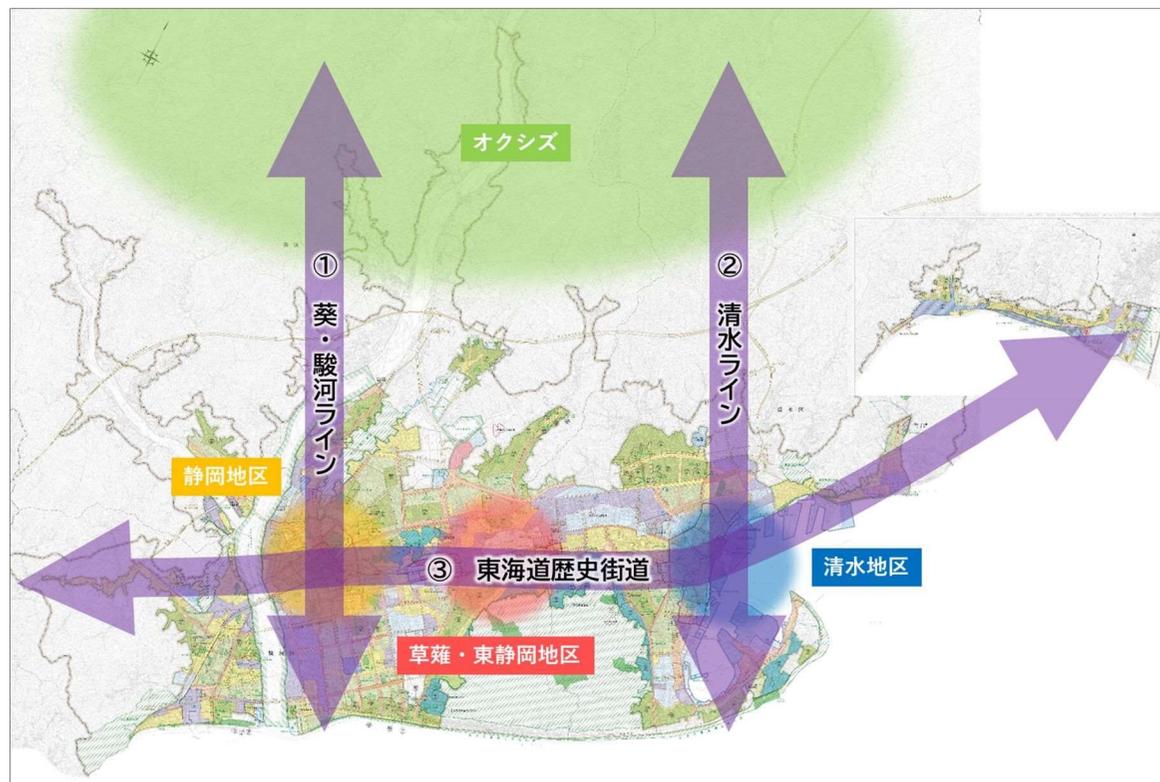


(グラフは全て、静岡市令和4年度当初予算公表時における財政の中期見通しを基に作成)

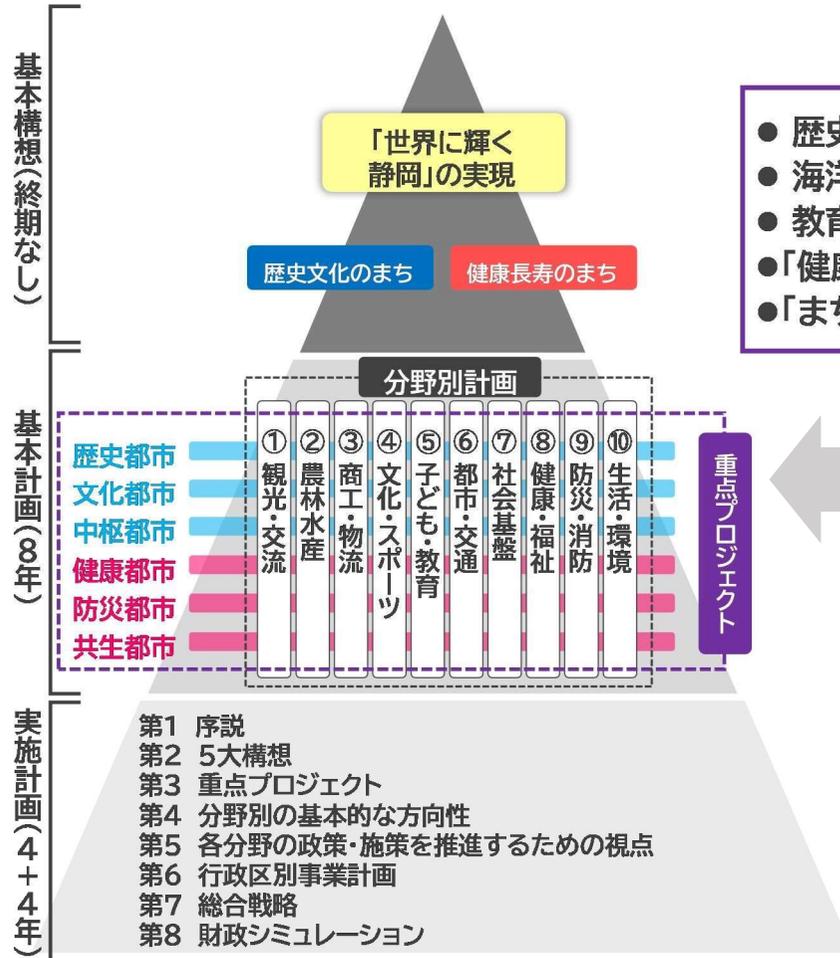
## 05 参考資料 － 都市デザイン

### 都市デザインの考え方

- ここでは、本市の地域特性を活かして、計画的に都市機能の集積や産業活動の活性化を図り、市域全体で均衡ある発展を目指していくための都市デザインの考え方を示します。
- 徳川家康公の時代に東西交通の要所として発展し、今も駿府城公園を中心に歴史の薫りが漂うJR静岡駅周辺エリアを「静岡地区」、特定重要港湾の清水港を擁し、本市の海の玄関口として発展してきたJR清水駅周辺エリアを「清水地区」と位置付けます。また、2つの地区の間に位置し、教育機能の集積など、新たな価値を生み出すポテンシャルを持つJR草薙駅・JR東静岡駅エリアを「草薙・東静岡地区」と位置付けます。さらに、南アルプスユネスコエコパークに代表される、雄大な自然の魅力をもつ中山間地エリアを「オクシズ」と位置付けます。
- また、これらのエリアをつなぐ軸を「葵・駿河ライン」「清水ライン」「東海道歴史街道」としてそれぞれ位置付け、ネットワークの強化を図っていきます。



05 参考資料 — 3次総の取組 ①



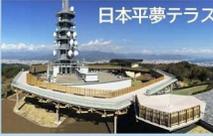
- 5大構想**
- 歴史文化の拠点づくり【静岡都心】
  - 海洋文化の拠点づくり【清水都心】
  - 教育文化の拠点づくり【草薙・東静岡副都心】
  - 「健康長寿のまち」の推進
  - 「まちは劇場」の推進



世界共通の目標「SDGs」を意識し政策を展開  
 ※ 静岡市は、H30年度に国の「SDGs未来都市」、国連の「SDGsハブ都市(アジア地域で唯一)」に選出

重点プロジェクト

05 参考資料 — 3次総の取組 ②

	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31/R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022(R4) ※予定
分野別の政策・施策等 主な出来事	<p>(観光・交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食の魅力PR(ミミ国際博覧会)</li> <li>家康公四百年祭</li> </ul>  <p>家康公四百年祭</p> <p>(子ども・教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認定こども園化へ</li> <li>結婚支援事業しずおかエンジニアリングプロジェクト スタート</li> </ul> <p>(都市・交通)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>江川町交差点横断歩道設置</li> </ul> <p>(社会基盤)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国道362号羽鳥・安西間4車線化</li> <li>JR安倍川駅駅舎・東西通路リニューアル</li> <li>JR安倍川駅リニューアル</li> </ul>  <p>(防災・消防)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>駿河消防新庁舎完成</li> <li>緊急情報防災ラジオ販売</li> <li>駿河消防署</li> </ul>  <p>(視点) 都市経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京都有楽町に静岡市移住支援センター開設</li> </ul>	<p>(観光・交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第18回日本スペインシンポジウム</li> </ul> <p>(農林水産)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>桜えびの人氣急上昇</li> <li>「お茶」国内外の販路拡大に向けたプロモーション</li> </ul> <p>(商工・物流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新幹線通学賞与と事業開始</li> </ul> <p>そうか「新幹線」という手があった!</p>  <p>独り暮らしか、それとも自宅から通うか。</p> <p>「新幹線通学賞与と事業」平成28年4月1日スタート!</p> <p>(文化・スポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「まちは劇場」プロジェクト始動</li> </ul>  <p>(子ども・教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>駿府城跡天守台調査開始</li> </ul> <p>(子ども・教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>静岡型小中一貫教育準備開始</li> </ul> <p>(社会基盤)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JR草薙駅リニューアル</li> </ul>  <p>(視点) 都市経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中部5市2町観光地域づくり法人「するが企画観光局」始動</li> </ul>	<p>(観光・交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>梅ヶ島温泉郷国民保養温泉地指定</li> <li>葵舟の試験運航</li> <li>清水港に年間最多の客船帆船寄港</li> </ul>  <p>清水港:客船誘致</p> <p>(農林水産)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「水わさびの伝統栽培」世界農業遺産認定</li> </ul> <p>(商工・物流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マッサーロ氏が初代静岡市お茶大使就任</li> <li>プレミアムフライデー開始</li> </ul> <p>(文化・スポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東静岡アート&amp;スポーツ/ヒロバ グランドオープン</li> <li>朝鮮通信使「世界の記憶」登録</li> </ul>  <p>(子ども・教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝鮮通信使「世界の記憶」登録</li> </ul> <p>(社会基盤)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県道 三ツ峰落合線にトンネル新設決定</li> <li>国道150号中島高架橋開通、静岡BP4車線化</li> </ul> <p>(健康・福祉)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉共生センターみなくるオープン</li> </ul>  <p>(防災・消防)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>港北消防署完成</li> </ul> <p>(視点) 都市経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs未来都市・ハブ都市選定</li> <li>TOKYOガールズコレクション開催</li> <li>しずおか中部イベントニュース「GOTO」創刊</li> </ul>	<p>(観光・交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カンヌ市と「政策研究に関する覚書」締結</li> <li>日本平夢テラスオープン</li> </ul>  <p>日本平夢テラス</p> <p>(農林水産)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「水わさびの伝統栽培」世界農業遺産認定</li> </ul> <p>(文化・スポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊臣期の天守・金箔瓦出土</li> <li>待機児童ゼロ達成</li> </ul>  <p>(子ども・教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>待機児童ゼロ達成</li> </ul> <p>(社会基盤)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県道 三ツ峰落合線にトンネル新設決定</li> <li>国道150号中島高架橋開通、静岡BP4車線化</li> </ul> <p>(健康・福祉)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉共生センターみなくるオープン</li> </ul>  <p>(防災・消防)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>港北消防署完成</li> </ul> <p>(視点) 都市経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs未来都市・ハブ都市選定</li> <li>TOKYOガールズコレクション開催</li> <li>しずおか中部イベントニュース「GOTO」創刊</li> </ul>	<p>(観光・交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今川義元公生誕500年祭</li> <li>清水港開港120周年</li> </ul>  <p>120th Anniversary PORT OF SHIMIZU</p> <p>(文化・スポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みほしるべ開館</li> <li>みほしるべ</li> </ul>  <p>(子ども・教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>待機児童ゼロ達成</li> </ul> <p>(社会基盤)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史博物館建設地に戦国末期の道と石垣発見</li> <li>日本平動物園50周年</li> <li>2年連続待機児童ゼロ</li> <li>小中学校で全員給食開始</li> </ul> <p>(都市・交通)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相乗りタクシー実験開始(MaaS)</li> </ul> <p>(社会基盤)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本平久能山スマートIC開通</li> <li>桜橋の架け替え工事開始</li> </ul>  <p>日本平久能山スマートIC</p> <p>(健康・福祉)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シニア向け就労相談窓口「NEXTワークしずおか」オープン</li> </ul> <p>(視点) 市民自治</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>静岡市多文化共生総合相談センターオープン</li> </ul>	<p>(観光・交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>静岡市歴史博物館 着工</li> </ul>  <p>歴史博物館</p> <p>(文化・スポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「弥次さん喜多さん駿州の旅」日本遺産に認定</li> </ul> <p>(子ども・教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3年連続待機児童ゼロ</li> </ul> <p>(都市・交通)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>駿府ホリノテラス完成</li> <li>シェアビル事業「PULCILE」開始</li> </ul>  <p>PULCILE (パルクル)</p> <p>(健康・福祉)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症ケア推進センター「かけこまち七間町」開設</li> </ul>  <p>かけこまち七間町</p> <p>(視点) コロナ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命(いのち)と生活(くらし)を守る「2つのLife」</li> </ul>  <p>いのち Lifeを守ろう くらし Lifeを取り戻そう</p>	<p>(観光・交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>葵舟の本格運航開始</li> </ul>  <p>葵舟</p> <p>(文化・スポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京2020オリンピック・パラリンピック 共生ホストタウン</li> </ul> <p>(子ども・教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4年連続待機児童ゼロ</li> </ul> <p>(都市・交通)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あさはた緑地交流広場オープン</li> <li>中部横断自動車道静岡～山梨間の全線開通</li> </ul>  <p>あさはた緑地交流広場</p> <p>中部横断自動車道開通</p> <p>(商工・物流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「コ・リエーションズ」開業</li> <li>駿府匠宿リニューアルオープン</li> <li>コ・リエーションスペース</li> </ul>  <p>コ・リエーションスペース</p> <p>(健康・福祉)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域・多世代交流型住宅「コリアン静岡南八幡オープン」</li> </ul> <p>(子ども・教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央図書館リニューアル</li> </ul> <p>(生活・環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2050年温室効果ガス排出実質ゼロに向けた検討の開始</li> </ul>	<p>静岡市歴史博物館オープン (開館予定: 2022年度)</p>  <p>静岡市歴史博物館</p> <p>大河ドラマ館の開館 (開館予定: 2022年度)</p>  <p>大河ドラマ館</p> <p>イメージ: 東京都北区大河ドラマ館(青天を衝け)</p> <p>静岡市民文化会館の再整備へ (開館予定: 2026年度)</p>  <p>静岡市民文化会館</p> <p>(仮称)海洋・地球総合ミュージアムの整備へ (開館目標: 2025年度)</p>  <p>(仮称)海洋・地球総合ミュージアム</p>
	時事	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全保障関連法が成立</li> <li>TPP交渉が大筋合意</li> <li>川内原発が再稼働</li> <li>戦後70年で安倍首相談話</li> <li>日本人科学者2人ノーベル賞</li> <li>ラグビーW杯で歴史的勝利</li> <li>国連サミットでSDGs が採択</li> <li>マイナンバー法施行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天皇陛下、退位の意向示唆</li> <li>熊本地震</li> <li>米大統領、歴史的な広島訪問</li> <li>安倍首相、真珠湾慰霊へ</li> <li>消費増税再延期</li> <li>日露、北方四島共同経済活動</li> <li>夏季リオ五輪過去最多41メダル</li> <li>エスパルス1年でJ1へ昇格</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天皇退位、2019年4月末に「共謀罪」法が成立</li> <li>九州北部豪雨 死者等41名</li> <li>将棋の藤井棋士が29連勝</li> <li>電通に有罪、働き方改革へ</li> <li>ミャンマーロヒンギャ難民</li> <li>国連、核禁止条約採択</li> <li>笑点司会者が春風亭昇太に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オウム松本元死刑囚ら刑執行</li> <li>西日本豪雨、北海道地震</li> <li>安倍首相「2島先行返還」へ舵</li> <li>冬季平昌五輪で過去最多13メダル</li> <li>働き方改革、外国人就労関連法</li> <li>日銀が政策修正、金利上昇容認</li> <li>「18歳成人」改正民法成立</li> <li>さくらももこ氏死去</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>元号が令和に改元</li> <li>消費税10%に、軽減税率導入</li> <li>台風・豪雨で甚大被害</li> <li>ラグビーW杯で列島熱狂</li> <li>首里城火災、正殿など消失</li> <li>東京池袋高齢ドライバー事故</li> <li>探査船はやぶさ2 リュウグウへ</li> <li>静岡学園全国高校サッカー優勝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ猛威、初の緊急事態宣言</li> <li>東京五輪1年延期</li> <li>九州で豪雨、死者多数</li> <li>「鬼滅の刃」大ヒット</li> <li>広がる新しい日常</li> <li>レジ袋有料化スタート</li> <li>菅首相が2050年カーボンニュートラル宣言</li> <li>ありり運転罪創設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス接種開始</li> <li>熱海市土石流発生</li> <li>東京2020オリンピック、パラリンピックの開催</li> <li>岸田内閣発足</li> <li>デジタル庁発足</li> <li>エンゼルス大谷選手二刀流でMVP</li> <li>オミクロン株の流行</li> </ul>

05

参考資料 — 用語集

※作成中

ページ	語句	説明	ページ	語句	説明
9	中小企業	中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条第1項に規定する中小企業者であって、市内に事務所又は事業所を有するものをいう。また、中小企業には同条第5項に規定する小規模企業者で市内に事務所又は事業所を有するものを含む。	13	MICE	Meeting（会議）、Incentive travel（報酬・研修旅行）、Convention（国際会議）、Exhibition/Event（展示会・イベント）の頭文字を使ったビジネスイベントの総称。
9	生産年齢人口	生産活動の中心になって支える人口のこと。経済協力開発機構（OECD）は15～64歳と定義している。	13	3つのグランドデザイン	「葵歴史のまちづくりグランドデザイン（令和4年3月策定）」、「駿河まなびのまちづくりグランドデザイン（令和3年3月策定）」、「清水みなとまちづくりグランドデザイン（令和元年7月策定）」のこと。各都心・副都心の特色を活かしたまちづくりの方向性を示すもの。
10	イノベーション	1912年に経済学者であるヨーゼフ・シュンペーターが提唱した概念。これまでにあったモノ・仕組みなどに対して、全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすこと。	14	マイクロツーリズム	地元や近隣地域などで観光をする近距離旅行のこと。
10	オープンイノベーション	2003年に経営学者であるヘンリー・チェスブロウ博士が提唱した概念。自社だけでなく、他社、大学、地方公共団体といった異分野、異業種が持つ技術やアイデアを組み合わせて、新技術の開発や新事業の創出等を図るイノベーションの方法のこと。	14	インバウンド	外国人が訪れてくる旅行のこと。
10	ロジスティクス産業	単に物を運んだり、補完するだけではなく、原料調達から製品販売までの物の流れを一元管理し、最適化を図ることで高付加価値を生み出す総合的な活動	14	DMO	Destination Management/Marketing Organizationの略であり、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。
11	(農林水産における)公益的機能	公益的機能とは水源の涵養（かんよう）機能の維持や自然環境の保全など農業生産活動・森林管理活動等が果たす経済的側面以外の外部性に関わる機能。	15	リカレント教育	生涯を通じて学び続けていくこと。社会人になった後も、必要なタイミングで教育機関や社会人向け講座に戻り、学びなおすこと。

05

参考資料 – 別冊資料

- 4次総骨子案（第1回パブリックコメント（R4.3実施）資料）
- 第1回パブリックコメント結果
- 市議会会派からの政策提言
- 市民意識アンケート（R3.9～10実施）結果
- 第4次静岡市総合計画の策定に向けたデータ調査及び分析
- 第3次静岡市総合計画 分野別計画の政策・施策評価結果



第4次静岡市総合計画

# 基本構想・基本計画 原案

「世界に輝く静岡」の実現に向けて

2022.7

Shizuoka City Comprehensive plan

静岡市 企画局企画課

TEL：054-221-1002 FAX：054-221-1295

Mail：kikaku@city.shizuoka.lg.jp

第9回策定会議(6/13)及び電子会議室(6/15～22)での意見への対応

No.	分野	意見	意見	対応
	全体	分野間の調整	分野別計画から(仮)重点的な施策群として再編されるのであれば、各分野同士が調整しあう必要があるのではないか。 (例)観光・交流分野のMaaS推進事業と、所管する都市・交通分野におけるMaaS基幹事業。	各分野同士の調整については、企画課と各分野で調整中です。
	全体	分野間の調整	7つの柱を見直した段階で、10の分野別計画と、5の重点的な施策群の外に経済活性化対策/産業経済の発展、自然災害対策・新型コロナ対策(2つのLife)/危機管理体制の強化の2点の枠組みがあり、分野別計画の中で、着実の取り組みを表現するとされている。各分野に、どのようなバランスで求めているのか、担当者と協議をお願いしたい。	分野ごとのレベル感については、企画課と各分野で調整中です。
	全体	分野間の調整	文化スポーツと観光交流は2つの分野に分けてやるのか。文化、スポーツ、観光の裏にはすべて交流がある。観光交流と文化スポーツは溶け合っている。交流という人を移動させる、域内外で人を動かす仕組みは経済に直結する。人口活力の維持として、その中で交流という言葉は文化政策、スポーツにどう反映するかということを考えていかなければならない。	分野横断的な重点政策において、文化芸術とスポーツによる交流に関する施策を取り入れていく方向で調整しています。観光交流、文化スポーツ分野における施策とも今後調整していきます。
	全体	政策の名称	政策名を読んだだけでは、施策の内容が分かりにくいものがある。政策名である程度中身がわかるようにしてもらいたい。	政策名について、各分野で検討していただくよう依頼しました。
	全体	表記	「総合計画」に記載する内容として、局ごと・分野ごとに、レベル感がまちまちであるように感じている。防災分野のように、計画的、着実に実施し、2030に向けて進める施策の他に、非常時の緊急対応をどのように書き分けるのか、全体のレベル感を調整してもらいたい。 分野別計画のレベル感、「現状と課題」の書きぶりを調整した方がよい。「現状」と「課題」について、課題欄に具体的課題を記述するものもあれば、目指す姿への方向性を記しているものもあり、或いは、現状の中に課題・問題を記載しているものもある。 基本的記載方法(一定の約束事)について、事務局の方で各部会に示すことができないか。	分野ごとのレベル感・書きぶりについては、企画課と各分野で調整中です。
	全体	表記	各分野別政策の「主な施策」に連なる事業の示し方は予算の事業名にするなど統一感を持った表記にしたほうがわかりやすい。	主な施策における事業イメージについては、企画課と各分野で調整中です。
	全体	視点	横断的な視点として、DXの推進、脱炭素社会の実現がある。DXについては複数の分野で施策として掲げられているが、脱炭素については限られる。ただ、脱炭素について身近な取組が広くなされると思われるが、この点については第4章で市民に横断的な取組であると理解されるような表現、見せ方がされると理解してよい。	横断的視点については、SDGs、DX、脱炭素を横並びではなく、SDGsが上段に来るよう見直しを行っております。市民への見せ方について、引き続き検討していきます。
	全体	用語	「安心」「安全」「快適」といったおなじみのフレーズ、「持続可能」といったキーワードが頻発しているが、くどくて頭に残らないので整理が必要。 「2030年の目指す姿」に、「安心」や「安全」、「持続可能」といった大きな概念で抽象的な言葉を使っている分野が見受けられるが、これらは分野としての目指す姿としては大きすぎるので、工夫が必要。また、農林水産と商工物流で「地域資源」がかがっているため、表現を工夫した方がいい。 「安全・安心」、「地域」、「にぎわい(賑わい)」など各局の計画でも頻繁に使用する語句が、横並びで記載された場合に違和感や、ぼんやり感を感じてしまう。 「地域資源」、「安全・安心」など同じ言葉であっても分野によって示すものが違う場合の読み手への共通認識の持たせ方や語順の統一感などの検討が必要。	用語の使い方については、企画課と各局で調整します。
	全体	用語の説明	全体を通して、カタカナやアルファベットの用語は聞きなれないものもあり、用語の説明が必要。パブリックコメントの際に、分からないことは自分で調べてから意見をくださいというわけにはいかない。 3次総にも用語の説明はあったが、今回の方がより多くの説明が必要な感じがする。説明する用語が多くなってしまうようなら、用語を置き換えてもいい。 例えば、「都市・交通」分野の「次世代モビリティ」が「次世代公共交通機関」に置き換えられるのならその方が読む人にとっては親切。「社会基盤」分野の記述は、あまり聞きなれない用語がなく、読みやすく感じた。ほかにも、「観光・交流」分野では、マイクロツーリズム、インバウンド、DMO、MaaS、「商工・物流」分野では、オープンイノベーション、「文化・スポーツ」分野では、リカレント教育、リスキリング、「子ども・教育」分野では、society5.0、ヤングケアラー、デジタルシチズンシップ教育、「都市・交通」分野では、エリアマネジメント、グリーンインフラ、次世代モビリティ、「健康・福祉」分野では、データヘルス、「生活・環境」分野では、グリーン電力、グリーン水素、ZEHなど。	用語は固有名詞を除いて、平易な文章に直すように、各分野へ依頼しています。固有名詞等でどうしても言い換えられない場合には、別添の用語集に追記することで対応します。
	全体	指標	局内での指標検討の際に、指標の「定性」は、数値で測れないものなので「農林水産分野」の③のように「オクシズ地域がにぎわっている」は定性だが、●●と感じる人の割合は、割合で測ることができるので「定量」指標である・・・という意見があった。	〇人、〇件など、きっちと数字として取れる指標と、市民アンケート等による指標の両方とすることで、量的な変化と、市民の意識の変化の、両方の側面から分野の評価をしたいと考えています。そのため、双方の指標を置いていただくように依頼していますが、指標については引き続き検討していきます。
	全体	指標	全体を見てアンケート結果等を目標指標に考えている計画が多いが、アンケートは性別、年代、地域等によって偏りがあり、また、母数の大小によっても結果は変わっている。さらに、目標数値の根拠も曖昧になるので、まずは定量的な指標を検討すべきと考える。	
	全体	目標	あまりに意欲的で高い目標を掲げるのも、市民が冷めてしまうので、現状をきちんと分析して、がんばれば2030年に達成できそうな目標を掲げることも大事。初めから達成が見込めない目標値だと、後々の人が苦労するのではないかと考える。もちろん、何か秘策があって十分達成できる可能性が高いということであればかまいませんが、単なるスローガンだったら避けた方がいい。	指標について各分野へ検討を依頼しています。
	全体	構成	最初に、全体的な話として、分野別計画の各シートの項目の配置についてですが、「分野における主要な政策」のコマワリ(読み順)が、政策①左上→政策②右上→政策③左下→政策④右下となっているが、シート全体が左から右への流れを主として構成されているところから、政策①左上→政策②左下→政策③右上→政策④右下の順番にした方が読み易いのではないかと。	パブコメの資料で取りまとめる際に全体調整を行います。

No.	分野	意見	意見	対応
	全体	経済対策	前回の第8回会議で7つの柱の見直しを検討し、その際、商工会議所等経済団体から要望の強い「経済対策」については、柱とはせず、分野別計画の中で着実に取り組むことを表現することにしたが、「商工・物流」分野以外、経済対策に取り組んでいくとの姿勢・思いが伝わる記述がない。「商工・物流」分野以外の全ての分野で網羅する必要はないが、例えば「都市・交通分野」や「社会基盤分野」では、交通環境の充実やまちづくりにより、企業進出の機会が増えるとか、道路ネットワークの拡充により、配送センターやロジスティックセンターの立地誘致に繋がるなど、経済対策への視点を積極的に表現すべきと考える。	今一度分野の中で、経済施策について組み込めるものがないか検討を依頼しています。
	全体	コロナ対応	コロナについて、消防防災だけでなく、各分野で考えて落としているのか。健康福祉では話があったが、現状対処療法的に対応してきているものを、10の分野にどう落とすのかという検討が必要。	新型コロナ対応については、防災・消防、健康福祉分野を中心に、各分野での書きぶりについて調整中です。 商工・物流分野では、コロナに関する記事を分野の役割、現状と課題に記載します。
1	商工・物流	内容	2030年の目指す姿中「豊かに経済成長を続けるまち」は豊かさとともに経済成長を続けるまちという捉えでよいか。 2030年の目指す姿「～豊かに経済成長を続けるまちを実現します」とあるが、「豊かに」が何を指しているのか、よくわからない。また、「成長を続ける」は「成長し続ける」の方が、わかりやすいのではないか。	ご指摘のとおりとなります。 4次総が、「『市民』が輝く」、「『都市（まち）』が輝く」という2つの大きな目標を10の分野で達成するという構成であることを踏まえ、【商工・物流】分野も2つの目標に寄与していくことを表現した記載となっています。 【商工・物流】分野は、単純な経済成長では測れない部分、例えば、商業における買い物やサービスの提供や、働きやすい就労環境の創出などにより、人々の豊かな暮らしを支えていく役割も持っているとの考えから、「豊かに経済成長を続けるまち」と表現しました。分野の役割を文章化するにあたり、上記の意図を組み込んだ表現としています。 「成長を続ける」 →「し続ける」ですと、下がることなく右肩上がりというイメージが強くなると考え、「成長を続ける」としました。社会経済情勢の変化による浮き沈みはありながらも、経済成長を続けることをイメージした表現となっています。
	商工・物流	内容	分野における主要な政策、政策①、主な施策の①について、「社会課題解決と経済成長の両立」の個別施策として産学官連携事業とオープンイノベーション創出事業を挙げているが、前者は社会課題の解決、後者は経済成長の施策のように思われる。両事業ともに二つの課題の両立を図るものなのか。「社会課題解決」を「経済成長」に結びつけるのは飛躍しているように感じる。	ご指摘のとおりであり、政策名、施策名を再検討しました。
	商工・物流	内容	政策①[主な施策]②の重点産業・分野(戦略産業)とは何か。	戦略産業については、第2次産業振興プランにおいて本市経済をけん引する力を秘めた産業を戦略産業と定義し、5つの産業を選定していましたが、時期プランで継続して使用するか未定のため、「本市産業特性の活用」と修正します。
	商工・物流	内容	指標③は、商工・物流関係に限定して、働きやすいと思う人の割合であるか。	業種で分けることを想定していませんでした。いただいた指摘を踏まえ、適切な指標を検討中です。
2	農林水産	内容	2030年の目指す姿に「持続可能な農林水産業を営めるまち」とある。課題②に担い手の育成・確保を挙げ、政策①「産業・産地を担う人材・組織の育成を推進します」の主な施策①②③で多くの事業が掲げられている。このことからしても分野を代表する指標に関連指標をいれるべきではないか。	農林水産分野において従事者が減少する中、担い手の確保と所得の向上に注力しており、機械化による効率化など経営感覚に優れた担い手を育成することで、1人1人の所得が上り力強い産業をつくりあげることを目指していることから指標を「1人当たりの販売額」とします。
	農林水産	内容	分野の役割：「公益的機能の保全・維持」が何を指しているのかわかりにくい。治山のことは？	水源の涵養（かんよう）機能の維持や自然環境の保全などを指します。 表現を「生活環境に必要な機能」に変更します。
	農林水産	内容	「分野の役割」中の「静岡市ブランド」の強化と「オクシズ」「しずまえ」の知名度の強化について、「静岡市ブランド」に「オクシズ」「しずまえ」も含まれているので、少し内容が被っているのではないか。	ご指摘のとおり「静岡市ブランド」に地域を含めた表現とします。
	農林水産	内容	現状と課題：③「～他市に負けない魅力をもっている。」とあるが「負ける、負けない」は各人の主観であり、ここに載せるには些か客観性を欠いているのではないか。「静岡市にしかないオンラインワンの魅力」のような表現にしたほうがいいのでは。	ご指摘のとおり「地域固有」との表現に変更します。
	農林水産	内容	課題⑦地産地消から始まり海外輸出を見込んだ消費拡大、⑧中部横断自動車道や清水港を活用した農林水産物の販路拡大とある。【商工・物流】分野には物流を支える社会資本整備の推進として、清水港の整備・中央卸売市場の充実があるが、【農林水産】分野でも中央卸売市場の更なる有効な活用は課題ではないのか。	共販や個販がある中で、中央卸売市場の活用は個人経営者の販路の1つであるため特出ししません。
	農林水産	内容	都市農業、都市農地の施策はないか。	明確な記載はありませんが、政策3の「地産地消の推進」などを都市農業の振興施策として整理しています。
	農林水産	内容	指標③に「豊かな自然環境の保全と経済活動が両立し、オクシズ地域がにぎわっている」とあるが、これは賑わっていると思っている人の割合なのか、指標の意図がわかりにくい。市民に分かり易い、定量的な指標があれば、そちらを設定した方がよいのではないか。	「オクシズ地域に住み続けたいと思う人の割合」としアンケート調査等により成果をはかりました。
	農林水産	内容	政策④中、「オクシズの地域資源」というキーワードでのくりがあるが、【観光・交流】の政策①の⑤などとの区分を整理すべきかと考える。第一義的には、【農林水産】分野では地域資源とはオクシズ産品が主になるような感じに思える。	農林水産分野においては「定住人口促進に向けた事業」であり観光分野においては「交流人口促進に向けた事業」です。 観光交流分野と農林水産分野で重複する部分について、観光交流分野と調整します。
農林水産	内容	担い手等の話は働きやすい以外にもやりがいがあるかどうか、そういったことも考えられるので検討してもらいたい。	農林水産分野において、農業分野については認定農業者に対しアンケート調査を実施しているが、水産業、林業ではアンケート調査を実施しておらず指標として確認をとるための手段がありません。無作為抽出による調査では1次産業の占める割合が少なく指標の管理が難しいため、意図に関する指標は設定しないこととします。	

No.	分野	意見	意見	対応
3	観光・交流	内容	課題⑤中、「都心・副都心」は、【都市・交通】分野の課題①の記載と合わせた方がいい。	【都市・交通】の表現を参考にし、都心の表記の順番など記載を変更します。（企画課と調整済み）
	観光・交流	内容	現状と課題が対になっているのかわかりにくい。 ① 世界に誇れる地域資源を有しており、国内外からの誘客が期待される。（現状） 地域資源をさらに磨き上げ、将来にわたり地域資源を活かす静岡市ならではのサービスの提供が求められる。（課題）←後段が誘客とつながっていないように感じる。	現状と課題がつながるように、ご意見を参考とします。
	観光・交流	内容	国内外からの誘客を静岡市に呼び込むためには、地域資源をさらに磨き上げ、その地域資源を活かすサービスの提供が必要である。（課題）	
	観光・交流	内容	⑥「3つのグランドデザイン」を記載する場合、説明が必要ではないか。	用語集に記載をし、言葉の意味がわかるようにパブコメ資料にて修正します。
	観光・交流	内容	政策①「国内外から選ばれる地域資源を活かした観光を推進します」の「国内外から選ばれる地域資源」がどのようなものか分かり難い。観光や交流に成果を上げる、また、食として人気があるものであれば選ばれる地域資源だと思うので、選ばれる地域資源という表現がもやもやする。「地域資源を活かした観光を推進します」でもよいのではないか。	「選ばれる」を「誇れる」に文言を修正し、わかりやすい表現に変更します。
	観光・交流	内容	政策①【主な施策】①・ナイトツーリズム推進事業は、世界に認められたどの地域資源を磨き上げる施策なのか。久能山東照宮、日本平夜景、駿府城石垣(世界に認められたとは)	ナイトツーリズム推進事業は、2016年8月に日本平が日本夜景遺産に認定されたことをきっかけに、夜景観光を推進する事業を進めています。当事業では、日本平からの夜景のほか、歴史博物館開館の開館など観光客の受入環境の向上が期待される駿府城公園エリアの整備（磨き上げ）を進める予定です。パブコメ資料にて表現も変更します。
観光・交流	内容	政策④は3つのグランドデザインを取り入れているが、どの部分をどう取り入れたのかを示した方がよい。全体が押し込まれているとなると、5大構想レベルの内容が1分野の1政策に位置付けられていることになり、違和感がある。また、まちの賑わいづくりを推進する、という表現だと、都市・交通分野でも、社会基盤分野でも当てはまってしまうのではないか。	【観光・交流】では、直接的に人々を呼び込み、賑わいを生み出す事業を入れています。（イベント等）これらの事業を、3つのグランドデザインごとで分けて、記載しています。これら地域の特色をいかした賑わいを創出し、まちなか同士で連携し、市域全体の活性化を図っていきます。	
4	文化・スポーツ	内容	2030年の目指す姿：「しずおか文化」の定義は、市民と共有されているか？	静岡市文化振興ビジョン策定以降、現在の文化振興計画や策定時のパブリックコメントで使用されてきている語句ですが、パブコメ用語集に定義を記載しました。
	文化・スポーツ	内容	分野の役割：2030年の目指す姿には「～スポーツ・学びを通して一人ひとりが輝き続けるまちを実現します」とあるが、ここでは、この分野の役割を「～地域の活性化を図る。」や「交流の活性化を図る。」としており、目指す姿と役割に乖離がある。	パブコメ用シートでは地域の活性化、居場所づくり、人づくりを推進することで標記のまちづくりを推進するとします。
	文化・スポーツ	内容	「分野を代表する指標」の指標①と指標②は、「分野の役割」に合わせて順序を入れ替えた方がよい。	そのように対応します。
	文化・スポーツ	内容	現状と課題：②は「～気軽にスポーツができる環境が整っていない。」より「～十分でない。」の方が良いのではないか。	パブコメ用シートには、近年、時間・場所を選ばず自分のペースでできるスポーツや、気軽に楽しめるスポーツの需要が高まっていることを挙げ、需要の変化に応じた環境の整備が必要とされている、という記載とします。
	文化・スポーツ	内容	現状と課題：③芸術文化を生かしてにぎわいをつくるというのは、「観光・交流」の分野になるのではないか。	文化スポーツ分野で言うにぎわいとは、経済効果により評価されるものではなく、個々の人々が活力を得て活動をしている状態や、人数に関わらず文化コミュニティが造成され、屋内やオンラインでの実施を含め、まちのあらゆるところで人が活動している状態を指しています。そのため、パブコメ用シートに記載する役割について、観光交流分野では地域資源を磨き上げ、国内外からの誘客による交流、地域経済の活性化を掲げる一方で、文化スポーツ分野では地域の活性化や居場所づくり、人材づくりを掲げています。
	文化・スポーツ	内容	分野における主要な政策：特に政策②については、「～にぎわいあふれるまちづくりを推進します」となっており、本市の文化政策は「にぎわいあふれるまちづくり」に読めてしまう。「観光・交流」分野との役割を明確にするとか、再掲にするなど整理が必要ではないか。	政策②に該当する課題として文化事業への参加機会や文化を通じた交流、文化活動を通じた居場所づくりの必要性を挙げることで、観光交流分野で言うにぎわいと差別化を図りました。
	文化・スポーツ	内容	[現状]⑤「市民の歴史に対する関心が高まっていない」の根拠はあるか。	「静岡市の歴史・文化を身近に感じることができるまちだと思ふ市民の割合」 H27:66.9% → H30:62.6% → R3:63.3%（市民意識調査）
	文化・スポーツ	内容	山に例えると、「スポーツ」は「誰もが」と表現されており、裾野を広げるようなイメージを感じた一方で、「芸術文化」は「大道芸」トップ芸能の山頂のような形で、政策の目指すところが違うように感じた。本来は、スポーツも芸術文化も富士山型でトップと裾野があるべきなのではないか。	パブコメ用シートでは裾野レベルにあたる事業イメージを「誰もが参加可能な事業の実施や、（以下略）」とし、市民一人ひとりに焦点を当てた表現にしました。また、トップレベルに触れる事業については、国内外への情報発信や交流による新たな文化の創造といった語句を用いて、パフォーマーやアーティストと市民が触れあう様子を表記しました。

No.	分野	意見	意見	対応
5	子ども・教育	内容	現状と課題：[現状]④。「～こども園、保育所、学校等～」とあるが、幼稚園が記載されていない理由はあるのか。こども園と保育所の記載があって幼稚園がないのは違和感がある。	幼稚園の他にも例えば小規模保育事業所や事業所内保育事業所など記載していない施設は他にもありますが、記載が多くなりすぎないようにするために「等」でまとめるという整理をしています。
	子ども・教育	内容	[現状]④中「新しい時代」の説明がどこにあるのか。どのような時代なのか。	「新しい時代」について、計画作成シートには明確な記載はありませんが、GIGAスクール構想といったデジタル化の一層の進展や、脱炭素社会、インクルーシブ教育育といった共生社会の実現に向けた動きなど、近年世間的にも注目がある動きを想定しています。パブコメシートに落とし込む際に「新しい時代」について補足します。
	子ども・教育	内容	課題④の「安全安心な保育・教育」という表現は、もう少し丁寧に表現した方が良いのではないかと思います。	パブコメシートに落とし込む際に文章で補足するなど、わかりやすい表現を検討します。
	子ども・教育	内容	分野を代表する指標：市民アンケートではない定量的な指標が必要ではないか。2030年の目指す姿に「すべての子ども～」という表現があるので、例えば不登校やいじめに関する統計（負のイメージでふさわしくないか）や、子どもでは待機児童数などかどうか。教育環境づくりを推進するという政策に対して、指標④として学力調査を指標とするのは、妥当か。	下記の定量的指標を設定します。 保育所等待機児童数（4/1及び10/1時点）及び放課後児童クラブ待機児童数（5/1時点）
	子ども・教育	内容	政策①「～子ども・若者を育成します」で「～子ども・若者の育成を支援します」となっていないが、政策②では「～支援を推進します」となっていて、「支援」することを推し進めていくのか。「～支援します」で良いのでは。	「支援します」に文言を修正します。
	子ども・教育	内容	政策③「しずおか総がかり」という言葉は、子育て分野では一般的か？そのまま市民に理解、受け入れられる言葉かどうか不明。総がかりなのは、人なのか機関なのか。施策を見ると課題③に対応する政策なので、課題の表現を活かしてはどうか。	3次総の子ども教育分野においても使用している表現であり、一定の理解を得られていると考えますが、パブコメシートにおいて、文章で補足するなどわかりやすい表現を検討します。 人と機関を含めてしずおか総がかりと表現しています。
	子ども・教育	内容	政策④「信頼される保育・教育環境づくりを推進します」の「信頼される保育」は「安心して任される保育」のような表現の方が良いではないか。今は信頼されていないと取れてしまう。	表現について検討しましたが、文部科学省や厚生労働省において、信頼される学校環境づくり、信頼される開かれた保育所づくりといった表現を使用していることから第9回策定会議時の表現（信頼される保育・教育環境づくり）とします。
子ども・教育	内容	議会からも意見がありましたが、いま市民の関心の高いところかと思うので、パブコメを行う際には、この分野が目を引くような見せ方（目指す姿や取組の方向性が伝わりやすいよう）の工夫が必要と考えます。	目指す姿については、3次総で掲げていた分野の役割を継承しつつ、「すべての」という表現を追加することで、誰一人取り残さないというSDGsの視点を追加し、さらに「夢や希望をもって」という表現を追加することで、3次総よりも高い目標を掲げています。すべての子ども若者が夢や希望をもって思いを込めており、3次総からの違いがわかるように表現をしていることから、目指す姿について修正は考えていません。 また、分野における見せ方等については、企画課とも連携して検討していきます。	
6	健康・福祉	内容	全員活躍がテーマに挙がっているが、どのように表現されているのかが分かりづらい。後から出てきた概念であるため、表現しきれていないように感じるため、更に検討してもらいたい。	ご指摘を踏まえ、地域福祉、高齢者福祉、障害者福祉等の幅広い分野で、全員活躍（就労・社会参加等）の視点を強化する方向であることを念頭に追記したいと考えます。
	健康・福祉	内容	医療・地域医療については、分野の役割、現状と課題、分野における主要な政策のいずれにも掲げられる重要な要素であるため、分野を代表する指標にも医療又は地域医療に関するものがあつた方がよい。	静岡県の後期アクションプランにおける「医療提供体制の確保・充実と健康寿命の延伸」の成果指標として、「壮年期（30～64歳）人口10万人当たり死亡数」、「がん検診受診率」、「特定健診受診率」等が挙げられており、健康寿命と別に、健康づくりや地域医療のアウトカム指標として、特定の疾病や取組ではなく、広くその成果をも包含する概念である壮年期・中年期の死亡数を設定することが適当と考えました。なお、死亡数は人口動態統計（毎年把握）、人口は住基データ（毎月把握）により算出するため、毎年計測可能と考えます。 ※静岡県は、住基データを保有していないことを踏まえ、死亡数は人口動態統計、人口は国勢調査により算出しているものと承知しています。
	健康・福祉	内容	指標②の書きぶりだと、自治会活動的なものも含まれるイメージを、もってしまう。【健康・福祉】分野という区分での指標としては、少し整理いただきたい。	市民局の政策との相違・関連に留意する必要性は理解しますが、自治会・町内会の活動も地域福祉活動として有力なものであり、地域共生・地域福祉の成果指標としてそん色ないものであると考えています。なお、3次総との連続性の観点からも、原案が適当であると考えます。
	健康・福祉	内容	分野を代表する指標：②互いに助け合う暮らしやすいまちだと思ふ市民の割合は、福祉サービスを受けている人や身近に感じている人と、そうでない人で全く違う回答になりかねない。アンケートによらない定量的な指標を設定すべきではないか。③も②と同じ理由でアンケートに寄らない定量的な指標を設定すべき。	本アンケートは数値で集計できる定量調査であると言われているものであると考えており、その上で、主観的な定量指標よりも、客観的な定量指標を設定できないかのご指摘を頂いたものと受け止めています。例えば、静岡県の後期アクションプランの「地域で支え合う安心社会づくり」の成果として「就労支援事業等に参加した者のうち、就労した者及び就労による収入が増加した者の割合」が挙げられ、県の地域福祉支援計画の指標に「誰もが暮らしやすいまちづくりがすすんでいると感じる市民の割合」や「市民の地域活動への参加状況」が挙げられています。就労や地域活動に関する客観指標を設定することも考えられますが、原案は、県で設定されている指標とも共通していますし、幅広く地域共生・地域福祉の取組の成果を示すものとして適当であると考えました。この指標は、第3次総合計画におけるアウトカム指標としても採用したものであり、長期的な比較も可能になるという長所もあると考えました。 なお、個別の施策・事業レベル等での定量的なKPIによる進捗管理の必要性は認識しています。
	健康・福祉	内容	現状と課題：[現状]①文中、「今後の継続意欲」とあるが、継続意欲は今後どうするか、という意味なので「今後」は削除した方がよいのではないかと。	パブコメ用資料の中で文章全体を整理・修正します。
	健康・福祉	内容	現状と課題：政策①の「すべての人が安心して共に暮らせる地域社会を実現します」は、地域福祉分野での政策名との説明であったが、健康・福祉分野以外でもいえることなので、検討してもらいたい。	政策名に対する全体の御意見も踏まえ、施策・事業の内容が想像しやすいよう表現を修正しました。 なお、政策①における「地域共生社会」の考え方は厚生労働省が掲げるビジョンで、2016年の一億総活躍プランに盛り込まれ、改正社会福祉法等により推進されているものであり、地域福祉分野を象徴するものと考えています。

No.	分野	意見	意見	対応
7	都市・交通	内容	「分野の役割」の②の「人中心のまちづくり」のまちづくりは市全体のことでなく都心のことを指しているように思われるが、それならば、「都心づくり」の方がよい。	都心のみを指しているものではないため、現行通り「まちづくり」とします。
	都市・交通	内容	環境負荷軽減については、SDGsの7に結びつくのではないかと。	関連するSDGsのゴールに7を追加します。
	都市・交通	内容	「現状と課題」の「現状」の③に対応した「課題」がないように思われる。公園の不足と新たな利活用のニーズは別物だと思うので、「公園が不足する一方で新たな利活用のニーズが生まれている」とした方がよいのではないかと。	現状③に対応する課題を追加します。現状について、「公園が不足する一方で、利活用について新たなニーズが生まれている」とします。
	都市・交通	内容	政策①と政策②の主な施策に似通ったものがあるが、それでいいかと。	政策①は都心・副都心を、政策②は草薙や大谷・小鹿地区、その他の地域での施策となります。対象とする地域が違っても、どちらにも共通する主要な施策であるため、記載しています。事業イメージについては、修正をします。
	都市・交通	内容	政策④は、【社会基盤】分野と重なる部分があるのではないかと。	ご指摘のとおり重複する部分もあるかと思いますが、都市・交通分野では公園や建築物等の「住環境」に係るものが主な施策となっております。
8	社会基盤	内容	環境負荷軽減については、SDGsの7に結びつくのではないかと。	SDGsのゴールに「7エネルギーをみんなに そしてクリーンに」を加えます。
	社会基盤	内容	[現状]⑤「建設業では、近い将来に高齢従事者の離職増加が見込まれる中、それを補う若手入職者の数が不十分。」とあるが、この根拠は何か。	建設業は全国的に60歳以上の従事者が占める割合が高いため、10年後には多くの人が離職することが想定されるのに対し、10～20代の従事者が少なく、年齢構成のバランスが悪いことが国土交通省の資料で示されていることから、このような記述としました。
	社会基盤	内容	「現状と課題」の「課題」の②と③は、「現状」の順序と合わせるため、入れ替えた方がよい。	パブリックコメント用のシート作成にあたっては、ご指摘を踏まえて整理・文書化していきます。
	社会基盤	内容	現状と課題：⑤「～若手入職者の数が不十分。」は「担い手が不足している。」の方がわかりやすいのではないかと。「入職者」は、あまりなじみがない。	「入職者」の表現を止め、「従事者」「担い手」とします。
	社会基盤	内容	現状と課題の②、③は現状と課題間で釣り合っていない。ちぐはぐになっている。環境への対応として、政策には脱炭素社会について記載はあるが、現状と課題には記載がない。社会基盤にも求められているトピックであると感じるため、それに対応する文言が課題にあっても良いかと思う。	パブリックコメント用のシート作成にあたっては、ご指摘を踏まえて整理・文書化していきます。
	社会基盤	内容	指標②は、この分野の指標として適当かどうかがよくわからない。イメージ的には、中部横断自動車道の開通のように、特定の道路だけ大きく変動する数値のように思えてしまう。何か「整備、改修状況」などなら、イメージが違うかと。	指標2については、道路整備の効果をわかりやすく市民に示すものとして検討したもので、4次総期間内で整備を予定している市内の主要幹線道路における整備前後の時間短縮を積み上げる形で表すことを想定しています。
	社会基盤	内容	分野における主要な政策：政策の表記の仕方は、他の分野とそろえたほうが良い。政策②の③。BIM/CIMは語句説明が必要。全体でも書いたが、施策の事業は予算の事業名にするなどの統一感を。	政策については他の分野とそろえた表記に見直します。施策名の書きぶりについては、企画課と調整します。
社会基盤	内容	政策④は、【防災・消防】分野と重なる部分があるのではないかと。	防災・減災の観点から社会基盤の強靱化や早期復旧に向けた体制づくりを行うもので、3次総から引き続き取り組む政策となります。	
9	防災・消防	内容	2030年の目指す姿：「安全・安心に暮らせるまち」ではなく「安全で安心して暮らせるまち」としてほしい。	文章表現上、前後の文言との整合性も関わってくるため、今後の検討事項としています。
	防災・消防	内容	「課題」の②中「確実に」は、内容の確実性のほか、時期の適切さもあると思うので、「的確に」の方がよい。	各政策及び「現状と課題」とともに、大幅な修正がかかったため、パブコメ資料では、この表現がなくなっています。
	防災・消防	内容	指標③は、この分野を代表する指標として、適当かどうか不明。	消防分野に関する指標を設定するにあたっては、業務の性質上、火災や救急事案が発生していることが前提となるため、非常に難しい部分があります。求められるのは、出動すること、現場へ到着することではなく、人命救助を最優先に現場でどれだけ適切に対応できたか、であるため、最終的にこのような表現となりました。
	防災・消防	内容	現状と課題：3次総では、課題として「感染症など様々な危機への懸念」を課題としていたので、コロナ禍をこの懸念が現実化したもの捉え、4次総でコロナ対応を検証したうえで次に同様の感染症危機に対応するための施策を講じるようにしてはどうか。	
	防災・消防	内容	危機管理の対応として、政策④「あらゆる危機への体制整備」が最初に来るべきではないかと。その後各論が来るのではないかと。危機管理についての大局観が必要ではないかと。	パブコメ資料では「分野の役割」・「現状と課題」・政策1において「あらゆる危機」として捉え、大規模自然災害や武力攻撃事態と同様、強靱な危機管理体制を敷くものとして位置付けています。
	防災・消防	内容	分野における主要な政策：政策④ あらゆる危機への体制整備を推進します。⇒パンデミックへの危機対応体制を推進します。（例えば、4次総前期の政策として）	

No.	分野	意見	意見	対応
10	生活・環境	内容	自然については、2030年の目指す姿、分野の役割、現状と課題、分野における主要な政策のいずれにも掲げられる重要な要素であるため、分野を代表する指標にも自然を守るものがあった方が良くと思うがどうか。	指標「身近に犯罪がなく、安心して暮らせると感じる市民の割合」を「刑法犯の認知件数」に修正します。 「環境に関するボランティア活動に参加している市民の割合」を指標に追加します。
	生活・環境	内容	目指す姿「人と自然が共生し、将来にわたり豊かな営みを続けられるまちを実現します」を直接的に対応しているものとして、政策②「豊かな自然や暮らしの環境を守り、次世代に繋げます」というものがあるが、分野を代表する指標に人材育成等の指標がないため、入れた方がいい。	
	生活・環境	内容	分野を代表する指標：③については、調査の直前に凶悪な犯罪があると市民の意識に偏りが出る可能性が高い。刑法犯認知件数などアンケートに寄らない定量的指標を設定すべきではないか。	
	生活・環境	内容	指標として脱炭素の指標があるが、市民1人のアクションが脱炭素に資するようなものを指標などを検討してもらいたい。	総合計画における指標としては検討いたしません。別途地球温暖化対策実行計画等で示していきます。
	生活・環境	内容	静岡市は分別が緩く、他都市で分別が細かいところのように、見直していくべきではないか。ごみを出さない取組は、料金を上げるなど、思い切った方向性を考えても良いのではないかと。ゴミは、8年に1度話を見直す大きな機会であり、市民の利便性の向上とごみの減量という課題をどう語るか、静岡型は何かという理念を考えてもらいたい。	現在改定作業中の次期一般廃棄物処理基本計画の中で検討していきます。
	生活・環境	内容	分野における主要な政策：政策④の③は持続可能な社会の形成とのことで、「エシカル消費」について施策に入れるべきではないか。	「エシカル消費」は分野別作業シートの「地域や学校での消費者教育の普及啓発」に内包しており、記載のレベル感を合わせるためにも特出して記載はいたしません。エシカル消費の推進については、現在改定中の「消費生活基本計画」の中で示していく予定です。
11	区役所の取組	内容	(区役所の取組)が、今後どのように総合計画の中で扱われるのか不明だが、3次総合冊子の付属資料に(各区の取組)があり、今回(区役所の取組)になったとすれば、単に区役所という市組織の役割を総合計画に項目立てしてまで、記載することに違和感を感じる。市が今後8年間で、行う市政運営又は経営の方針は第6章までで方向性は示されており、区役所の役割を入れるとしたら、分野別に「区政」として入れるべきではないか？(しかし、本市では区政という言葉は死語になっているのかも) 2次総では、「区別計画」として、各区を市が総合計画においてどのような将来ビジョンを持ち、どのような事業を行っていくのかを掲載されている。本来、市民に計画で示すべきは、一組織の区役所が何を考え、何をを行うのではなく、それぞれの区を総合計画の8年間でどのような「まち」にしていくのかを各区の区民に示すことができる、区別計画のような記載がいいのではないかと。その中に、今回各区が出した資料から各区の目指すビジョンが導き出されるのではないかと。	区役所の主体的な取組を取り上げるという意図で、項目立てを行い記載をしています。総合計画中の位置づけについて、項目の表現を含めて検討していきます。

## 1 広報について

手法	実施予定時期	内容
市ホームページへの掲載、各施設への資料配架	8/1～8/31	通常のパブリックコメント時の手続に沿って実施
広報しずおか	8月号	パブリックコメントの実施、シンポジウムの開催について周知
市長定例記者会見	7/22	4次総原案の概要、パブリックコメントの実施及びシンポジウムの開催について市長から説明
市公式Twitter	8/1・8/15頃	公式Twitter投稿による市HPへの誘導
市公式LINE	8/1・8/15頃	公式LINE投稿による市HPへの投稿
ケーブルテレビ	8/1～8/31	15秒程度のスポットCMを放映
区役所・金融機関ロビー	8/1～8/31	15秒程度のスポットCMを放映

## 2 関係者への周知について

場面	実施予定時期	内容
市議会	7月	市議会各会派へ説明
各区自治会連合会	8月	8月に開催される理事会において周知
経済団体	7月～8月	静岡商工会議所、静岡経済同友会へ周知（会議等に参加し説明）
大学	7月～8月	市内大学への周知（ワークショップ形式で意見交換）
高等学校	7月	市内高等学校への周知（ワークショップ形式で意見交換）
企業	7月	SDGs宣言企業、包括連携協定締結企業への周知（メールでの周知）
ここにわ通信	8月上旬	「ここに」修了生へのメルマガ配信
市民活動センターメールマガジン（番町・清水）	8月上旬	NPOへのメルマガ配信

▶ 上記の他、各局・各区が7～8月に実施するイベント等において周知が可能であれば、ご協力をお願いしたい。



## 4次総策定に関するシンポジウムの開催について

### 1 目的

4次総を広く市民に周知するため、有識者等を招いたシンポジウムを開催する。幅広い市民に興味を持ってもらうため、特に、これからの将来を担う若い世代をターゲットとした内容とする。

併せて、8月に実施する2回目のパブリックコメントのPRを行う。

### 2 シンポジウムのテーマ

4次総で重点目標として掲げている「人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする」を実現するため、『人口活力』とは何か、高めるためにはどのような取組が必要なのか、をテーマにディスカッションし、シンポジウムの参加者との意識の共有を図る。

### 3 シンポジウム内容趣旨

#### (1) 基調講演

- ・一般社団法人 INSPIRE 代表理事を務める谷中修吾氏に、人口活力を高めるための作戦についての講演をいただく。

#### (2) パフォーマンス

- ・日頃、市政にあまり興味・関心がない方にも4次総を知ってもらうきっかけとして、文化芸術を活用し、静岡市の魅力などを表現しているラウドヒル計画(ノーボーダーズ)によるパフォーマンスを実施する。

#### (3) パネルディスカッション

- ・人口活力を高めるためには、静岡の特徴を活かした取組が不可欠であることを踏まえ、「静岡らしさってなあに？」をトークテーマとする。
- ・パネリストについては、これからの担う若い世代に対して、4次総に興味を持ってもらうため、現役世代など若い人を中心に構成する。
- ・トークテーマとする「静岡らしさってなあに？」について、日頃から本市の魅力を発信や、ビジネス展開している市内の企業経営者などをパネリストに招き、静岡市の隠れた魅力やポテンシャル、また、課題などについてコメントしていただく。

パネリスト		所属	選出理由(期待する発言)
静岡市長	田辺 信宏		
有識者	谷中 修吾		
市内で活躍する人	竹内 佑騎	(一社)日本医食促進協会 (株)竹屋旅館	・観光×健康(食のバリアフリー化) ・清水市出身の静岡市への想い
	栗山 勝訓	駿河重機建設(株) スルガノホールディングス	・まちづくり全般に携わる視点 ・トライアルパーク蒲原の仕掛け人
	永松 典子	静岡市教育委員 (株)静岡編集舎	・観光企画運営に携わる視点 ・県外、海外から見た静岡市の魅力
	西 美有紀	草薙カルテッド Takt	・若い世代のまちづくりへの興味・関心 ・移住者の視点としての静岡市

# 第4次静岡市総合計画策定に関わるシンポジウム

～人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする～

日時：令和4年8月6日（土）  
13：00～15：00  
会場：しずぎんホール  
ユーフォニア

## 次 第

<司 会> 鬼頭 里枝

<第1部> 60分

- 1 市長あいさつ
- 2 第4次静岡市総合計画について
- 3 基調講演（谷中修吾氏（オンライン））  
『人口活力を高めるための作戦』
- 4 パフォーマンス（ノーボーダーズ）  
『静岡市をダンスや演劇で表現』

<休 憩> 10分

<第2部> 50分

- 1 パネルディスカッション  
【トークテーマ案 静岡らしさってなあに？】  
市長  
谷中 修吾 氏  
栗山 勝訓 氏  
竹内 佑騎 氏  
永松 典子 氏  
西 美有紀 氏

計 6名

# 静岡市の未来が ここから見える

第4次静岡市総合計画策定シンポジウム

～人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする～



# 第4次静岡市総合計画策定シンポジウム

～人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする～

総合計画とは、地方自治体が総合的、計画的に行政運営を行っていくための最も基本となる計画です。長期的な視点に立ち、まちの目指す姿を定め、その実現に向けた取組などを示す、いわばまちづくりの羅針盤の役割を担うものです。

今回のシンポジウムでは、これから静岡市が目指すまちの姿について共有することを目的としています。

この機会に、ぜひ皆様の声をお聞かせください!

令和4年 **8月6日** 土 13:00~15:00  
[12:30 開場]

会場 **しずぎんホールユーフォニア**  
(静岡市葵区追手町1-13 アゴラ静岡8F)

参加費 **無料** オンライン参加OK  
(会場定員200名、先着順、要申込)

## プログラム

【第1部】 60分

- 1 開会
- 2 第4次静岡市総合計画について
- 3 基調講演
- 4 パフォーマンス

【休憩】 10分

【第2部】 50分

- 5 パネルディスカッション  
テーマ  
「静岡らしさってなあに??」  
パネリスト  
田辺 信宏 (静岡市 市長)  
谷中 修吾 氏 (BBT大学 学科長・教授)  
栗山 勝訓 氏 (駿河重機建設(株) 代表取締役)  
竹内 佑騎 氏 (株)竹屋旅館 代表取締役社長)  
永松 典子 氏 (株)静岡編集舎 代表取締役)  
西 美有紀 氏 (一社)草薙カルテッド事務局)
- 6 閉会

## 基調講演 谷中 修吾

BBT 大学 経営学部グローバル経営学科  
学科長・教授 / BBT 大学大学院 MBA 教授

地方創生イノベータープラットフォーム  
「INSPIRE」代表理事



静岡県湖西市出身。ビジネスプロデューサー／クリエイティブディレクター。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻卒。外資・戦略コンサルティングファーム Booz Allen Hamilton にて、政府機関・民間企業の戦略立案・実行支援を経て現職。国内最大級の地方創生イノベータープラットフォーム「INSPIRE」を立ち上げ、超絶まちづくりの集合知を社会にシェアする取組を展開。地方創生分野において、内閣府、総務省、環境省、農林水産省、文部科学省で有識者を務める。著書『最強の縄文型ビジネス』（日本経済新聞出版社）で、1万人のビジネスリーダーが選ぶ「TOPPOINT 大賞」にてベストビジネス書として受賞。

## パフォーマンス シズオカノーボーダーズ

静岡市民文化会館の展開している「ラウドヒル計画」のもと、障がいのある参加者と健常者の有志で構成されるチーム。文化芸術のバリアフリー化を目指し、ダンスカンパニー「コンドルズ」の指導のもと、オリジナルのダンスパフォーマンス作品を創作・発表している。2021年には、彩の国さいたま芸術劇場開催の障がい者ダンスチーム「ハンドルズ」公演にも招待され、映像出演(コロナ禍のため)を果たしている。

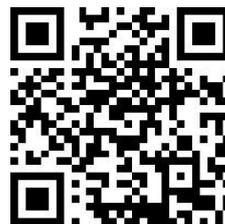


司会 **鬼頭 里枝** アナウンサー

お申し込み

右記二次元コードよりお申し込みください

URL <https://logoform.jp/f/Hy3sl> ※電話からもお申し込みできます。



■ アクセス

公共交通機関または近隣の有料駐車場をご利用の上、お越しください。

■ オンラインの  
視聴方法

「Zoom」でのオンライン開催を予定しております。  
オンライン希望者には、後日お申し込みいただいたメールアドレス宛にID、パスワードをお送りします。

お問い合わせ

静岡市役所 企画局 企画課 〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号 TEL:054-221-1002

